

授業科目名	心理学		担当者名	田多 英興			
			実務経験				
教科書	自分でできる心理学 宮沢秀次他編著ナカニシヤ 出版 配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	人文科学の代表として心理学の基礎的入門的知識の習得を目指す。「心理学とは何か」の心についての伝統的な非科学的理解から近代の科学的理解に至る過程の理解を基礎にして、知・情・意の諸側面について現代到達している科学的理解を深める。						
学習到達目標	PTの養成課程の中で、Cureとしてのハードウェアの諸科学の基礎的理解の上に、将来の臨床現場における患者対応のためのCareとしてのソフトウェアの代表として心理的諸問題についての基本的理解を目指す。						
評価方法	出席率・レポート・試験の結果を総合的に評価する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	心理学とは：「こころとは何か」に関する歴史			ブシケーなどギリシャ時代以来のこころの概念の歴史を説明できる。			
2	心理学の成立：「魂なき心理学」			心理学が科学として成立した背景を説明できる。			
3	20世紀の心理学： Gestalt、行動主義、精神分析			20世紀に達成した心理学の諸学説を説明できる。			
4	心理学の研究対象と方法： 行動・意識・無意識			心理学の研究対象とその方法について説明できる。			
5	認識のしくみ-1： 世界を知る：感覚・知覚・認知			刺激とは、適刺激・不適刺激・感覚過程の基本問題を説明できる。			
6	認識のしくみ-2： 感覚の諸問題：視覚とその他の感覚			感覚様相、5感、視覚優位、視覚を中心にした知覚過程を説明できる。			
7	知覚の諸相-1： 知覚の諸問題			体制化、錯視、空間の知覚、運動の知覚などを説明できる。			
8	知覚の諸相-2： 認識機能＝認知			最高次の認知、文化的要因、個人的要因の影響を説明できる。			
9	新しく学ぶ-1： 生得的行動と学習行動			動物としての人間の理解と独自の学習行動を説明できる。			
10	新しく学ぶ-2： 古典的条件づけと道具的条件づけ			応答的行動と自発的行動の違いを説明できる。			
11	新しく学ぶ-3： 観察学習の重要性			見て学ぶことの重要性を説明できる。			
12	記憶のしくみ-1： 記憶の枠組み・記憶の調べ方			記銘・保持・再生、再生法と再認法などを説明できる。			
13	記憶のしくみ-2： 記憶のシステム			感覚記憶・短期記憶・長期記憶のシステムを説明できる。			
14	記憶のしくみ-3： 日常的記憶			忘却：不使用説・干渉説・検索失敗説などの理論を説明できる。			
15	記憶のしくみ-4： 記憶のゆがみ・			命名効果・スキーマとスクリプトなどの理論、証言・供述の正確さを説明できる。			
16	動機づけ-1： 欲求と動機づけ。ホメオスタシス性・内発的動機			やる気と行動の関係で様々な欲求状態を説明できる。			
17	動機づけ-2： 社会的動機・達成動機・階層説			生物学的欲求以外の達成動機などの社会的動機を説明できる。			
18	動機づけ-3： 葛藤の種類・葛藤の原因・			葛藤の種類・原因・フラストレーション体制などの理論を説明できる。			
19	動機づけ-4： 防衛機制・ストレス			様々なストレス状態の理解と代表的な防衛規制を説明できる。			
20	情動過程-1： 情動理論：ジェーム・ズランゲ説、キャンノン・パード説			情動の発現過程についてのいくつかの理論を説明できる。			
21	情動過程-2： 感情の分類			個体発生手観点からの分類や誘発因のからの分類法などを説明できる。			
22	情動過程-3： 感情の表出：表情・生理的変化・			喜怒哀楽の多様な表現の仕方を説明できる。			

23	人格過程-1: 個人差の記述、パーソナリティとは	その人らしさ、人柄とは何か、その意味の重要性について説明できる。
24	人格過程-2: 個人差の記述、類型論と特性論	類型論と特性論による個人差記述の方法の違いを説明できる。
25	人格過程-3: 人格検査法、質問紙法・作業検査法・投影法	人格の代表的な測定法のいくつかを説明できる。
26	人格過程-4: 心理検査のひとつによる測定の実際	人格測定法の代表としてYG検査法を体験して自己像の記述。
27	自我過程-1: 自分を知る、自己概念、自己意識	自分とは何かと言う心理学の根本問題について幾つかの理論を説明できる。
28	自我過程-2: YG検査の結果のレポートにする	自己像についてその描写をレポートを書くことで説明できる。
29	発達-1: 自我の発達を中心に生涯発達過程	新生児・児童期・少年期・青年期・成人期・高齢期の発達過程の特徴を説明できる。
30	発達-2: 特に社会性の発達を中心に	ヒトは一人では生きていけない、社会性の発達を中心に発達の变化を説明できる。

授業科目名	生物学		担当者名	片岡 博尚			
			実務経験				
教科書	分かる化学シリーズ5 生命化学 東京化学同人	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1年	前期	必修	講義
	30						
授業概要	<p>私たち自身が動物であり、多くの生物と関わりをもって暮らしていることを考えると、生物学は非常に身近で重要な学問です。皆さんが専門分野で学習する内容の基本でもあります。高校までの生物学は暗記中心の科目と捉えられがちですが、本当は物理学や化学を理解したうえで学ぶ総合的な学問なのです。本講義では身近な事柄と関連させて、生命の仕組み、生命の不思議 などについて理解していきます。</p>						
学習到達目標	生命の仕組みが物理化学法則に従っていることを理解します。						
評価方法	出席・小テスト、期末テストなどから総合的に評価します。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	生命の謎を化学で解き明かす		生物学で学ぶ内容紹介し、生物の体で起こることは全て、物理化学法則に従っていることを理解します。				
2	同上						
3	細胞は生命の小箱		生命の単位は細胞であることを理解し、生命の基本装置である細胞小器官の構造と働きを学びます				
4	同上						
5	生命を作る分子たち ① 元素, 低分子化合物		細胞の主な構成元素はH, O, C, N, で、これは海水の組成に似ていることの意味を考えます				
6	同上						
7	生命を作る分子たち ② タンパク質, 糖, 脂質		細胞を作る高分子化合物について学びます				
8	同上						
9	生命活動: エネルギーは生命を支える		生命は外界からエネルギーを取り入れることで成り立ちます。細胞の中でATPがエネルギーの貨幣として使われていることを理解します				
10	同上						
11	生命活動: 生命を維持するための機能		生命を維持するにはエネルギーを得るだけでなく、外界の情報を感受し、対応しなくてはならないことを学びます				
12	同上						
13	生命の連続性: 核酸は遺伝情報を担う		DNA, RNA の役割と遺伝情報伝達の仕組みを学びます				
14	同上						
15	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ① 染色体, 細胞分裂		細胞の一生, 染色体と 細胞分裂, 細胞周期について学びます				
16	同上						
17	生命の連続性: 生命の旅立ちから終わりまで ② 減数分裂, 細胞死		減数分裂と有性生殖の意味, 体細胞はなぜ死ぬのか, それが、生命の連続性に有利なことを学びます				
18	同上						
19	生命の連続性: ヒトは生命を操れるのか		ゲノム解析の意味, 遺伝子組み換え作物, ゲノム医療の問題点を考えます。				
20	同上						

21	生命を守るための化学: 自己と非自己はどう区別されるか	免疫について学びます
22	同上	
23	生命を守るための化学: 病気の化学	ガン, エイズなど遺伝子傷害が本になる病気の起こるしくみ, 治療法について学びます
24	同上	
25	生命と環境 ① 地球上の生命の起源と進化	生命の歴史と真核生物の進化, 陸にあがった植物について学ぶ
26	同上	
27	生命と環境 ② 地球環境問題と温暖化	地球上の一次生産(光合成)の大半は海洋で為されることを理解し, 海水の温暖化が生命を脅かすことを理解します
28	同上	
29	まとめ	
30	同上	

授業科目名	医学英語		担当者名	都築 玲子			
			実務経験				
教科書	指定しない プリント小冊子を使用する	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	医学・医療、科学、環境等の分野についてのニューストピックや、DVDを使用し知見を広めながら、医療実務で役立つ基礎英語力を養成する。						
学習到達目標	英文の基本構造をとらえられるようになり、文、段落、文全体を理解し、必要な情報を得られるように基礎力を身につける。						
評価方法	出席、クラス参加、課題提出、小テスト、期末試験の結果の総合評価とする。						
時数	授 業 内 容			学習課題・留意事項など			
1	自己紹介・クラス予定・評価方法 Icebreaking			クラスルールと、自己紹介、今後の英語学習のためのコツ、前期授業評価基準について理解する。			
2	Pandemic を生き抜くために① Ian Bremmer の提言 Yuval Noah Harariの提言			Post COVID-19はどのような世界になるか、何に注意すべきか理解する。			
3	Pandemic を生き抜くために② Jaques Attariの提言 まとめ			Post COVID-19はどのような世界になるか、私たちはどのように生きていくべきか指針を得る。			
4	Comparing COVID-19 with previous pandemics			紀元前から現代まで、人類に幾度か危機をもたらしたパンデミックとCOVID 19を比較し、違いと教訓を学ぶ。			
5	1. New Measles Outbreak in Europe			読解Rule1 文章の主語、動詞、目的語、補語など文の構造を理解できる。			
6	2. Outbreak of Plague in Madagascar			マダガスカルで流行した病気について理解できる。			
7	3. Plastic Found in Bottled Water			読解Rule 2 代名詞が何を示すか説明できる。 マイクロプラスチックの身近な問題を理解する。			
8	The new Bionic that let us run, climb and dance			バイオニクス技術を応用し、新しい義足の開発と影響について理解できる。			
9	4. New Blood Test May Be Able To Detect Cancer			読解Rule 3 言い換え表現を見つけられる。			
10	4. New Blood Test May Be Able To Detect Cancer			癌を察知できる新しい血液検査はどのようなものか理解する。			
11	5. Baby Girl Born From Embryo Frozen 24 Years Age			24年前に凍結された受精卵から女の子が生まれた経過について説明できる。			
12	5. Baby Girl Born From Embryo Frozen 24 Years Age			問題点について理解できる。			
13	6.Regular Exercise Can Improve Your Memory			読解Rule 4 地名、団体名、役職名などはまとめて読みやすくすることができる。			
14	6.Regular Exercise Can Improve Your Memory			記憶力、思考力に運動がどのような影響を与えるか説明できる。			
15	7. Moderate Coffee Consumption May Keep You Healthy			適度なコーヒーの消費がある種の病気の予防に役立つことが理解できる。			
16	vocabulary quiz1			まとめの小テスト			
17	8.Dog Ownership May Improve Your health			犬との生活が人の健康に及ぼす影響について説明できる。			
18	8.Dog Ownership May Improve Your health			どのような病気に効果的であるか説明できる。			
19	9.American Cardiologists Publish New Blood Pressure Guidelines			読解Rule 5 英文の構造をつかめる。			
20	9.American Cardiologists Publish New Blood Pressure Guidelines			血圧の基準値が変わった理由と高血圧の影響について説明できる。			
21	10.Scientists Find Connection Between Sugar and Cancer Growth			砂糖と癌の進行の関係についての報告を理解できる。			

22	vocabulary quiz2	まとめの小テスト
23	11.Chocolate in Danger of Becoming Extinct	カカオの木が絶滅するかもしれない理由について説明できる。
24	The world needs all kinds of minds	自閉症でありながら大学教授になった方の経験を通して、自閉症について理解を深める。
25	12. NASA Software Shows How Sea Level Rises Affect Cities	地球温暖化が及ぼす深刻な現状について理解することができる。
26	There are no scraps of men	アフガニスタンで働き、神の使いとよばれるイタリア人理学療法士の奮闘について理解する。
27	13.What is corona Virus?	パンデミックを引き起こした新型コロナウイルスはどんなものか理解する。
28	13What is corona Virus?	かつてコロナウイルスによって引き起こされたSARS, MERSについて理解する。
29	14. Cloning of First Monkeys in China	類人猿ではむずかしいとされることを可能にしたのはどのような技術か理解できる。
30	Review	総復習

授業科目名	情報処理		担当者名	小嶋 麻由佳			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	教科書指定無 配布資料(プリント)使用	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	MicrosoftWindowsを使用して、ファイルの管理、文書作成、発表資料の作成等、基本的なPC操作を学ぶ。						
学習到達目標	授業や臨床実習の課題提出や文書作成など必要なスキルを身につける。						
評価方法	小テスト・期末筆記試験・出席状況を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	情報の取り扱い①			情報を扱う上でのモラルとマナーを説明できる。			
2	情報の取り扱い②						
3	検索①			適切な情報を得るための検索を理解する。			
4	検索②						
5	情報の管理			フォルダ管理ができる。			
6	Wordを使用した文書			ビジネス文書を作成できる。			
7	Wordを使用した文書						
8	Wordを使用した表・図形・画像			図形や画像を挿入し、表を作成できる。			
9	Wordを使用した表・図形・画像						
10	Wordを使用した各種表現			ビジネス文書のレイアウト作成ができる。			
11	Wordを使用した各種表現						
12	Wordを使用した課題～案内作成～			与えられた課題を時間内に作成できる。			
13	Wordを使用した課題～案内作成～						
14	Excelを使用した表作成			タイムテーブル・スケジュールが作成できる。			
15	Excelを使用した表作成						
16	Excelを使用したデータ管理			入力したデータを目的に応じて検索・並べ替え・関数ができる。			
17	Excelを使用したデータ管理						
18	Excelを使用した課題～評価表作成～			与えられた課題を時間内に作成できる。			
19	Excelを使用した課題～評価表作成～						
20	臨床実習模擬症例レジメ作成			臨床実習レポートを作成できる。			
21	臨床実習模擬症例レジメ作成						
22	パワーポイントを使用した理学療法の説明			理学療法に関して学んだことを、パワーポイントで画像・図・表など使用しまとめることができる。			
23	パワーポイントを使用した理学療法の説明						
24	パワーポイントを使用した理学療法の説明						
25	パワーポイントを使用した理学療法の説明						
26	パワーポイントを使用した理学療法の説明						
27	パワーポイントを使用した理学療法の説明						
28	班ごとに発表			与えられた時間内に理学療法についてパワーポイントを用いて説明ができる。			
29	班ごとに発表						
30	班ごとに発表						

授業科目名	保健体育演習		担当者名	沼田 尚			
			実務経験				
教科書	なし	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	本授業では、様々な運動を体験することで、実践することの「楽しさ」を理解し、必要な基礎的運動技術を獲得することを目的とし、生涯、スポーツへと関わっていくための運動習慣やコミュニケーション能力の習得、養成、向上を図る。						
学習到達目標	① 怪我をしないようにみんなで楽しみながら、様々な運動を積極的に体験し、基礎的運動技術を獲得・向上させる。② 様々なスポーツのルールを理解する。③ 体づくり運動を行うなかで、自己の柔軟性や身体の動きを理解する。④ スポーツを通して、コミュニケーション能力を習得、養成、向上する。						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講態度(80%)…出席状況と授業への取り組む姿勢・態度など。 ・ 技術習得と理解度(20%)…各種目における、技術の習得とルールの理解度などをみる。 実技試験を行う場合もある。 ・ 課題レポート…適宜レポートの提出を求めることもある。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			授業への取り組む姿勢・態度に気を付ける。			
2	ストレッチ運動			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
3	身体づくり運動1(自重トレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
4	身体づくり運動2(自重トレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
5	身体づくり運動3(持久カトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
6	身体づくり運動4(持久カトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
7	身体づくり運動5(ペアトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
8	身体づくり運動6(ペアトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
9	身体づくり運動7(サーキットトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
10	身体づくり運動8(サーキットトレーニング)			体調を整えて、自身の現状を認知し、体力に合わせて実施する。			
11	縄を使った運動1			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
12	縄を使った運動2			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
13	道具を使ったスポーツ1(フライングディスク)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
14	道具を使ったスポーツ2(フライングディスク)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
15	道具を使ったスポーツ3(ドッジビー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
16	道具を使ったスポーツ4(ドッジビー)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
17	道具を使ったスポーツ5(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
18	道具を使ったスポーツ6(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
19	道具を使ったスポーツ7(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			
20	道具を使ったスポーツ8(インディアカ)			体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。			

21	道具を使ったスポーツ9(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
22	道具を使ったスポーツ10(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
23	道具を使ったスポーツ11(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
24	道具を使ったスポーツ12(ソフトバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
25	道具を使ったスポーツ13(シッティングバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
26	道具を使ったスポーツ14(シッティングバレーボール)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
27	道具を使ったスポーツ15(ブラインドサッカー)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
28	道具を使ったスポーツ16(ブラインドサッカー)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
29	道具を使ったスポーツ17(ブラインドサッカー)	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。
30	道具を使ったスポーツ18(ブラインドサッカー) まとめ	体調を整えてコミュニケーションを取りながら積極的に参加する。

授業科目名	コミュニケーション論		担当者名	福原 浩之、水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	PT・OTのための コミュニケーション実践ガイド 山口美和 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
	30						
授業概要	医療や保健福祉の現場におけるコミュニケーションの重要性を認識した上で、他者と適切かつ円滑なコミュニケーションをとることができる力、いわば「現場適応力」を養うことを支援する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分について理解し、自己肯定感を高めることができる。 ・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身につけることができる。 						
評価方法	提出課題、期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	医療者になるための自分づくり ①自分を知る(1)			自己分析シートなどを利用し、自己概念や自分の性格、傾向について理解する。			
3	医療者になるための自分づくり ②自分を知る(2)						
4	医療者になるための自分づくり ③自己分析シート(1)						
5	医療者になるための自分づくり ④自己分析シート(2)						
6	医療者になるための自分づくり ⑤他者を知る(1)						
7	医療者になるための自分づくり ⑥他者を知る(2)			クラスメイトの性格や傾向を知り、他者を理解する力を養う。			
8	医療者になるための自分づくり ⑦自己肯定感を高める(1)			自己肯定感診断シートなどを利用して自分の自己肯定感について知り、それを高めていく方法を学ぶ。			
9	医療者になるための自分づくり ⑧自己肯定感を高める(2)						
10	医療者になるための自分づくり ⑨自己肯定感を高める(3)						
11	グループワーク ①ポジティブフィードバック			さまざまなツールを利用して自分や仲間の性格や傾向を知り、その結果について話し合う。			
12	グループワーク ②エゴグラム						
13	グループワーク ③ディスカッション						
14	グループワーク ④グループワークまとめ						
15	中間まとめ						
16	基本的なコミュニケーション力を育もう			基本的な対人コミュニケーション技術について学び、実践できる力を養う。			
17	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ①挨拶のしかた						
18	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ②電話のかけ方						
19	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ③手紙の書き方			臨床の場で必要なコミュニケーション技術について学び、実践する力を養う。			
20	臨床で役に立つコミュニケーション ①医療面接						
21	臨床で役に立つコミュニケーション ②質問のしかた						
22	臨床で役に立つコミュニケーション ③聴く技術						
23	臨床で役に立つコミュニケーション ④否定的な話への対応						
24	臨床で役に立つコミュニケーション ⑤まとめ						
25	グループワーク ①医療面接(1)			今まで学習した技法を用いて実際の医療面接を体験し、その体験について話し合うことで、医療現場における対人コミュニケーション技術をさらに深める。			
26	グループワーク ②医療面接(2)						
27	グループワーク ③ディスカッション						
28	グループワーク ④グループワークまとめ						
29	全体のまとめ						
30	全体のまとめ						

授業科目名	文章表現法		担当者名	小嶋 麻由佳			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	教科書指定無 配布資料(プリント)を使用	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
15							
授業概要	文章作成の基本的ルールを学び、自分の考えを文章で表すことができる。敬語の使い方・手紙お礼状の作成・小論文の書き方など学生生活で必要となる文章の表現方法を学ぶ。						
学習到達目標	言い換え・対比・因果関係の整理などの論理的思考力を身につけ、目的に合った適切な文章を作成できる。						
評価方法	小論文・出席・授業態度を総合的に判断する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	文章表現とは			論理的思考について説明できる。			
2	言語理解			単語の意味を理解し、文章に応じて使い分けができる。医療福祉に関する単語を説明できる。			
3	文法～形式の判断～①			適切な文法形式の判断ができる。			
4	文法～形式の判断～②						
5	文法～組み立て～			適切な文の組み立てができる。			
6	文法～読解～①			文の言い換え・対比・因果関係を学び、論理的思考力で文章を読み取ることができる。			
7	文法～読解～②						
8	敬語の使い方①			学生として社会人として、必要なマナーと敬語を理解する。			
9	敬語の使い方②						
10	手紙の書き方①			添え状やお礼状などの基本的なルールを理解する。			
11	手紙の書き方②						
12	小論文①			文章作成の基本的なルールを説明できる。			
13	小論文②			主観的な情報の整理ができる。			
14	小論文③			客観的な情報の整理ができる。			
15	小論文④			文章の流れを説明できる。			

授業科目名	基礎数理学		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	指定なし プリント	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1年	前期	必修	講義
15							
授業概要	理学療法を学習する上で求められる、基礎的な数理学を学ぶ。						
学習到達目標	理学療法に関連する基礎的な数理学を理解し、専門的な理学療法を習得する上での基礎を固める。						
評価方法	定期試験(筆記)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーションの実施			
2	基礎的計算			指数計算等、理学療法で使用する簡潔な計算を行い、計算方法を確認する。			
3	基本単位と単位変換、ベクトル量			単位の表し方、変換方法を理解する。ベクトル量について説明できる。			
4	三角関数、ベクトルの合成・分解			三角関数の基礎を理解する。基本的なベクトル計算ができる。			
5	速度、加速度			速度、加速度について説明でき、基本的な計算ができる。			
6	力について(重力、張力、摩擦力、圧力など)			重力、張力、摩擦力、圧力について説明できる。			
7	ニュートンの第1、第2、第3法則			ニュートンの第1、第2、第3法則を例をあげて説明できる。			
8	重心、力のモーメント			重心の位置を計算できる。力のモーメントについて説明できる。			
9	第1、第2、第3のてこ			第1、第2、第3のてこを例をあげて説明できる。			
10	運動量、仕事率			運動量、仕事率について説明できる。			
11	運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー			運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーについて説明できる。			
12	温度と熱			熱の伝わり方を説明できる。比熱、カロリー、を説明でき、基本的な計算ができる。			
13	波の運動、音と光			振幅、波長、周波数、速度などから波を説明できる。音の性質、光の性質について説明できる。			
14	電気、電流、磁気			電流や電磁波について説明できる。			
15	まとめと例題			生体についてや理学療法に関連する例、例題をもとに基礎数理学と基礎数理学の関連づけをする。			

授業科目名	解剖学 I		担当者名	尾形雅君、山本由似、宮崎啓史			
			実務経験				
教科書	・解剖学講義(伊藤隆著、南山堂) ・プロメテウス解剖学アトラス(坂井建雄、医学書院) ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		5					
		時間数	理学療法科	1	通年	必修	講義
75							
授業概要	解剖学の概念、人体の構造を学ぶ。全身の骨格・筋・脈管・器官の解剖学的構造及び生理学的機能の理解を深め、理学療法士・作業療法士に必要な知識を習得する。						
学習到達目標	人体の構造は複雑かつ精緻にできており、また個々の名称ごとに独立して存在しているのではなく、空間的にも機能的にも有機的に結びついている。全ての医学の基礎となる人体の正常構造を理解する。						
評価方法	小テスト、期末試験の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	解剖学総論	人体の部位、骨格系(骨総論・骨の連結)	人体の構造と区分および骨格系(骨の形態と構造)について説明できる。				
2	解剖学総論	筋系(全身の骨格筋)	。骨格筋の構造(筋の形状と名称)について説明できる				
3	解剖学総論	筋系(骨格筋総論)	骨格筋の作用および神経支配について説明できる。				
4	解剖学総論	脈管系(全身の血管系・心臓)	心臓の構造、機能について説明できる。				
5	解剖学総論	脈管系(血管系・動脈)	心臓を中心とした心脈管系について説明できる。				
6	解剖学総論	脈管系(血管系・静脈)					
7	解剖学総論	脈管系(リンパ系)	リンパ管系の構成および機能について説明できる。				
8	解剖学総論	内蔵(臓器の一般構造・消化器系)	人体における動物機能と植物機能の器官系について説明できる。				
9	骨学	骨の構築・神経・機能	骨格からみた人体の区分について説明できる。				
10	上肢	上肢の筋(上腕)	上肢の筋の構造及び機能について説明できる。				
11	上肢	上肢の筋(前腕)					
12	上肢	上肢の筋(手)					
13	上肢	上肢の神経①	上肢の神経の分布や支配筋を理解する。				
14	上肢	上肢の神経②					
15	上肢	上肢の脈管	上肢の脈管の分布を理解する。				
16	下肢	下肢の筋(下肢帯の筋、足の筋、下肢の関節・筋)	下肢の筋の構造及び機能について説明できる。				
17	下肢	下肢の筋(直立の仕組み、歩行と走行の仕組み)	下肢の筋の構造及び機能について説明できる。				
18	下肢	下肢の脈管(動脈、静脈、リンパ系)	下肢の脈管の分布を理解する。				

19	下肢 下肢の神経(腰神経叢、仙骨神経叢)	下肢の筋を支配する神経系について説明できる。
20	下肢 下肢の神経(下肢における神経分布)	
21	下肢 下肢の筋	体幹と下肢を連結する筋の機能と形態について説明できる。
22	下肢 下肢の神経	下腿に分布する神経について説明できる。
23	下肢 下肢の脈管	下腿に分布する脈管について説明できる。
24	背部 背部の筋(1)	背部の筋の構造と機能について説明できる。
25	背部 背部の筋(2)	
26	背部 背部の神経(1)	脊髄神経の構造と機能を理解する。
27	背部 背部の神経(2)	
28	胸壁の筋	胸壁の筋の構造及び機能について説明できる。
29	胸腔	胸腔の構造的特徴及び胸部臓器の配置を理解する。
30	気管・気管支	胸部臓器の構造と機能について理解する。
31	肺	
32	心臓	
33	食道・脈管	
34	腹部 腹腔の臓器(肝臓・胆路系)	腹部臓器の構造と機能について理解する。
35	腹部 腹腔の臓器(膵臓・脾臓)	
36	腹部 腹腔の臓器(腹膜)	
37	腹部 腹腔の臓器(腎臓①)	
38	腹部 腹腔の臓器(腎臓②)	
39	腹部 腹腔の臓器(副腎)	

40	腹部 腹部の脈管	腹部の脈管および神経の分布と機能について理解する。
41	腹部 腹部の神経	
42	骨盤の臓器(膀胱、尿道、直腸)	骨盤内臓の概略とその位置関係を説明できる。
43	骨盤の臓器(男性生殖器、女性生殖器)	
44	骨盤底、会陰、外生殖器(骨盤核膜、会陰)	骨盤底部の概略を説明できる。
45	骨盤底、会陰、外生殖器(男性・女性の外生殖器)	
46	骨盤部の脈管(動脈、静脈、リンパ系)	骨盤部の脈管の概略を説明できる。
47	頭頸部の筋 頭部の筋	頭頸部の筋の構造及び機能について説明できる。
48	頭頸部の筋 頸部の筋1	
49	頭頸部の筋 頸部の筋2	
50	頭頸部の主要な器官 頭皮	頭頸部の主要な器官の構造及び機能について説明できる。
51	頭頸部の主要な器官 眼(視覚器)	
52	頭頸部の主要な器官 耳(平衡聴覚器)	
53	頭頸部の主要な器官 鼻・口	
54	頭頸部の主要な器官 咽頭・喉頭	
55	頭頸部の脈管(動静脈)	頭頸部の脈管および神経の分布と機能について理解する。
56	頭頸部の脈管(リンパ系)	
57	頭頸部の脈管(神経1)	
58	頭頸部の脈管(神経2)	
59	脊髄(外形、内部構造、主要な神経路)	脊髄の構造及び機能について説明できる。
60	脊髄膜、脊髄の血管	
61	脳(延髄)	小脳・脳幹構造及び機能、脳神経系の機能について説明できる。

62	脳(橋、中脳)	小脳・脳幹構造及び機能、脳神経系の機能について説明できる。
63	脳(脳幹における脳神経核)	
64	脳(脳幹網様体・小脳)	
65	脳(間脳)	
66	脳(終脳①)	
67	脳(終脳②)	大脳の構造及び機能について説明できる。
68	脳(脳膜と脳の血管)	脳膜と脳の血管の構造及び機能について説明できる。
69	中枢神経系の伝導路(上行性伝導路)	中枢神経系の伝導路について説明できる。
70	中枢神経系の伝導路(下行性伝導路)	
71	骨学・上肢・下肢のまとめ	上肢・下肢の骨、関節および筋の機能的な相互関係を説明できる。
72	背部 まとめ	背部筋・神経の構造と機能について説明できる。
73	胸部・腹部まとめ	胸部・腹部臓器の構造と機能について理解する。
74	頭頸部・中枢神経系まとめ	頭頸部・中枢神経系について理解する。
75	頭頸部・中枢神経系まとめ	

授業科目名	解剖学実習		担当者名	尾形雅君、山本由似、宮崎啓史			
			実務経験				
教科書	・解剖学講義(伊藤隆著、南山堂) ・プロメテウス解剖学アトラス(坂井建雄、医学書院) ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義 実習
時間数	45						
授業概要	解剖学の概念、人体の構造を学ぶ。全身の骨格・筋・脈管・器官の解剖学的構造を深め、理学療法士・作業療法士に必要な知識を習得する。						
学習到達目標	人体の構造は複雑かつ精緻にできており、また個々の名称ごとに独立して存在しているのではなく、空間的にも機能的にも有機的に結びついている。全ての医学の基礎となる人体の正常構造を理解する。						
評価方法	期末試験の結果を評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	胸郭①			胸椎、肋骨(および胸椎)の形状、部位名および関節について説明できる。			
2	胸郭②						
3	胸郭③						
4	上肢帯①			肩甲骨、鎖骨の形状、部位名および関節について説明できる。			
5	上肢帯②						
6	上肢帯③						
7	上肢帯④						
8	自由上肢①			上腕骨、尺骨、橈骨、手の骨の形状、部位名および関節について説明できる。			
9	自由上肢②						
10	自由上肢③						
11	自由上肢④						
12	下肢帯①			寛骨(腸骨、恥骨、坐骨)の形状と部位名について説明できる。			
13	下肢帯②						
14	下肢帯③						
15	下肢帯④						

16	自由下肢①	大腿骨、胫骨、腓骨、足の骨の形状と部位名について説明できる。
17	自由下肢②	
18	自由下肢③	
19	自由下肢④	
20	頭蓋①	頭蓋を構成する骨の形状、部位名および関節について説明できる。
21	頭蓋②	
22	頭蓋③	
23	頭蓋④	
24	脊柱①	椎骨(頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎)の形状、部位名および関節について説明できる。
25	脊柱②	
26	脊柱③	
27	脊柱④	
28	骨盤①	骨盤を構成する骨・靭帯について説明できる。
29	骨盤②	
30	骨盤③	
31	骨盤④	
32	胸部臓器①	臓器模型を用い、胸部臓器の構造を観察する。
33	胸部臓器②	
34	胸部臓器③	
35	胸部臓器④	

36	血管①	血管模型を用い、全身の血管の走行を観察する。
37	血管②	
38	血管③	
39	血管④	
40	肉眼解剖実習①	御献体を用いて、人の器官を直接観察する。
41	肉眼解剖実習②	
42	肉眼解剖実習③	
43	肉眼解剖実習④	
44	肉眼解剖実習⑤	
45	肉眼解剖実習⑥	

授業科目名	生理学		担当者名	高橋 彌穂			
			実務経験				
教科書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野生理学;医学書院 参考書等:1.「目でみるからだのメカニズム」、2.「基礎から学ぶ生理学ノート」、3.配布資料、画像・映像	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	1年	通年	必修	講義
60							
授業概要	命の営みを機能の面から系統的に学習する						
学習到達目標	国家試験に対応出来るだけの基礎的な学力を身につける						
評価方法	出席、レポート、課題取組と発表、期末試験の結果を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生理学の概要			1. 生体恒常性のしくみ、2. 個体・器官・組織・細胞・細胞小器官の機能的連携、3. 生理学で使われる単位と定数。			
2	血液の生理-1			1. 血球の種類とその働き、2. 血漿蛋白質の種類と機能、3. 血液凝固の機序、4.免疫の基礎、4. 血液型と輸血			
3	血液の生理-2						
4	血液の生理-3						
5	血液の生理-4						
6	神経の機能-1			1. 神経細胞の興奮の伝導・伝達のしくみ、2. 興奮性シナプスと抑制性シナプスの特徴と神経伝達物質の種類、3. シナプスの可塑性			
7	神経の機能-2						
8	神経の機能-3						
9	神経の機能-4						
10	筋肉の機能-1			1. 筋細胞の種類、2. 骨格筋の興奮－収縮連関の機序と収縮のしかた、3. 筋の収縮と弛緩に要するエネルギー			
11	筋肉の機能-2						
12	筋肉の機能-3						
13	筋肉の機能-4						
14	感覚系の機能と構成-1			1. 特殊感覚の特徴と機序、2. 体性感覚の特徴と機序、3. 内臓痛覚、4. 関連痛と放散痛のしくみ			
15	感覚系の機能と構成-2						
16	感覚系の機能と構成-3						
17	感覚系の機能と構成-4						
18	感覚系の機能と構成-5						
19	神経系の構成			1. 神経系の成立ち、2. 体性神経と自律神経の違いと特徴			

20	自律神経と内臓機能-1	1. 交感神経と副交感神経で利用されている化学伝達物質、2. 効果器支配の様式、3. 内臓反射と中枢
21	自律神経と内臓機能-2	
22	自律神経と内臓機能-3	
23	体性神経と運動機能-1	1. 脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、大脳新皮質と運動との関わり、2. 反射運動と随意運動の機序
24	体性神経と運動機能-2	
25	体性神経と運動機能-3	
26	体性神経と運動機能-4	
27	中枢神経の高次機能-1	1. 大脳皮質の活動レベル、覚醒と睡眠、2. 機能分化と統合機能、3. 辺縁系と視床下部の機能
28	中枢神経の高次機能-2	
29	中枢神経の高次機能-3	
30	中枢神経の高次機能-4	
31	内分泌系の機能-1	1. ホルモンの一般的性質、2. 化学的組成、3. 産生と放出、4. 分泌機構と作用機序、5. 各種ホルモンの作用
32	内分泌系の機能-2	
33	内分泌系の機能-3	
34	内分泌系の機能-4	
35	内分泌系の機能-5	
36	生殖機能-1	1. 性染色体とその異常、2. 性分化、3. 男性と女性の生殖機能、4. 生殖機能の加齢変化
37	生殖機能-2	
38	栄養と代謝-1	1. 生体に必要な食物成分、2. 三大栄養素のエネルギー代謝
39	栄養と代謝-2	
40	消化器系の機能-1	1. 消化器系の役割、2. 消化管の運動と分泌機能、3. 消化と吸収、4. 肝臓と胆道系の構造と機能、5. 排泄のしくみ
41	消化器系の機能-2	
42	消化器系の機能-3	
43	消化器系の機能-4	
44	循環系の機能-1	1. 心臓の構造と機能、2. 血管とリンパ管の種類と働き、3. 血圧、4. 心電図と心音図、5. 循環の調節
45	循環系の機能-2	
46	循環系の機能-3	
47	循環系の機能-4	

48	呼吸の生理-1	1. 呼吸器の構造、2. 換気のしくみ、3. ガス交換とガス分圧、4. 酸素と炭酸ガスの運搬、5. 呼吸の調節
49	呼吸の生理-2	
50	呼吸の生理-3	
51	呼吸の生理-4	
52	尿の生成と排泄-1	1. 腎臓の構造、2. ろ過と再吸収の機序、3. 尿細管における分泌、4. 排尿のしくみ
53	尿の生成と排泄-2	
54	尿の生成と排泄-3	
55	尿の生成と排泄-4	
56	体液とその調節-1	1. 体液の区分と水バランス、2. 体液の組成、3. 体液の恒常性を維持する仕組み、4. 酸塩基平衡
57	体液とその調節-2	
58	体液とその調節-3	
59	体温とその調節-1	1. 体温の生理変動、2. 体内における熱の産生、3. 熱放散の物理的しくみ、4. 熱放散の生理的しくみ
60	体温とその調節-2	

授業科目名	生理学実習		担当者名	高橋 彌穂			
			実務経験				
教科書	適時に配布する実習の手引き、画像・映像	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	実習
45							
授業概要	代表的な生理事象の計測・観察・考察を通して生理学の理解を深める						
学習到達目標	生理学的事象の基礎をより深く理解し国家試験に備える						
評価方法	出席、レポート、課題取組と発表、期末試験の結果を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	1 生理学に関わる数理-1			1. 指数・対数を用いた計算、2. dB・pHの計算、			
2	生理学に関わる数理-2						
3	生理学に関わる数理-3						
4	生理学に関わる数理-4						
5	生理学に関わる工学-1			電圧、電流、抵抗、交流、直流、接地(アース)、差動増幅器、アナログ(A)、デジタル(D)、A/D・D/A変換、ファンクションジェネレータ、デジタルオシロスコープ、分極、電極ペースト、生体電気などの用語の解説と理解			
6	生理学に関わる工学-2						
7	生理学に関わる工学-3						
8	水溶液の電気伝導-1			水(水道水、蒸留水)、電解質(塩化ナトリウム)、非電解質(グルコース)の電気伝導の確認			
9	水溶液の電気伝導-2						
10	随意運動と表面筋電図						
11							
12							
13							
14	運動神経の伝導速度						
15							
16							
17							
18	筋の誘発電位						
19							
20							
21							
22	血圧・心拍数の測定						
23							
24							
25							

26	心電図と心音図	
27		
28		
29		
30	呼吸数・呼吸機能の測定	
31		
32		
33		
34	脳波の計測	
35		
36		
37		
38	視覚機能と聴覚機能	
39		
40		
41		
42	細胞外溶液のpH低下の効果(スライス脳標本を用いた実験の動画観察)	
43		
44	単一ニューロンに対するグリシン、GABA、グルタミン酸の効果(パッチクランプ実験の動画観察)	
45		

授業科目名	運動学		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	基礎運動学 運動学ノート	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	理学療法科	1	通年	必修	講義
45							
授業概要	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基盤をなす重要な基礎科目である。運動器の構造と機能、物理学に基づく生体力学、神経系が関与する運動発達と学習など、正常な人間の身体運動を理解し、基礎的な知識を習得する						
学習到達目標	筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、力学原理に基づく運動の記述と解釈、日常生活動作の基本となる姿勢保持と歩行の特徴、運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組み、運動を継続するためのエネルギー供給機構について理解する。						
評価方法	小テスト、定期試験。(筆記による)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	生体力学			運動学と運動力学、並進運動と回転運動、力と力の合成・分解、力のモーメント、身体のでこを理解する。			
2							
3							
4	運動器の構造と機能			可動関節の分類、骨運動と関節包内運動、運動軸と運動面、骨格筋の構造、筋収縮機序、筋線維の種類、運動単位、筋の収縮様式とはたらきを理解する。			
5							
6							
7	肩複合体の運動学			肩複合体の構造、肩複合体の骨運動と関節包内運動、肩複合体の運動に関与する筋を理解する。			
8							
9							
10	肘関節・前腕の運動学			肘関節・前腕の構造、肘関節・前腕の骨運動と関節包内運動、肘関節・前腕の運動に関与する筋を理解する。			
11							
12							
13	手関節・手指の運動学			手関節・手指の構造、手関節・手指の骨運動と関節包内運動、手関節・手指の運動に関与する筋、手のアーチを理解する。			
14							
15							
16	股関節の運動学			股関節の構造、股関節の骨運動と関節包内運動、股関節の運動に関与する筋を理解する。			
17							
18							
19	膝関節の運動学			膝関節の構造、膝関節の骨運動と関節包内運動、膝関節の運動に関与する筋を理解する。			
20							
21							
22	足関節・足部の運動学			足関節・足部の構造、足関節・足部の骨運動と関節包内運動、足関節と足部の運動に関与する筋、足部のアーチを理解する。			
23							
24							
25	脊柱・体幹の運動学①			脊柱の構造、脊柱の運動、頸椎の構造、頸部の骨運動と関節包内運動、頸部の運動に関与する筋を理解する。			
26							
27							
28	脊柱・体幹の運動学②			胸郭の構造、胸郭の運動と、胸郭の運動に関与する筋、腰椎の構造、腰部の骨運動と関節包内運動、腰部の運動に関与する筋を理解する。			
29							
30							
31	顔面と頭部の運動学			顎関節の構造、顎関節の骨運動と関節包内運動、顎関節の運動に関与する筋、表情筋を理解する。			
32							
33							
34	姿勢			姿勢と姿勢制御、重心と支持基底面、安静立位姿勢とその保持、外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構、予測的姿勢制御を理解する。			
35							
36							
37	歩行			歩行周期、距離・時間因子、身体重心移動、下肢関節運動、床反力と足底圧中心、筋活動、エネルギー消費を理解する。			
38							
39							
40	運動学習			運動学習の定義、3つの記憶システム、運動の学習段階、練習、学習の転移、動機づけ、フィードバック、パフォーマンスと運動技能を理解する。			
41							
42							
43	運動のためのエネルギー供給機構			エネルギー基質と代謝経路、酸素を搬送する仕組み、運動時の呼吸・循環反応を理解する。			
44							
45							

授業科目名	人間発達		担当者名	山田 嘉明			
			実務経験				
教科書	教科書は指定しない。 配布資料(プリント)を使用する。	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	人間はどのように発達するのか。この生涯にわたる変容過程を理解し、人間の発達にかかわる諸要因および個体と環境の相互作用のあり方について学習する。身体、運動、言語、認知、情緒、社会性の側面から各発達時期の特色を学び、発達理論を概観する。						
学習到達目標	発達を身体・運動、言語・認知、4情緒・社会性の領域に分けてとらえ、説明ができる。 人間の発達時期ごとの特徴や特色を理解し、説明できる。 主な発達理論を理解し、説明できる。						
評価方法	小レポート提出(30%)、期末試験(70%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	人間の発達とは			人間発達の用語の定義、近代の発達研究、研究方法について説明できる。			
2							
3	胎生期における発達			胎生期(胚期、胎芽期、胎児期)における発達の特色について説明できる。			
4							
5	周産期における発達			周産期障害、母子保健統計、周産期死亡率、低出生体重児、胎児発育に影響する要因、アプガースコアについて説明できる。			
6							
7	新生児期・乳児期・幼児期における発達(1)－身体、運動			新生児行動評価法、カウプ指数、乳幼児身体発育調査、原始反射、姿勢反射、平衡反応、髄鞘形成、運動発達について説明できる。			
8							
9	新生児期・乳児期・幼児期における発達(2)－言語、認知			一語文、多語文、幼児語、認知発達、イメージの利用について説明できる。			
10							
11	新生児期・乳児期・幼児期における発達(3)－情緒、社会性			情緒の分化、社会化、愛着、微笑、人見知り、分離不安、遊びの発達について説明できる。			
12							
13	発達検査			遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査について説明できる。			
14							
15	児童期における発達			ローレル指数、運動技能、思考における中心化、保存の理解、記憶方略、防衛機制について説明できる。			
16							
17	青年期における発達			第二次性徴、形式的操作思考、アイデンティティについて説明できる。			
18							
19	成人期における発達			身体的変化、生活習慣病、結晶性能力、流動性能力、発達課題について説明できる。			
20							
21	老年期における発達			生理的老化、長期記憶、ワーキングメモリ、離脱説、活動説について説明できる。			
22							
23	発達理論(1)－ゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論			発達課題、発達段階、ゲゼルの成熟理論、フロイトの心理学的発達理論について説明できる。			
24							
25	発達理論(2)－エリクソンの心理社会的発達理論			エリクソンの心理社会的発達理論について説明できる。			
26							
27	発達理論(3)－ピアジェの認知的発達理論			ピアジェの認知的発達理論について説明できる。均衡化、シエマ、同化、調節、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期			
28							
29	まとめ			発達関連用語、発達における共通性、発達に影響を及ぼす要因について説明できる。これまでの復習とまとめを行う。			
30							

授業科目名	医学概論		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	学生のための医学概論(医学書院)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	我が国の医療体制の概念や考え方を解説する。また現在の我が国をとりまく医学全体について多岐にわたって講義する。						
学習到達目標	医療体制の概念や考え方を身に付ける						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	チーム医療・医療保険提供体制を理解する			医療を支える人々で保健医療サービスの提供体制、日本の医療保険制度、医療政策と医療計画・医療と経済			
2	医療保険制度・医療改革・医療と経済を理解する						
3	在宅ケアのシステム等を理解する			在宅ケアの推進 高齢者ケアシステムについて理解する。			
4	高齢者ケアシステムを理解する						
5	災害医療の定義・種類			災害医療について理解する。			
6	災害医療の実践-CSCATTT						
7	救急医療の歴史			救急医療の歴史と日本の現状について理解する。 救急救命について理解する。			
8	わが国の救急医療体制						
9	医療事故の定義と原因			医療安全について理解する。			
10	医療事故の対策						
11	健康の定義・健康政策			健康の定義・ヘルスプロモーション オーダーメイドの健康増進法について理解する。			
12	オーダーメイドの健康増進・倫理規定						
13	老化・認知症の定義と対策			老化・認知症とその対策 思春・青年・成人期の精神保健と対策について理解する。			
14	精神保健対策と将来						
15	リハビリテーションの目的とチームワーク			リハビリテーションの目的とチームワーク ノーマライゼーションへの道			
16	ノーマライゼーションへの道と課題						
17	細菌と人間の戦いにみる医学の歴史			近代医学の誕生 日本の近代化と医療の発達について理解する。			
18	母子の健康をめぐる日本の医療の発達						
19	放射線被爆と人間			薬害・公害事例から学ぶこと。			
20	薬害・四大公害病から学ぶもの						
21	診断・治療機器の発達と課題			医用工学の発達 臓器移植の定義と施行について理解する。			
22	臓器移植法の歴史とシステム						
23	遺伝子診断の課題と今後の医療従事者の役割			生命科学の発達と医学 海外での保健医療活動			
24	保健医療分野の国際化						
25	保管代替医療の内容			現代医療の新たな領域について理解する。 予防等の基礎について理解する。			
26	統合医療と食。日本における統合医療						
27	患者中心の医療・医療サービスと医学診断			現代医療が目指すもの。 医療と診療記録			
28	POS診療記録が目指すもの						
29	チーム医療の実践。生命倫理とその判断			患者中心の医療の方法論 生命倫理と患者の権利			
30	インフォームドコンセント・個人情報保護とターミナルケア						

授業科目名	病理学		担当者名	武田 和久			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	・カラーアトラス病態病理学 長澤治夫／鈴木博義 共著 改訂2版 (株)丸善出版 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	ヒトのからだの正常な機能と構造が、さまざまな原因(病因)により異常となる仕組み、機序について学習し、それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて学習する。また、からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても学習する。						
学習到達目標	[1]疾病の成立機序や疾病の基本となる病変とそれに伴う形態・機能の変化、病態生理学、病態生化学について説明できる。 [2]からだの損傷や創傷の回復や治癒の機序についても理解し説明できる。 [3]それぞれの病態と正常な構造と機能との違いについて理解し説明できる。						
評価方法	出席・授業態度・試験(1月)の結果を総合評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	正常な細胞の構造(オルガネラ)と機能			正常な細胞のオルガネラの構造・機能とその異常疾患について説明できる。			
2							
3	細胞障害の原因と機序(変性)			細胞障害の原因と機序(変性)を分類し各々について説明できる。			
4							
5	細胞の死 及び 病理的变化(細胞増殖分化の異常)			細胞死(壊死、アポトーシス)及び病理的变化(細胞増殖分化異常)について説明できる。			
6							
7	創傷治癒 炎症 感染症			創傷治癒、炎症、感染症について説明できる。			
8							
9	遺伝子・染色体の異常			遺伝子・染色体の異常疾患について説明できる。			
10							
11	代謝異常:糖・脂質代謝異常(糖尿病 脂質異常症など)			糖・脂質代謝異常疾患について説明できる。			
12							
13	代謝異常:タンパク質・核酸代謝異常			タンパク質・核酸代謝異常疾患(アミロイドーシス、通風など)について説明できる。			
14							
15	代謝異常:その他の代謝疾患(黄疸、ビタミン、ミネラル異常など)			黄疸、ビタミン、ミネラル異常などの代謝異常疾患について説明できる。			
16							
17	循環障害 出血素因 ショック			循環障害、出血素因、ショックの機序と疾患について説明できる。			
18							
19	免疫異常			免疫異常疾患について説明できる。			
20							
21	腫瘍学:発がんのメカニズム			発がんのメカニズムと代表的遺伝性がん疾患について説明できる。			
22							
23	腫瘍学:がんの浸潤・転移			がんの浸潤・転移のメカニズム及びがん病期ステージについて説明できる。			
24							
25	腫瘍学:形態学的特徴			腫瘍の形態学的特徴について説明できる。			
26							
27	加齢			加齢の機序と加齢関連疾患について説明できる。			
28							
29	学びの振り返り			これまでの授業の要点事項を整理し、説明することができる。			
30							

授業科目名	臨床心理学		担当者名	山田 嘉明			
			実務経験				
教科書	・臨床心理学 町沢静夫著, 医学書院 ・配布資料(プリント)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	心理的問題をもつ人(クライアント)の臨床心理的査定法と心理的援助方法の基本について学ぶ。前半では臨床心理学の背景, 研究方法について概観し, 神経症圏と精神病圏, 心身症圏の障害を理解する。臨床心理的査定法については面接法と代表的な心理検査を学習する。心理的援助方法は精神分析的方法, 認知行動療法, 来談者中心療法を中心に後半でみていく。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・不安症・強迫症・解離症等の神経症圏, 統合失調症等の精神病圏, 心身症圏の症状や障害を理解し, 説明できる。 ・臨床心理学的査定法を理解し, 説明できる。 ・主な心理療法を理解し, 説明できる。 						
評価方法	小レポート提出(30%), 期末試験(70%)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	臨床心理学とは何か			臨床心理学の定義, 対象, 臨床心理士・公認心理師について説明できる。			
2							
3	DSM診断分類			精神的な変調に関する伝統的診断分類ならびにDSMによる診断分類について説明できる。			
4							
5	不安症, 強迫症, 解離症群など			神経症圏の症状や障害について説明できる。			
6							
7	統合失調症			統合失調症の症状や障害について説明できる。			
8							
9	双極性障害, 抑うつ障害			双極性障害やうつ病の症状や障害について説明できる。			
10							
11	心身症－摂食障害			摂食障害(神経性無食欲症, 神経性大食症)の症状や障害について説明できる。			
12							
13	臨床心理的査定法(1)－面接法, 心理検査			面接法, 心理検査の種類について説明できる。			
14							
15	臨床心理的査定法(2)－知能検査			ビネー式知能検査, ウェクスラー式知能検査について説明できる。			
16							
17	臨床心理的査定法(3)－パーソナリティ検査			主なパーソナリティ検査について説明できる。パーソナリティ検査の実例をみる。			
18							
19	臨床心理的査定法(4)－神経心理学的検査			リハビリテーション分野などでよく使用される神経心理学的検査について説明できる。			
20							
21	心理療法(1)－精神分析的方法			心理療法(精神療法)の定義, 方法, 精神分析的アプローチについて説明できる。			
22							
23	心理療法(2)－認知行動療法			行動療法, 認知療法, 認知行動療法について説明できる。			
24							
25	心理療法(3)－来談者中心療法			来談者中心療法について説明できる。			
26							
27	心理療法(4)－森田療法, 内観療法など			森田療法, 内観療法について説明できる。			
28							
29	まとめ			これまでの復習とまとめを行う。			
30							

授業科目名	公衆衛生学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	シンプル公衆衛生学 (南江堂)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	通年	必修	講義
30							
授業概要	環境や生活が健康に与える影響と、健康を守るための包括的な取り組みについて理解する。						
学習到達目標	公衆衛生全般について理解し、説明することができる						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	公衆衛生学の定義と役割			健康の測定とその指標を理解する。			
2	健康の定義とWHOの役割						
3	公衆衛生の医療と歴史			公衆衛生活動の基本、および生活と健康の関わりを知る。			
4	保健統計(健康の測定・人口統計)						
5	疫学の定義と方法の原理			公衆衛生学で用いられる疫学の役割と手法を学ぶ。			
6	観察研究と介入研究						
7	疾病予防・集団検診の技法・健康日本21			予防の考え方と感染症等に対する予防対策を知る。			
8	健康日本21(第二次)の要旨						
9	感染症の定義・分類と予防			生活習慣病と循環器疾患の予防を知る。			
10	生活習慣病、循環器疾患等の予防						
11	環境保健・物理的環境要因と健康			自然環境、物理・化学的環境と健康の関わりを学ぶ。			
12	環境保健・化学的環境要因と健康						
13	環境保健・衣食住の衛生			生活環境と健康の関わりおよび環境管理を学ぶ。			
14	環境保健・公害と環境問題						
15	地域健康活動と行政			地域の考え方と地域保健活動の現状を理解する。			
16	消費者保健						
17	母子保健の水準			出生、乳幼児の健康管理、母子保健対策を理解する。			
18	母子保健活動と行政						
19	学校保健管理の意義と役割			子供の健康と学校における保健対策を理解する。			
20	学校保健教育と地域社会の係わり						
21	産業保健労働規制の変遷			労働者の健康と職場における保健対策を理解する。			
22	労働安全衛生法の概説						
23	高齢者の健康と現状			高齢者の健康と老人保健・福祉対策を理解する。			
24	老人保健制度と介護保険の役割						
25	精神障害の分類			精神障害と精神保健活動を理解する。			
26	精神保健福祉活動						
27	国際保健医療の考え方・意義			国際保健の考え方を学ぶ、保健医療制度の発達と現状を学ぶ。			
28	国際保健機関の役割						
29	具体的な公衆衛生活動の内容			具体的な公衆衛生活動の内容を理解する。			
30	医療保障・年金の仕組み						

授業科目名	社会福祉学概論		担当者名	横山 英史			
			実務経験				
教科書	コメディカルのための 社会福祉概論 第4版 鬼崎信好, 本郷秀和(編集) 講談社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	理学・作業療法士に求められる社会福祉に関する基本的な考え方や福祉制度、サービスの内容について説明を行う。						
学習到達目標	様々な生活、福祉問題に関する理解を深め、当事者や家族が抱える問題に自分なりに対応が出来るようになることを目指す。						
評価方法	期末試験、レポート、授業への参加度						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	社会福祉とは 語義、範囲		社会福祉の捉え方について説明できるようになる。				
2	用語について 歴史的系譜		代表的な用語、考え方について理解し説明できる。				
3	日本の社会福祉の歴史(1)古代～戦中		社会福祉の礎となる取り組みについて説明できる。				
4	日本の社会福祉の歴史(2)戦後～		現行の制度に至る背景や要因に説明できる。				
5	社会保障、社会福祉の体系、組織(1)		体系、社会保険制度を理解し、活用できる。				
6	社会保障、社会福祉の体系、組織(2)		公的扶助、組織について理解し説明できる。				
7	こども福祉(1)		法制度、施設、専門職について説明できる。				
8	こども福祉(2)		虐待、貧困等の問題に対応出来るようになる。				
9	障害者福祉(1)		理念、法制度について説明できる。				
10	障害者福祉(2)		サービスについて理解し、虐待等に対応出来る。				
11	高齢者福祉(1)		状況や法制度について説明できる。				
12	高齢者福祉(2)		介護保険制度の背景、概要について説明できる。				
13	高齢者福祉(3)		ケアマネジメント、チームアプローチが説明できる。				
14	低所得者福祉(1)		貧困の背景、生活保護について説明が出来る。				
15	低所得者福祉(2)		低所得対策、関連事業について説明できる。				
16	地域福祉(1)		理念と組織、担い手について説明できる。				
17	地域福祉(2)		推進方法ー計画、CSWーについて説明できる。				
18	医療福祉		連携、医療ソーシャルワークについて説明できる。				
19	精神保健福祉(1)		精神障害者を取り巻く現状について説明できる。				
20	精神保健福祉(2)		サービス、関連の取り組みについて説明できる。				
21	社会福祉施設の役割(1)		現状、推移について説明できる。				
22	社会福祉施設の役割(2)		枠組みと課題について説明できる。				
23	社会福祉を担う人々(1)		現状、職種について説明できる。				
24	社会福祉を担う人々(2)		資格制度、非専門職について説明できる。				
25	ソーシャルワークの視点から(1)		目的、対象、視点について説明できる。				
26	ソーシャルワークの視点から(2)		基本的態度、展開過程について説明できる。				
27	多職種連携について		ソーシャルワークからの連携について説明できる。				
28	社会福祉を巡る課題(1)		少子高齢化、貧困、自殺について説明できる。				
29	社会福祉を巡る課題(2) 利他的行為論(1)		在宅介護、災害等について説明できる。				
30	利他的行為論(2) 講義のまとめ		利他的行為論を踏まえ、援助観の確立を図る。				

授業科目名	リハビリテーション概論		担当者名	尾形 由美子			
			実務経験	看護師として病院での勤務経験あり			
教科書	配布資料等	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	1 リハビリテーション医学・医療が対象としている障害者は、医学の発展にともなって、複数の併存疾患をもつ高齢者や難病を抱える人々が多くなり、社会的に自立生活を営むことが困難になっている現状を理解する。2 リハビリテーションの役割について理解し、リハビリテーションに関わるものとしての自覚がもてる。						
学習到達目標	リハビリテーションの対象と障害者の実態を知る。						
評価方法	授業への出席と課題提出及び筆記試験による総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			リハビリテーションのイメージを教科書の目標へ繋げる。			
2	リハビリテーションの目的			リハビリテーションの定義と目的を理解する。			
3	リハビリテーション医学の主な対象疾患とは			障害者・児の実態を理解する。			
4	リハビリテーションの対象者とフィジカルアセスメントの重要性について学ぶ			ワークを通して対象者の概要を理解する。			
5	リハビリテーションの対象者とフィジカルアセスメントの重要性について学ぶ			ワークを通して重要性を理解する。			
6	高齢者の喪失体験を学ぶ			ワークを通して高齢者の喪失体験をする。			
7	高齢者の喪失体験を学ぶ			ワークを通して高齢者の抱えている心理を理解する。			
8	医療現場で求められるコミュニケーションとは			医療現場におけるコミュニケーションの役割を理解する。			
9	医療現場で求められるコミュニケーションとは			相手に伝わる言葉についてワークを通して考える。			
10	嚥下障害とは			嚥下機能の分類を知る。			
11	(障害の心理について考察する。)			嚥下機能障害の関わりを理解する。			
12	視覚障害の体験をしてみよう			視覚障害の種類を知る。			
13	(障害の心理について考察する。)			視覚障害者との関わりを理解する。			
14	麻痺とは			末梢性と中枢性の麻痺について、その違いを学ぶ			
15	(障害の心理について考察する。)			麻痺の障害者の関わりを理解する。			
16	高齢者における骨・関節の機能について			関節機能とその障害を学ぶ			
17	(障害の心理について考察する。)			高齢者への関わりを理解する。			

18	寝たきりの人の体験をしてみよう	寝たきり状態を理解する
19	寝たきりの原因とは	寝たきりの弊害について理解する。
20	(障害の心理について考察する。)	寝たきりの人への関わりを理解する。
21	内部障害とは	内部障害の種類について学ぶ。
22	(循環器障害)	ペースメーカー置換者の実態を知る。
23	(呼吸器障害)	酸素吸入・吸引における実態を知る。
24	(腎機能障害)	人工透析・持続留置カテーテル使用者の留意点について学ぶ。
25	(小腸・大腸機能障害)	経管栄養の実施(モデル)
26		人工膀胱・人工肛門造設者の実態を知る。
27	高次脳機能障害について	概要について理解する。
28	リハビリテーション関連職種との連携と協働	多職種の専門性に触れる。
29	障害の構造	ICFの分類について触れる。
30	まとめ	振り返り

授業科目名	基礎理学療法学		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	ビジュアルレクチャー 基礎理学療法学 大橋ゆかり 医歯薬出版株式会社	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	講義
30							
授業概要	理学療法とは何か、理学療法の役割、理学療法に必要な知識や主対象などを学習する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の全体像をつかみ、理学療法のやりがいやおもしろさを知る ・理学療法士について具体的なイメージをもてるようになる 						
評価方法	提出課題、発表、期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	理学療法の位置づけ ①理学療法の定義			理学療法についての基本的事項について学び、リハビリテーションとの関連やチームアプローチについて理解する。			
3	理学療法の位置づけ ②理学療法の歴史と理念						
4	理学療法の位置づけ ③理学療法とリハビリテーション						
5	理学療法の位置づけ ④チーム医療と関連職種						
6	グループワーク 理学療法士が働く場について調べる(1)						
7	グループワーク 理学療法士が働く場について調べる(2)			理学療法士が活躍する場所やそこの仕事内容について調べてまとめ、グループごとに発表する。また、他のグループの発表を聴き、さまざまな職域について知る。			
8	グループワーク 理学療法士が働く場について調べる(3)						
9	グループワーク 理学療法士が働く場について調べる(4)						
10	グループワーク 発表(1)						
11	グループワーク 発表(2)						
12	グループワーク 発表(3)						
13	グループワーク まとめ(1)						
14	グループワーク まとめ(2)						
15	中間まとめ						
16	理学療法関連の制度、法律 ①理学療法士及び作業療法士法(1)						
17	理学療法関連の制度、法律 ②理学療法士及び作業療法士法(2)						
18	理学療法関連の制度、法律 ③医療保険制度						
19	理学療法関連の制度、法律 ④介護保険制度(1)						
20	理学療法関連の制度、法律 ⑤介護保険制度(2)						
21	理学療法関連の制度、法律 ⑥その他						
22	理学療法の主対象 ①病期別			理学療法の領域とその対象について知る。			
23	理学療法の主対象 ②疾患別(1)						
24	理学療法の主対象 ③疾患別(2)						
25	グループワーク 理学療法の体系について調べる(1)			理学療法の体系について調べてまとめ、グループごとに発表する。また、他のグループの発表を聴き、さまざまな職域について知る。			
26	グループワーク 理学療法の体系について調べる(2)						
27	グループワーク 発表(1)						
28	グループワーク 発表(2)						
29	グループワーク まとめ						
30	総括						

授業科目名	基礎理学療法学		担当者名	山崎瞬・水野豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	講義資料PPTを見せます。	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	前期	必修	演習
30							
授業概要	演習を通して、理学療法士の基本的技術を学ぶ。動きやすい服装で参加してください。						
学習到達目標	基本的実技を体験することで、理学療法士の仕事をイメージ出来るようになる。						
評価方法	レポート、小テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーションとアイスブレイク			
2							
3	歩行補助具について			その人にあつた杖を自由自在に選ぶことができる。			
4							
5	歩行について			歩行について学ぶ。			
6							
7	バランスについて			閉眼片脚立位ができ、方法を理解できる。			
8							
9	筋力テストについて			握力測定ができ、方法を理解できる。			
10							
11	バイタルについて			脈の触診、血圧測定ができる。			
12							
13	ストレッチについて			ハムストリングスのストレッチを行い、可動域制限の原因がわかる。			
14							
15	関節可動域運動、足底について			膝関節屈曲、肘関節屈曲の関節可動域測定ができる。			
16							
17	理学療法に必要な解剖学「骨」			指定された骨の名前を答えることができる。			
18							
19	理学療法に必要な解剖学「筋」			指定された筋肉の名前を答えることができる。			
20							
21	車いすについて			車椅子の各部位の名前を答えられる。			
22							
23	体力テストについて			椅子座り試験を指導し、回数を数えられる。			
24							
25	オンラインリハビリテーション			オンライン理学療法の体験を行う。			
26							
27	レポート:「理学療法の資格を活用して私はどのようになるのか？」			2000字程度でレポートを書き、提出する。			
28							
29							
30							

授業科目名	基礎物理療法学		担当者名	小嶋 麻由佳			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 細田多穂 南江堂	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	各療法について特徴や手順、物理的刺激と生体に与える影響を学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物理療法の定義を学び、生理学・物理学などの基本を理解した上で物理療法の一部を実施できる。 各療法が生体に及ぼす作用、また適応と禁忌・リスク管理を理解する。 						
評価方法	期末筆記試験・出席・授業態度を総合的に判断する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	物理療法の背景と現状			物理療法の現状と今後の課題について説明できる。			
2	炎症と物理療法			炎症の治癒過程理解し、急性期と慢性期の物理療法について説明できる。			
3	痛みと物理療法			痛みの種類と痛みに対する物理療法の考え方を説明できる。			
4	物理療法が生体に及ぼす効果と適応禁忌			適応と禁忌について具体的な事例を説明できる。			
5	物理療法の種類① 寒冷療法 水治療法			各療法の定義と特徴、適応と禁忌を説明できる。			
6	物理療法の種類② 電気療法						
7	物理療法の種類③ 光線療法						
8	物理療法の種類④ マッサージ 牽引療法						
9	温熱療法 熱物理学			熱の伝達分類とその物理療法について説明できる。			
10	温熱の物理学①			温熱療法の種類と各療法の特徴について説明できる。			
11	温熱の物理学②			温熱の生体への影響について説明できる。			
12	ホットパック・パラフィン 講義			機器の使用方法、治療手順、注意点について説明できる。			
13	ホットパック・パラフィン 実技			効果とリスク管理を理解した上で安全に温熱療法を実施できる。			
14	リスク管理①			物理療法を行う上のリスク管理と療法士側の注意点を説明できる。			
15	リスク管理②			事故分析方法と対策の考え方を説明できる。			

授業科目名	運動療法総論 I		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	運動療法学 総論	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	講義
15							
授業概要	理学療法実施に必要な基本的な運動療法の知識を講義で学習する。						
学習到達目標	運動療法の定義を学び、運動による生体の変化を理解する。						
評価方法	期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	運動療法について			運動療法の定義・目的・対象について理解する。			
2							
3	関節の構造と運動、筋と筋収縮			関節運動の制限とその機序を理解する。			
4							
5	随意運動と運動制御			随意運動・運動制御のメカニズムについて理解する。			
6							
7	運動と呼吸			運動時の呼吸応答と調節について理解する。			
8							
9	運動と循環			運動時の循環器系の役割と適応、及びその障害について理解する。			
10							
11	運動と代謝			運動におけるエネルギー代謝について理解する。			
12							
13	組織の病態整理と修復：運動器			各組織の修復、再生過程を知る。			
14							
15	まとめ						

授業科目名	理学療法評価学 I		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法評価学 I 石川 朗 中山書店	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	講義
30							
授業概要	理学療法評価とは何かを知り、その意義や内容を理解する。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価とは何かを知り、その一連の流れについて理解する。 ・代表的な理学療法評価の方法とその結果の解釈について学ぶ。 						
評価方法	期末試験(筆記)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論 理学療法評価と障害モデル			理学療法評価の意義・目的、構成要素と展開を説明できる。障害モデルを説明できる。			
2							
3	総論 統合と解釈			理学療法評価の手順を説明できる。臨床思考過程の基本的な流れを説明できる。			
4							
5	全体像把握 情報収集、医療面接、フィジカルアセスメント			診療記録・診療録について理解する。医療面接の意義を理解する。バイタルサインと身体所見について理解する。			
6							
7	形態測定(1)			基本的な形態測定(1)の項目について、その概要を理解する(身長、体重、体格指数、四肢長、四肢周径)			
8							
9							
10	形態測定(2)						
11							
12	形態測定(3)						
13							
14	関節可動域測定(1)			関節可動域測定の意義と目的、原則と手順を理解する。			
15							
16	関節可動域測定(2)			関節可動域測定の意義と目的、原則と手順を理解する。			
17							
18	関節可動域測定(3) 上肢			上肢の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
19							
20	関節可動域測定(4) 上肢			上肢の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
21							
22	関節可動域測定(5) 下肢			下肢の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
23							
24	関節可動域測定(6) 下肢			下肢の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
25							
26	関節可動域測定(7) 体幹			体幹の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
27							
28	関節可動域測定(8) 体幹			体幹の基本軸、移動軸、測定肢位および注意点、参考可動域、代償運動を理解する			
29							
30	関節可動域測定(9)			日常生活と関節可動域の関連について理解する			

授業科目名	理学療法評価学Ⅰ		担当者名	森山 宏則、水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法評価学Ⅰ 石川 朗 中山書店	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	後期	必修	演習
30							
授業概要	理学療法評価学(講義)で学んだ理学療法評価の内容を踏まえ、実際に検査測定を行って手順を理解し、基本的な技術を習得する						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形態測定の一連の流れを理解し、実施できるようになる ・関節可動域測定の一連の流れを理解し、実施できるようになる 						
評価方法	実技試験(確認試験、期末試験)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	形態測定①イントロダクション			形態測定の意義、基本的な項目と方法、手順について学び、説明できるようになる。 また各測定に必要な指標を触診し、適切に測定することができる。			
3	形態測定②身長、体重、体格指数						
4	形態測定③測定器具の使い方、メジャーの当て方						
5	形態測定④四肢長(1)						
6	形態測定⑤四肢長(2)						
7	形態測定⑥四肢周径(1)						
8	形態測定⑦四肢周径(2)						
9	形態測定⑧まとめ						
10	形態測定確認テスト①四肢長						
11	形態測定確認テスト②四肢周径						
12	形態測定確認テスト③まとめ						
13	関節可動域測定①イントロダクション			関節可動域測定の意義と目的を理解し、説明できるようになる。 また基本軸、移動軸、参考可動域角度を述べることができ、適切に測定することができる。			
14	関節可動域測定②上肢(1)						
15	関節可動域測定③上肢(2)						
16	関節可動域測定④上肢(3)						
17	関節可動域測定⑤上肢(4)						
18	関節可動域測定⑥下肢(1)						
19	関節可動域測定⑦下肢(2)						
20	関節可動域測定⑧下肢(3)						
21	関節可動域測定⑨下肢(4)						
22	関節可動域測定⑩頭部、頸部、体幹(1)						
23	関節可動域測定⑪頭部、頸部、体幹(2)						
24	関節可動域測定⑫頭部、頸部、体幹(3)						
25	関節可動域測定⑬まとめ						
26	関節可動域測定確認テスト①上肢			関節可動域測定を基本的な技術レベルで実施できる。			
27	関節可動域測定確認テスト②下肢						
28	関節可動域測定確認テスト③頭部、頸部、体幹						
29	関節可動域測定確認テスト④まとめ						
30	総括						

授業科目名	地域理学療法論 I		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第3版 浅川 育世	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	1	通年	必修	演習
30							
授業概要	医療従事者の一員として地域理学療法の考え方や地域での役割について学ぶ。地域理学療法における制度やサービスを理解する。在宅理学療法の知識、生活環境や福祉用具・住宅改修等の幅広い視点で捉えられるよう、理解を深めていく。						
学習到達目標	地域理学療法の仕組みや現状を理解し、臨床に生かすことができる。						
評価方法	レポート、定期試験等						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	地域理学療法の考え方、地域リハビリテーションDVDを通して			地域理学療法考え方を理解する。DVDを通して地域リハとは何かを知る。(感想文)			
2	1章 地域リハビリテーション総論 I 地域リハビリテーションの概念			地域理学療法、地域リハビリテーションの成り立ちやその実際について学ぶ。			
3	II 地域理学療法の概念 III 多職種連携			リハビリテーションにおける多職種の連携について学ぶ。			
4	2章 I 地域理学療法の対象者 II 介護保険制度			介護保険制度を理解する。			
5	III 障害者総合支援法 IV 地域における社会資源			障害者総合支援法について学ぶ。			
6	V 地域包括システムの構築 VI 地域共生社会			地域包括ケアシステムについて学ぶ。			
7	3章 I 要介護認定とケアマネジメント			要介護認定とケアマネジメントについて学ぶ。			
8	II 介護保険における理学療法 III 特定疾病の特徴と介入への視点			介護保険における介護サービスについて学ぶ。			
9	4章 I 在宅医療に関わる知識			在宅における呼吸、栄養、褥瘡について学ぶ。			
10	II 健康状態と評価のリスク管理			バイタルサインやリスク管理、緊急時の対応			
11	III 住環境の整備			住環境の評価、住宅改修の実際について学ぶ。			
12	IV 福祉用具の導入			福祉用具の給付・貸与について理解し、車いすなどの福祉用具について知識を深める。			
13	V 動作指導と介助方法の指導 VI 健康増進への取り組み			在宅での動作指導や介助方法について学ぶ。介護予防、健康増進について学ぶ。			
14	VII 終末期リハビリテーション			在宅での終末期リハビリテーションについて学ぶ。			
15	まとめ 前期末試験対策			前期の学習の復習を行う。			
16	急性期から生活期のリハビリテーションについて			DVD鑑賞			
17							
18	介護保険における介護サービスについて グループワーク			理学療法士が関わる介護保険における介護サービスについてグループワークで調べてまとめる。どのようなサービスがどのような役割があるか、そのサービス内での理学療法士の役割についてまとめて、パワーポイントを使って発表する。			
19							
20	介護保険について						
21							
22	介護保険について 発表						
23				実際に対象とされるケースの、症例検討を通して、グループで演習課題について話し合い、どのように支援すればよいか考える。			
24	症例検討 施設入所例						
25							
26	症例検討 在宅復帰例						
27							
28	症例検討 在宅例						
29							
30	まとめ						

授業科目名	人間関係論		担当者名	山崎瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	系統看護学講座 人間関係論 石川ひろの 医学書院	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2	通年	必修	講義
30							
授業概要	すべてアクティブラーニングで行う。人生100年時代に対応するための授業となる。人生を生きていくうえで人とつながりは避けて通ることはできないし、人は一人では絶対に生きていくことはできない。一方で人と人がかかわるとトラブルになることもある。特に理学療法士教育における臨床実習は実習指導者との1対1の関係性になりやすく、相性が合う合わないは必ず起こりうる。また仕事を進めていくうえでも避けて通れない。本講義では人間関係について多角的な視点を得ることで、目下の臨床見学実習、加えて社会人基礎力としてのコミュニケーション能力を鍛える。						
学習到達目標	自分の人生で幸せになるためには何が必要なのかを説明できる。						
評価方法	各単元の課題の達成度を評価する。クラスメート3名のサインをもらった場合6点、2人の場合4点、1人の場合2点、0人の場合0点とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			オリエンテーション、アイスブレイク			
2	キャリアを考える①お金はどれだけ必要か？			自分が本当に欲しいものと一緒に表にする。その値段を調べ、クラスのみんが納得する「自分が社会人になったときに総資産としてどれくらいが必要で、年収がいくら必要か」をまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
3	キャリアを考える①雇用形態を考える。			クラスのみんが納得する「長期蓄積能力活用型グループのメリット」、「高度専門能力活用型のメリット」、「雇用柔軟型グループのメリット」をそれぞれ200字程度でまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
4	キャリアを考える②労働者の権利とは？			クラスのみんが納得する「ブラック企業がどのような法に反しているか」を800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
5	キャリアを考える③結婚のメリットデメリット			「結婚にかかる諸費用」「結婚した人となし人の収入/支出の比較」「日本の離婚率と離婚に伴う損失」を調べ、クラスのみんが納得する「結婚するから得られるメリット」「結婚しないから得られるメリット」をそれぞれ200字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
6	キャリアを考える④子育てのメリットデメリット			日本人の世帯当たりの所得、子供を育てるために必要な費用、子供を育てることによって得られる手当を調べ、クラスのみんが納得する「子供を育てるから得られるメリット」「子供を育てないから得られるメリット」をそれぞれ200字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
7	キャリアを考える⑤老後を考える			「夫婦世帯と単身世帯の収入/支出の比較」「核家族世帯と二世帯、三世帯世帯の収入/支出の比較」を調べ、クラスのみんが納得する「伴侶がいて子供がいる場合の願う老後の生活」「伴侶がいて子供がいない場合の願う老後の生活」をそれぞれ200字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
8	キャリアを考える⑥どこで働くのか？			将来、地元で生活するか地元を出て生活するかを決める。そのうえで、クラスのみんが納得する「自分が生活する理由」「地元を出て生活する理由」をそれぞれ400字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
9	キャリアを考える⑦お金はどれだけ必要か？2			クラスのみんが納得する「自分が大人になったときに自分が幸せになるには、1か月の給料はいくら必要か」をまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
10	キャリアを考える⑧有期雇用で成功するには			クラスのみんが納得する「理学療法を使ったロボットや人工知能ではできない独自の高い技術・商品」を考える。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
11	キャリアを考える⑨新時代の理学療法とは？			理学療法を生かして海外で活躍できる未来の仕事を見つける。クラスのみんが納得する「その仕事には今後可能性があるという説明」を作成する。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
12	2～11コマのまとめ			2～11時で行ったことを800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
13	人間関係基礎論 人間関係の中の自己と他者			①あなたは自分のことをどのような人間だと考えているだろうか？ 思いつく特性を挙げてみよう。②①で挙げた項目を自己概念の分類にあてはめて整理し、クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
14	人間関係をつくる理論と技法①カウンセリングと心理療法			専門的な技法である「心理療法」について調べ、800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			
15	人間関係をつくる理論と技法②コーチング			専門的な技法である「コーチング」について調べ、800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。			

16	人間関係をつくる理論と技法③アサーティブコミュニケーション	専門的な技法である「アサーティブコミュニケーション」について調べ800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
17	人間関係をつくる理論と技法④	日常生活で具体的にどのように心理療法、コーチング、アサーティブコミュニケーションを使うとよいか。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
18	11～16コマのまとめ	11～16時で行ったことを800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
19	予備	
20	自分自身の身を守る。	「理学療法士、実習生、パワーハラスメント」を調べ、自分自身が被害にあわないためにどのような対策をすべきか、400字にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
21	患者を支える人間関係①患者と医療者の関係	クラスみんなが納得する対応した患者に「死にたい」と言われた時の適切な対応方法について調べ。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
22	患者を支える人間関係③終末期の患者を支える人間関係	終末期の「看取り」でおこりうる問題点を調べ、それに対処する具体的な方法を調べ、クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
23	患者を支える人間関係④関係構築が難しい患者との人間関係	人は生きる苦しみを抱えている。「生きる苦しみを抱えている人に何ができるのか、具体的な方法を考え400字にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
24	家族を含めた人間関係②虐待	「高齢者虐待」について調べ、「虐待を防止するためにできること」、「虐待と思われる状況に遭遇した場合」にすべき対処方法をそれぞれ200字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
25	家族を含めた人間関係③在宅療養中の患者と家族	2022年1月27日に発生した「埼玉県訪問診療医射殺事件」について調べ、「どのように対処したら事件を防ぐことができたか」について800字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
26	地域をつくる人間関係①地域共生社会	「地域共生社会」とは何か調べ、自分が地域共生社会を実現するためにできることを400字程度にまとめる。クラスの人に説明して、納得してもらったらサインをもらう。納得してもらえなかったら、どこが納得してもらえないかを聞き、改良してサインをもらう。クラス全員が3人のサインをもらう。
27	ポスターセッション	授業でやったことをまとめ、教室内で発表する。
28		
29		
30		

授業科目名	体表解剖学		担当者名	山崎瞬・森山宏則			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	プライマリーケアのその前にPTM触診法と皮膚刺激ツールの貼付ポイント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2年	後期	必修	演習
30							
授業概要	指定する各部位の触診ができるようになる。かつ再現性が得られるようにする。服装は半袖・短パンにする。						
学習到達目標	指定する各部位の触診ができるようになる。かつ再現性が得られるようにする。						
評価方法	実技試験、評価方法は指定された部位を触診し、教授者が確認し1センチ以内のずれを合格とする。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション、別紙要綱を配布する。						
2	2 3 4 上肢 5 肩峰, 肩鎖関節, 大結節, 小結節, 上腕骨内側上顆, 外側上顆, 橈骨頭, 橈骨茎状突起, 胸鎖関節 6 7 烏口上腕靭帯, 長母指外転筋, 短母指伸筋, 上腕筋, 上腕二頭筋, 上腕三頭筋長頭, 総指伸筋, 長短橈側手根伸筋, 円回内筋, 長掌筋, 橈側手根屈筋, 尺側手根屈筋, 屈筋支帯, 伸筋支帯 8 9 10 11			左に掲示してある部位を触診し、その位置にシールを貼る。1人当たり、3人のクラスメートを触診する。触診の被験者となったクラスメート以外に正確に触診できているか確認してもらい、正確に触診できていたらサインをもらう。クラス全員がサインをもらう。			
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21	21 22 23 24 下肢 25 大転子, 内転筋結節, 膝関節裂激(脛骨近位端, 大腿骨内外側顆,) 腓骨頭, 脛骨内果, 腓骨外果, 第5中足骨底 26 27 28 29 30						
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							

授業科目名	運動学実習		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 運動学実習 基礎運動学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	前期	必修	実習
45							
授業概要	運動学で修得した知識をもとに、実際の身体運動を分析することを通じて、その仕組みについてさらに理解を深めていくことがねらいである。						
学習到達目標	体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。また、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動・動作の特徴やその仕組み、さらには運動学的計測手法について理解する。						
評価方法	レポート、小テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	下肢帯および下肢の機能解剖と関節運動①			下肢帯および下肢を構成する組織を体表からとらえる。			
2	骨・筋の触察						
3							
4	下肢帯および下肢の機能解剖と関節運動②			下肢における各関節運動の運動学的特徴を理解する。			
5	関節運動の観察、関節可動域に影響を及ぼす要因、足アーチの観察						
6							
7	上肢帯および上肢の機能解剖と関節運動①			上肢帯および上肢を構成する組織を体表からとらえる。			
8	骨・筋の触察						
9							
10	上肢帯および上肢の機能解剖と関節運動②			上肢における各関節運動の運動学的特徴を理解する。			
11	関節運動の観察、関節可動域に影響を及ぼす要因、種々の日常生活動作に必要な上肢関節の可動域						
12							
13	上肢帯および上肢の機能解剖と関節運動③			手のアーチを理解する。手指の運動における運動学的特徴を理解する。手の把持機能を理解する。			
14	手のアーチの観察、関節運動とその可動域に影響を及ぼす要因、種々の把持の観察						
15							
16	脊柱・体幹の機能解剖と関節運動①			脊柱ならびに体幹を構成する組織を体表からとらえる。			
17	骨・筋の触察						
18							
19	脊柱・体幹の機能解剖と関節運動②			脊柱・体幹における運動学的特徴を理解する。			
20	脊柱の運動と可動域計測、脊柱の湾曲の観察、呼吸時の胸郭運動の観察						
21							
22	筋力			関節トルク概念を理解する。関節トルクに影響を及ぼす要因を理解する。			
23	関節トルク概念と計測方法、関節トルクと関節角度・筋収縮様式・関節運動速度との関係						
24							
25	姿勢①(静止姿勢)			人体の重心位置の算出方法を理解する。立位姿勢のアライメント評価方法を理解する。支持基底面と重心の関係からみた姿勢の安定性を理解する。			
26	身体重心の測定(直接法と間接法)、安静立位姿勢のアライメント評価、立位姿勢の身体重心位置と支持基底面との関係						
27							
28	姿勢②(姿勢制御)			重心動揺計概念を理解する。安静立位時の重心動揺と影響を及ぼす要因を理解する。種々の立ち直り・バランス反応を理解する。			
29	重心動揺計とは、重心動揺計の計測方法、感覚入力と立位時重心動揺、立位姿勢における立ち直り・バランス反応の観察						
30							

31	動作分析①	正常な基本動作の運動学的特徴を理解する。運動学用語を用いた動作の記述方法を理解する。
32	身体動作の観察	
33		
34	動作分析②	観察を用いた動作分析方法を理解する。運動学用語を用いた動作の記述方法を理解する。
35	観察を用いた身体動作の分析	
36		
37	歩行①	正常歩行の運動学的特徴を理解する。観察を用いた歩行分析方法を理解する。
38	動作の観察	
39	歩行の時間・距離因子、下肢関節運動、床反力	
40	歩行②	観察を用いた歩行分析方法を理解する。運動学用語を用いた動作の記述方法を理解する。
41	観察を用いた歩行の分析	
42		
43	呼吸と循環	運動時の呼吸循環反応を理解する。運動負荷試験の手法を理解する。
44	運動負荷試験とは、運動時の呼吸・循環反応	
45		

授業科目名	臨床運動学		担当者名	水野豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	運動学テキスト 改訂第2版 細田多穂監修 南江堂	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法学科	2	後期	必修	演習
30							
授業概要	筋骨格系疼痛は日本人の有訴率の上位を占めており、産業生産性の低下やQOLの低下につながる。本授業では、「基礎運動学」の復習をしながら、一般的によく見られる基本的な筋骨格系の理学療法評価を実際に実施し、問題点となる解剖学的部位を抽出する。						
学習到達目標	グループごとに分かれ、日常でよくみられる筋骨格痛に対しての理学療法評価を実施し、筋力・可動域・主観的疼痛が前後でどのように変化するのかを評価する。						
評価方法	筆記試験 レポート内容 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション、グループ決め			身体の部位ごとに臨床でよくみられる機能障害をしり、その病態を運動学的に説明ができる。			
2							
3	肩関節の構造と機能障害						
4							
5	肘関節・前腕の構造と機能障害						
6							
7	手・手関節の構造と機能障害						
8							
9	骨盤・股関節の機能と機能障害						
10							
11	膝関節の機能と機能障害						
12							
13	足関節の機能と機能障害						
14							
15	顔面・咀嚼・嚥下の機能障害						
16							
17	頭部・頸部の機能障害						
18							
19	まとめ①						
20							
21	まとめ②						
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							

授業科目名	リハビリテーション医学		担当者名	渡邊 裕志／鈴木 文歌／(尾形 由美子)			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり、(その他)			
教科書	リハビリテーション医学テキスト (南江堂)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2年	後期	必修	講義
	30						
授業概要	リハビリテーション医療の主要な対象疾患とその疾患に伴う障害について学習する。 一般医学における診断、治療の概要を理解した上で、リハビリテーション医学の観点からの障害の評価、アプローチを学ぶ。						
学習到達目標	リハビリテーション専門職として必要な疾病の概要を習得する						
評価方法	授業への出席と筆記試験により判定する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	脳疾患とそのリハビリテーション(1)			脳卒中を中心とした脳疾患を理解する。			
2	脳疾患とそのリハビリテーション(2)			"			
3	脳疾患とそのリハビリテーション(3)			脳疾患に伴う障害とアプローチを学ぶ。			
4	骨関節疾患とそのリハビリテーション(1)			脊椎および四肢の骨関節疾患を理解する。			
5	骨関節疾患とそのリハビリテーション(2)			"			
6	骨関節疾患とそのリハビリテーション(3)			骨関節疾患に伴う障害とアプローチを学ぶ。			
7	脊髄疾患とそのリハビリテーション(1)			脊髄損傷に伴う障害を理解する。			
8	脊髄疾患とそのリハビリテーション(2)			"			
9	脊髄疾患とそのリハビリテーション(3)			脊髄損傷に対するアプローチを学ぶ。			
10	神経筋疾患・変性疾患とそのリハビリテーション(1)			主要な中枢変性疾患とその障害内容を理解する。			
11	神経筋疾患・変性疾患とそのリハビリテーション(2)			"			
12	神経筋疾患・変性疾患とそのリハビリテーション(3)			主要な神経筋疾患とその障害について理解する。			
13	切断とそのリハビリテーション(1)			義肢など切断に対するアプローチを学ぶ。			
14	切断とそのリハビリテーション(2)			"			
15	廃用障害(1)			廃用症候群を理解する。			
16	廃用障害(2)			"			
17	高齢者に対するリハビリテーション(1)			高齢者の特性を学ぶ。			
18	高齢者に対するリハビリテーション(2)			"			
19	内部障害とそのリハビリテーション(1)			循環器疾患とそのリハビリテーションを学ぶ。			
20	内部障害とそのリハビリテーション(2)			"			

21	内部障害とそのリハビリテーション(3)	呼吸器疾患とそのリハビリテーションを学ぶ。
22	内部障害とそのリハビリテーション(4)	〃
23	小児疾患とそのリハビリテーション(1)	発達障害のリハビリテーションについて理解する。
24	小児疾患とそのリハビリテーション(2)	〃
25	小児疾患とそのリハビリテーション(3)	脳性麻痺を主とした小児疾患のリハを学ぶ。
26	小児疾患とそのリハビリテーション(4)	〃
27	小児疾患とそのリハビリテーション(5)	筋ジストロフィーを主とした小児疾患のリハを学ぶ。
28	小児疾患とそのリハビリテーション(6)	
29	小児疾患とそのリハビリテーション(7)	二分脊椎を主とした小児疾患のリハを学ぶ。
30	小児疾患とそのリハビリテーション(8)	

授業科目名	内科学／老年学		担当者名	渡邊 裕志、武田 和久			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学、標準 理学療法学・作業療法学 専門 基礎分野 老年学 第4版（医 学書院）	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2年	通年	必修	講義
	30						
授業概要	リハビリテーション医療に密接な関わりのある高齢者についての学問である老年学について学習する。 内科学的診察手法と基本的な症候、および主要な疾患の診断・治療を解説する。						
学習到達 目標	現在の日本の高齢者の実態、高齢者特有の症候、高齢者の身体・認知機能の評価方法を習得しリハビリテーションスタッフとして必要な知識を身につける。 内科における主要な疾患の知識を習得し、安全なリハビリテーション医療の遂行が行えるようにする。						
評価方法	授業への出席と筆記試験の総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	高齢者の定義、老化のプロセス、高齢者医療に必要な考え方について			リハビリ医療者として高齢者に関与する際に必要な視点を学ぶ。			
2	老化に伴う身体、認知、精神心理機能について			老化を知ることで高齢者が理解できるようになる。			
3	高齢者の身体機能、認知機能の評価方法について			高齢者に関わる際にその機能、能力を客観的に評価できるようになる。			
4	老年症候群について①(意識障害、認知症など)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
5	老年症候群②(腰痛、歩行障害、転倒など)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
6	老年症候群③(寝たきり、廃用症候群、サルコペニア、フレイルなど)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
7	老年症候群④(嚥下障害、呼吸器疾患、循環器疾患など)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
8	老年症候群⑤(消化器疾患、運動器疾患など)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
9	老年症候群⑥(パーキンソン病、脳卒中、うつ病など)			高齢者に特有の症候が理解出来るようになる。			
10	高齢者の医療、福祉、介護について			高齢者の医療制度、介護保険制度などの社会制度のルールを学ぶ。			
11	内科診察の概要			医学・医療における内科の位置づけと診察手法を学ぶ。			
12	内科的診断手法			内科における各種診断技法を学ぶ。			
13	内科症候学(1)			内科で多くみられる症候を理解する。			
14	内科症候学(2)			内科で多くみられる症候を理解する。			
15	循環器疾患(1)			循環器の解剖生理と病態を理解する。			
16	循環器疾患(2)			心不全と不整脈について理解する。			
17	循環器疾患(3)			各種心疾患の症候・診断を学ぶ。			
18	呼吸器疾患(1)			呼吸器の解剖生理と病態を理解する。			
19	呼吸器疾患(2)			呼吸不全とその診断学を学ぶ。			
20	呼吸器疾患(3)			各種呼吸器疾患の症候・診断を学ぶ。			

21	消化器疾患(1)	消化器の解剖生理と病態を理解する。
22	消化器疾患(2)	各種消化器疾患の症候・診断を学ぶ。
23	肝・胆・膵疾患(1)	肝・胆・膵の解剖生理と病態を理解する。
24	肝・胆・膵疾患(1)	各種肝・胆・膵疾患の症候・診断を学ぶ。
25	代謝疾患(1)	代謝機能とその病態を理解する。
26	代謝疾患(2)	各種代謝疾患の症候と診断を学ぶ。
27	血液疾患	造血機能と血液の病態、診断を学ぶ。
28	免疫アレルギー性疾患	免疫機能の病態と膠原病を主とした診断を学ぶ。
29	内分泌疾患	内分泌機能とその病態・診断を学ぶ。
30	腎疾患	腎の解剖生理と病態、診断を学ぶ。

授業科目名	整形外科学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		時間数					
		45	理学療法科	2	通年	必修	講義
授業概要	整形外科領域の主たる対象疾患とそれによって生じる障害の内容を学習する。診断手法、治療技術の概要を理解した上で、整形外科的な観点からの評価とアプローチについて習熟する。						
学習到達目標	整形外科領域の主たる対象疾患について、診断手法、治療技術、評価とアプローチについて理解する						
評価方法	筆記試験を行い学習状況を確認する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論 正常構造と機能			正常構造と機能			
2	骨・関節			骨の整理と生化学			
3	基本用語と主要症候			基本肢位			
4	関節可動域、関節の症候			ROM,拘縮、関節の症候			
5	身体診察法			四肢長の測定			
6	四肢長の測定、異常歩行、跛行			歩行、筋力テスト			
7	検査			炎症性疾患			
8	血液、尿生化学検査			生体検査、関節液検査			
9	画像診断			単純X線、MRI			
10	治療法総論			シンチグラフィ、造影			
11	骨移植			骨移植の目的、骨誘導、骨伝導			
12	リハビリテーション治療			物理療法、運動療法、装具			
13	外傷相、スポーツによる外傷			骨折、脱臼、捻挫			
14	外傷総論			RSD 控減症候群			
15	肩関節部の外傷			腱板断裂、腱断裂、肩関節脱臼			
16	上腕骨骨幹部骨折			上腕骨骨幹部骨折			
17	肘関節部の外傷			上腕骨顆上骨折、外側顆骨折			
18	前腕骨骨折			橈骨・尺骨骨幹部骨折			
19	手の外傷			腱損傷、骨折			
20	股関節部の外傷			大腿骨近位部骨折			
21	大腿骨骨幹部骨折			外傷性股関節脱臼			
22	膝関節部の外傷			半月板損傷、靭帯損傷、膝蓋骨脱臼			
23	下腿部の外傷			下腿骨骨折、区画症候群、アキレス腱断裂			
24	足関節部の外傷			捻挫、果部骨折			
25	脊髄損傷			頸椎損傷、胸腰椎損傷			
26	脊髄損傷			脊髄損傷の症状と診断・治療・予後			
27	骨盤外傷			骨盤骨折			
28	末梢神経損傷			末梢神経損傷、腕神経叢損傷			
29	疾患各論			肩関節部の疾患			
30	肩関節部の疾患			肩関節周囲炎、インピンジメントなど			
31	肘関節部の疾患			肘内障、変形性肘関節症			
32	手関節部の疾患			腱鞘炎、拘縮、変形、ガングリオンなど			

33	股関節部の疾患	変形性股関節症、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死等
34	膝関節部の疾患	内反膝、外反膝、反張膝、その他など
35	足と足関節部の疾患	アキレス腱滑液包炎など
36	斜頸	分類、先天性筋性斜頸
37	側彎症	脊柱側彎症など
38	椎体疾患・椎間板症	頸椎椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、椎間板ヘルニアなど
39	脊髄腫瘍、脊椎腫瘍	脊髄・脊椎腫瘍
40	胸郭の疾患	胸郭出口症候群
41	骨の系統疾患、代謝性疾患	骨粗鬆症、骨形成不全、痛風など
42	骨端症	骨端症 各種
43	骨・関節の感染症	化膿性骨髄炎、化膿性関節炎
44	非感染性関節疾患	関節リウマチ、悪性関節リウマチなど
45	骨腫瘍・軟部腫瘍	骨腫瘍、軟部腫瘍等

授業科目名	神経内科学		担当者名	柳澤 輝行			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	病気がみえる (vol.7) 脳・神経 (メディックメディア)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	理学療法科	2	前期	必修	講義
45							
授業概要	リハビリテーションに携わる専門職種として必要な神経内科学について講義する。						
学習到達目標	視覚情報に優れた教科書を用いて、神経科学・脳神経内科と外科の基本・重要項目の理解と修得をもとに、リハビリテーションの理論と実践につなげる。						
評価方法	定期試験による						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	神経系の構造と機能			中枢神経系、末梢神経系、脳と頭蓋			
2	ニューロンとグリア細胞			構造と機能、活動電位、チャネル、神経伝達物質、受容体、情報伝達系			
3	膜電位とシナプス伝達						
4	大脳皮質			前頭・後頭・側頭・頭頂葉の構造と機能			
5	大脳辺縁系・大脳基底核			大脳辺縁系・大脳基底核の構造と機能			
6	間脳・脳幹・小脳			間脳・脳幹・小脳の構造と機能			
7	主要な神経学的症候			系統別神経学的症候、意識障害、植物状態と脳死			
8	意識障害・不随意運動			眼の異常、不随意運動の鑑別、歩行の異常			
9	診察と検査			神経診察の診療録、検査の種類			
10	脳動脈			脳動脈の走行と模式図、ウィリス動脈輪			
11	脳血管障害			脳卒中主要3疾患、危険因子、介護原因			
12	脳梗塞-1			脳梗塞の病型分類と特徴			
13	脳梗塞-2			脳梗塞の治療			
14	脳内出血			高血圧、出血部位と治療方針			
15	脳動脈瘤・くも膜下出血			脳動脈瘤の好発部位、破裂後の出血			
16	脳血管障害のリハビリテーション-1			発症からの経過、脳の可塑性、チーム医療			
17	脳血管障害のリハビリテーション-2			廃用症候群の予防、障害と訓練			
18	その他のリハビリテーション			種々の神経系疾患のリハビリテーション			
19	高次脳機能障害全体像			失語症、失行症、失認症、認知症			
20	失語			言語中枢、失語図式			
21	認知症			定義、疫学、症状、アルツハイマー型、血管性			
22	脳静脈・髄液循環とその障害			脳静脈の走行、髄液循環、脳室、水頭症			
23	頭蓋内圧亢進			頭蓋内圧亢進の病態、症状、脳浮腫、治療			
24	脳ヘルニア			脳ヘルニアの病態、分類、呼吸停止			
25	運動と感覚			運動と感覚、随意運動、錐体路、反射			
26	運動とその障害			運動の異常、運動の調節			
27	感覚とその障害			感覚の種類、感覚障害、末梢神経障害			
28	自律神経とその障害			自律神経構成・経路、伝達物質、受容体、障害治療薬			
29	脳神経とその障害-1			脳神経の全体像、機能			
30	脳神経とその障害-2			三叉神経痛、顔面神経麻痺			

31	脊髄とその障害	脊柱と脊髄の構造、脊髄疾患
32	末梢神経とその障害	ニューロパチーの病型
33	脱髄性疾患	脱髄性疾患の分類、多発性硬化症
34	神経変性疾患-1	運動ニューロン、大脳基底核、小脳、脊髄の変性疾患
35	神経変性疾患-2	ALS、パーキンソン病、SCD
36	筋疾患-1	ミオパシーの定義と分類、筋ジストロフィー
37	筋疾患-2	後天性筋疾患、神経筋接合部疾患
38	代謝性神経障害	代謝性神経障害の分類と代表例
39	感染性疾患	髄膜炎、脳炎、脳症、プリオン病
40	頭痛	一次性。二次性頭痛、片頭痛、治療薬
41	てんかん	てんかん分類、診断、治療、抗てんかん薬
42	母斑症・先天奇形	神経皮膚症候群と先天奇形の総論、症状、診断
43	腫瘍	原発性脳腫瘍の組織型分類、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍
44	外傷	総論、頭蓋骨骨折、頭蓋内血種
45	まとめ	

授業科目名	精神医学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	「標準理学療法学・作業療法学」専門基礎分野 精神医学 第2版 医学書院	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2年	通年	必修	講義
	30						
授業概要	精神医学的な症状と診察手法、および主要な疾患の症状・治療を概説する。また精神科領域における社会保障制度を講義する。						
学習到達目標	精神医学の基礎的概念を理解し、臨床各論の知識を身につける						
評価方法	授業への出席と筆記試験の総合成績						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論・精神医学概観			精神医学の歴史を学び、現代の精神医学的な考え方を理解する。			
2	疾患分類、精神症状の概要(1)			精神疾患の分類を学ぶ。主要な精神症状を理解する。			
3	精神症状の概要(2)			主要な精神症状を理解する。			
4	精神症状の概要(3)			主要な精神症状を理解する。			
5	精神障害の診断(1)			精神科的診察手法と診断について学ぶ。			
6	精神障害の診断(2)			精神科医療で用いられる各種検査について。			
7	脳器質性精神障害(1)、認知症の概要			認知症を生じる脳器質性疾患を学ぶ。			
8	脳器質性精神障害(2)			認知症以外の脳器質性疾患による精神障害を学ぶ。			
9	症状性精神障害			内科疾患等に付随する精神障害を学ぶ。			
10	精神作用物質による障害			薬物を含む精神作用物質が精神機能に及ぼす影響を理解する。			
11	てんかんの分類と症状			各種てんかんの内容、症状を理解し、てんかん脳波の見方を学ぶ。			
12	てんかんの治療とケア			てんかんの薬物治療を学ぶ。			
13	統合失調症の概要と症状(1)			統合失調症の概念を学ぶ。			
14	統合失調症の概要と症状(2)			統合失調症の症状を理解する。			
15	統合失調症の経過と予後、治療(1)			統合失調症の分類と予後を学ぶ。			
16	統合失調症の経過と予後、治療(2)			統合失調症の薬物治療を学ぶ。			
17	気分障害(1)			気分障害の概念を学ぶ。			
18	気分障害(2)			うつ病の病態と症状を理解する。			
19	気分障害(3)			双極性障害を理解し、気分障害の薬物治療。			
20	神経症性障害(1)			神経症の考え方と疾患分類を学ぶ。			

21	神経症性障害(2)	神経症としての各種病態、症状を理解する。
22	生理的・心理的要因による障害	神経因性食思不振と睡眠障害について学ぶ。
23	人格障害と発達障害	人格の考え方とその障害、および発達障害の概要を理解する。
24	精神遅滞	精神遅滞を生じる疾患を学び、精神遅滞の
25	ライフサイクルと精神障害(1)	出生から死に至るライフサイクルの中で生じる種々の精神科的問題を考察する。
26	ライフサイクルと精神障害(2)	各ライフステージにおける主要な精神障害を
27	精神障害の治療とリハビリテーション(1)	精神科医療で用いられる薬物とその治療効果を学ぶ。
28	精神障害の治療とリハビリテーション(2)	薬物以外の精神科的治療手法を学ぶ。
29	精神保険医療と福祉(1)	精神保健福祉法を中心とした、精神科領域の法的基盤を理解する。
30	精神保険医療と福祉(2)	精神科医療と各種福祉制度との関連を理解する。

授業科目名	小児科学		担当者名	及川 隆司			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野小児科学(医学 書院)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	講義
15							
授業概要	小児科学についての各論を解説する。小児の発達、小児と成人との相違点を理解することを目標とする。また、小児特有の疾患について解説し、理学療法・作業療法との関連についても理解を深める。						
学習到達目標	小児特有の疾患について理解する						
評価方法	出席・定期試験により評価を行う						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	小児科学概論			小児の成長発育の理解			
2	診断と治療の概要			小児領域の診断と治療			
3	新生児・未熟児疾患			新生児の評価・特有の疾患			
4	先天異常と遺伝病			遺伝子の障害・先天奇形・代謝異常			
5	神経・筋・骨系疾患			中枢神経・末梢神経に異常をきたす疾患			
6	循環器系疾患			先天性心疾患と後天性心疾患の症状と検査			
7	呼吸器疾患			発生と機能、治療と処置			
8	感染症			各年代での代表的感染症			
9	消化器疾患			機能的発達と乳児期の特徴、消化器疾患			
10	内分泌・代謝疾患			内分泌、糖代謝異常			
11	免疫・アレルギー疾患・膠原病			免疫とアレルギー、自己免疫疾患、膠原病			
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患			腎・泌尿器系疾患			
13	腫瘍性疾患			悪性腫瘍・各論			
14	心身症・神経症など			習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待			
15	重症心身障害児、眼科・耳鼻科疾患			重症心身障害児特有の問題、眼科・耳鼻科			

授業科目名	薬理学		担当者名	柳澤 輝行			
			実務経験	医師として病院での勤務経験あり			
教科書	柳澤輝行、小橋史著： 休み時間のワークブック薬理学 講談社	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	講義
30							
授業概要	薬理学的にからだと身近な病気を理解する。薬理学では生体の階層性と情報伝達系が大切です。身近な病気に対し薬がなぜ効くのかを理解し、なぜ副作用が生じるのかを学びます。						
学習到達目標	医療において科学的な薬物療法は必須です。医学をもとにする薬理学は薬物と生体の相互作用をあつかう学問です。薬理学によりからだ、身近な病気、薬の理解を深めましょう。						
評価方法	期末試験と出席率そして能動的学習態度により総合的に評価します。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	薬理学総論1【Chapter1】			作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体			
2	薬理学総論2【Chapter1】			治療機序：細胞から生体レベルまで、情報伝達系			
3	薬理学総論3【Chapter1】			薬物動態、薬物療法			
4	末梢神経系に作用する薬1【Chapter2】			自律神経系薬総論、交感神経系薬			
5	末梢神経系に作用する薬2【Chapter2】			副交感神経系薬、アセチルコリン受容体			
6	末梢神経系に作用する薬3【Chapter2】			筋弛緩薬、局所麻酔薬			
7	中枢神経系に作用する薬1【Chapter3】			中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬			
8	中枢神経系に作用する薬2【Chapter3】			抗てんかん薬、鎮痛薬			
9	中枢神経系に作用する薬3【Chapter3】			抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬(気分安定薬)			
10	中枢神経系に作用する薬4【Chapter3】			パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用			
11	循環器系に作用する薬1【Chapter4】			循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬			
12	循環器系に作用する薬2【Chapter4】			脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬			
13	循環器系に作用する薬3【Chapter4】			虚血性心疾患治療薬、			
14	循環器系に作用する薬4【Chapter4】			心不全治療薬			
15	循環器系に作用する薬5【Chapter4】			抗不整脈薬			
16	体液・血液系に作用する薬1【Chapter4】			利尿薬、体液と輸液			
17	体液・血液系に作用する薬2【Chapter4】			貧血治療薬、造血因子			
18	体液・血液系に作用する薬3【Chapter4】			止血薬、抗血栓薬			
19	呼吸器系に作用する薬1【Chapter5】			気管支喘息治療薬			
20	呼吸器系に作用する薬2【Chapter5】			抗ヒスタミン薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬			
21	消化器系に作用する薬【Chapter5】			催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬			
22	代謝・内分泌系疾患治療薬1【Chapter6】			糖尿病治療薬			
23	代謝・内分泌系疾患治療薬2【Chapter6】			脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬			
24	代謝・内分泌系疾患治療薬3【Chapter6】			骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン			
25	代謝・内分泌系疾患治療薬4【Chapter6】			甲状腺疾患治療薬、ステロイドホルモン			
26	免疫系に作用する薬【Chapter7】			免疫抑制・賦活薬、			
27	感覚・皮膚系に作用する薬【Chapter7】			緑内障・メニエール病治療薬、皮膚科治療薬			
28	泌尿・生殖器系に作用する薬【Chapter7】			前立腺肥大症、過活動膀胱、流産と分娩			
29	抗菌薬、抗ウイルス薬【Chapter7】			抗菌薬、抗ウイルス薬			
30	抗悪性腫瘍薬【Chapter7】			発がん機序、抗悪性腫瘍薬			

授業科目名	言語聴覚概論		担当者名	片岡 由夏			
			実務経験	言語聴覚士として病院での勤務経験あり			
教科書	教科書は指定しない	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	講義
		15					
授業概要	言語聴覚士の養成過程や、その職務内容について学び、理学療法士、作業療法士との専門性の差異を知る。また、言語聴覚士が診療の対象としている幅広い疾患、障害について、その概要を学び、理解する。						
学習到達目標	言語聴覚士の専門性や職務内容について知り、理学療法士、作業療法士として業務に従事する際、チームアプローチの視点を持つことができる。また、言語聴覚障害について正しい知識を持ち、言語聴覚障害者に対して適切な対応ができるようになる。						
評価方法	出席、受講態度、試験結果を総合的に評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	言語聴覚士(ST)と言語聴覚障害			言語聴覚士、言語聴覚療法の概要を知る。			
2	高次機能障害の見方			大脳と高次機能の関係について説明できる。			
3	失語症			言語、コミュニケーションと失語について知る。			
4	失語症の実際			失語症の症状とその対応について学ぶ。			
5	失行、失認、			失行、失認の症状と対応を学ぶ。			
6	前頭葉機能、半側空間無視、記憶障害			大脳の病巣と症状の関係、対応法を学ぶ。			
7	認知症			認知症とは何か、原因疾患と診断基準を知る。			
8	認知症の実際			認知症患者への対応について学ぶ。			
9	発声、発語器官と音声障害、気管切開			発声、発語の仕組み、その障害について学ぶ。			
10	構音障害、吃音			構音障害の定義と種類、吃音について学ぶ。			
11	摂食・嚥下障害			摂食・嚥下機能について、その仕組みを知る。			
12	摂食・嚥下障害障害の実際			摂食・嚥下障害と、その対応法について学ぶ。			
13	発達障害			言語発達と、発達障害について学ぶ。			
14	聴覚障害			聴覚の仕組みと検査法について知る。			
15	聴覚障害の実際			聴覚障害と、聴覚障害者への対応法を学ぶ。			

授業科目名	運動療法総論Ⅱ		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	運動療法学 総論	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	前期	必修	講義
15							
授業概要	理学療法実施に必要な基本的な運動療法の知識を講義・実技で学習する。						
学習到達目標	運動療法の定義を学び、実技を通して臨床で実際に行っている各運動療法の適応を理解する。						
評価方法							
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	組織の病態整理と修復:神経系			脳の可塑性と理学療法との関係について理解する。			
2							
3	基本的な運動療法:関節可動域運動			関節可動域運動の具体的な方法について理解する			
4							
5	基本的な運動療法:筋力増強運動			筋力増強運動を行うために必要となる基礎知識を学ぶ。			
6							
7	基本的な運動療法:持久力増強運動			全身持久力や運動耐容能の改善方法について理解する。			
8							
9	基本的な運動療法:協調性運動			協調性運動障害に対する運動療法の理論と方法を理解する。			
10							
11	脳のシステム障害と運動療法			脳の神経回路が作り出すシステムの概要を理解する。			
12							
13	痛みに対する運動療法			実際の痛みに対する運動療法について理解する。			
14							
15	まとめ						

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当者名	山田 剛、山崎 瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学 新・徒手筋力検査法 神経診察クローズアップ	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	2	通年	必修	講義
60							
授業概要	理学療法評価は治療方針、計画の立案、それらの効果判定のために行われる。理学療法評価では、評価の一連の流れを理解し、それらを信頼性のある技術レベルで実施できるようになるために必要となる知識と技術を学習する。						
学習到達目標	理学療法評価の位置づけと基本的な手順を理解する、理学療法の対象となる疾患・症状のほぼすべてに共通して行われる基本的な評価法を理解し実施できる、それらを各疾患・症状に適用する具体的な方法を理解し実施できる、各疾患・症状に特有の理学療法評価を理解し実施できることを目標とする。						
評価方法	小テスト、定期試験。(筆記による)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論①			理学療法評価の意義・目的、またその構成要素と展開を説明できる。ICIDH、ICFによる障害モデルを説明できる。			
2	理学療法評価と障害モデル						
3	総論②			トップダウンとボトムアップによる理学療法評価の手順を説明できる。臨床思考過程の基本的な流れを説明できる。			
4	統合と解釈:トップダウンとボトムアップによる理学療法評価の手順を説明できる。						
5	臨床思考過程の基本的な流れを説明できる。						
6	全体像把握			診療記録・診療録について理解する、医療面接の意義を理解する。バイタルサインと身体所見について理解する。			
7	診断情報、医療面接、フィジカルアセスメントほか						
8	関節可動域測定			関節可動域測定の意義と目的を理解する。日常動作と関節可動域の関連について理解する。			
9	筋力検査①			筋力・筋持久力・筋パワー、筋収縮形態、筋力検査の目的と分類を理解する。			
10	筋力検査の基礎						
11	筋力検査②			徒手筋力検査の目的・判定基準・基本的手技・手順、徒手筋力検査の結果に影響を及ぼす因子、代償運動を理解する。			
12	徒手筋力検査の基本						
13	筋力検査③			上肢の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
14	徒手筋力検査の実際(上肢)						
15	筋力検査④			上肢の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
16	徒手筋力検査の実際(上肢)						
17	筋力検査⑤			下肢の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
18	徒手筋力検査の実際(下肢)						
19	筋力検査⑥			下肢の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
20	徒手筋力検査の実際(下肢)						
21	筋力検査⑦			体幹、頸部、頭部の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
22	徒手筋力検査の実際(体幹、頸部、頭部)						
23	筋力検査⑧			体幹、頸部、頭部の徒手筋力検査手順と方法を理解する。			
24	徒手筋力検査の実際(体幹、頸部、頭部)						
25	反射検査			反射検査の意義と目的を理解する。			
26							
27	感覚検査①			感覚検査の意義と目的を理解する。			
28							
29	感覚検査②			感覚検査の意義と目的を理解する。			
30							

31	協調性検査協	協調性検査の意義と目的、運動失調を理解する。
32		
33	バランス検査	バランス検査の意義と目的を理解する。
34		
35	ADL・QOL①	ADLとQOLの概念および分類、ADL評価とQOL評価の方法を理解する。
36		
37	ADL・QOL②	ADLとQOLの概念および分類、ADL評価とQOL評価の方法を理解する。
38		
39	運動器系検査測定法① 運動器系検査測定	運動器系疾患の基本的な検査測定の意義と目的を理解する。
40		
41	運動器系検査測定法② 整形外科的テスト	運動器系疾患特有の検査測定の意義と目的を理解する。
42		
43	中枢神経系検査測定法① 片麻痺(錐体路障害)	片麻痺の運動の検査方法、機能障害評価、活動制限評価を理解する。
44		
45	中枢神経系検査測定法② 片麻痺(錐体路障害)	片麻痺の運動の検査方法、機能障害評価、活動制限評価を理解する。
46		
47	中枢神経系検査測定法③ 大脳基底核および小脳性運動障害	パーキンソン病・運動失調の運動障害を理解する。
48		
49	中枢神経系検査測定法④ 高次脳機能	代表的な高次脳機能の概要と評価の目的を理解する。
50		
51	中枢神経系検査測定法⑤ 摂食嚥下	摂食・嚥下を理解する。摂食・嚥下障害の評価を理解する。
52		
53	ペーパー・ペイシエント 運動器系疾患①	運動器系疾患の具体的症例に対する臨床思考過程を理解する。
54		
55	ペーパー・ペイシエント 運動器系疾患②	運動器系疾患の具体的症例に対する臨床思考過程を理解する。
56		
57	ペーパー・ペイシエント 中枢神経系疾患①	中枢神経系疾患の具体的症例に対する臨床思考過程を理解する。
58		
59	ペーパー・ペイシエント 中枢神経系疾患②	中枢神経系疾患の具体的症例に対する臨床思考過程を理解する。
60		

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		担当者名	遠藤 由香、山崎瞬、森山宏則			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法評価学Ⅰ 理学療法評価学 新・徒手筋力検査法 神経診察クローズアップ	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		3					
		時間数	理学療法科	2	通年	必修	演習
90							
授業概要	各検査・測定の意義の理解と健常者(学生)同士での実践。						
学習到達目標	健常者(学生)同士で正確な実践ができることを目標とする。						
評価方法	実技試験 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	形態測定(四肢長・周径)			評価学Ⅰ(演習)で学んだ内容の総復習を行う。 学生同士で基本的な技術レベルで測定できるようになる。			
3	形態測定(四肢長・周径)						
4	関節可動域測定(ROM-T)頸部・肩甲帯・体幹						
5	関節可動域測定(ROM-T)上肢						
6	関節可動域測定(ROM-T)上肢						
7	関節可動域測定(ROM-T)下肢						
8	関節可動域測定(ROM-T)下肢						
9	徒手筋力検査法(MMT) 検査の概要と段階づけ1						
10	徒手筋力検査法(MMT) 検査の概要と段階づけ2						
11	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肩関節			上肢の筋について、起始・停止や筋の走行、支配神経を理解しながら、基本的な技術レベルで検査を行うことができる。			
12	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肩関節						
13	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肩関節						
14	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肩甲帯						
15	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肩甲帯						
16	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 肘関節						
17	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 前腕・手関節						
18	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 手指						
19	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 総復習						
20	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 総復習						
21	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 確認テスト			上記の習得度を確認する。			
22	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 確認テスト						
23	徒手筋力検査法(MMT) 上肢 確認テスト						
24	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 股関節			下肢の筋について、起始・停止や筋の走行、支配神経を理解しながら、基本的な技術レベルで検査を行うことができる。			
25	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 股関節						
26	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 股関節						
27	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 膝関節						
28	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 膝関節						
29	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 足関節						
30	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 足関節						

31	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 足関節	
32	徒手筋力検査法(MMT) 頭部・頸部	
33	徒手筋力検査法(MMT) 頭部・頸部	
34	徒手筋力検査法(MMT) 頭部・頸部	頭頸部、体幹の筋について、起始・停止や筋の走行、支配神経を理解しながら、基本的な技術レベルで検査を行うことができる。
35	徒手筋力検査法(MMT) 体幹	
36	徒手筋力検査法(MMT) 体幹	
37	徒手筋力検査法(MMT) 体幹	
38	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 総復習	下肢の筋について、起始・停止や筋の走行、支配神経を理解しながら、基本的な技術レベルで検査を行うことができる。
39	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 総復習	
40	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 総復習	
41	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 総復習	
42	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 総復習	
43	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 確認テスト	上記の習得度を確認する。
44	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 確認テスト	
45	徒手筋力検査法(MMT) 下肢 確認テスト	
46	形態測定1	四肢長・周径について理解する。
47	形態測定2	四肢長・周径について理解する。
48	形態測定3	四肢長・周径について理解する。
49	形態測定4	復習
50	形態測定5	復習
51	形態測定6	復習
52	痛みの評価1	VASについて理解する。
53	痛みの評価2	NRSについて理解する。
54	協調性検査1	上肢検査について理解する。
55	協調性検査2	下肢検査について理解する。
56	知覚検査1	表在感覚について理解する。
57	知覚検査2	深部感覚について理解する。
58	反射検査1	深部腱反射について理解する。
59	反射検査2	病的反射について理解する。
60	片麻痺運動機能検査および片麻痺の評価1	上肢の検査について理解する。
61	片麻痺運動機能検査および片麻痺の評価2	下肢の検査について理解する。
62	片麻痺運動機能検査および片麻痺の評価3	手指の検査について理解する。
63	片麻痺運動機能検査および片麻痺の評価4	その他SIASなど理解する。
64	筋トーンス検査1	仰臥位での検査を理解する。
65	筋トーンス検査2	立位での検査を理解する。
66	バランス検査1	BBSを理解する。
67	バランス検査2	その他のバランス検査の理解。
68	姿勢反射1	立ち直り反射などを理解する。
69	姿勢反射2	ステップ反射などを理解する。
70	高次脳機能検査	脳神経検査について理解する。

71	その他の臨床検査・評価1	ファンクショナルリーチについて理解する。
72	その他の臨床検査・評価2	ファンクショナルリーチについて理解する。
73	その他の臨床検査・評価3	Time up and go testについて理解する。
74	その他の臨床検査・評価4	Time up and go testについて理解する。
75	その他の臨床検査・評価5	Manual function testについて理解する。
76	その他の臨床検査・評価6	Manual function testについて理解する。
77	その他の臨床検査・評価7	最大歩行速度について理解する。
78	その他の臨床検査・評価8	最大歩行速度について理解する。
79	その他の臨床検査・評価9	6分間歩行距離について理解する。
80	その他の臨床検査・評価10	6分間歩行距離について理解する。
81	その他の臨床検査・評価11	ボルグスケールについて理解する。
82	その他の臨床検査・評価12	ボルグスケールについて理解する。
83	その他の臨床検査・評価13	Mini mental State Examinationについて理解する。
84	その他の臨床検査・評価14	Mini mental State Examinationについて理解する。
85	総合演習	実技練習
86	総合演習	実技練習
87	総合演習	実技練習
88	総合演習	実技練習
89	総合演習	実技練習
90	総合演習	実技練習

授業科目名	物理療法学		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2年	前期	必修	講義
		30					
授業概要	生体が元来有する自然治癒力を賦活していくために、熱・光・電気・力などの物理的エネルギーを加えることによって得られる治療効果について講義する。また、物理療法が適切・効果的に使えるように後期の実習につながるように講義する。						
学習到達目標	各治療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について生理学的背景とともに理解する。また、個々の物理療法が使えるだけでなく、状態に応じて使い分けができるよう、物理療法の選択における臨床判断の仕方についても深く学ぶことを目標とする。						
評価方法	期末試験(筆記試験/持ち込み不可)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	温熱療法(1)			ホットパック、パラフィン浴の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。			
2	伝導熱:ホットパック、パラフィン浴						
3	温熱療法(2)			赤外線療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について、照射距離と照射角度が照射強度に及ぼす影響について理解する。			
4	輻射熱:赤外線療法						
5	温熱療法(3)			超短波療法と極超短波療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について、アプリケーションの配置法と治療について理解する。			
6	エネルギー変換熱:超短波療法、極超短波療法						
7	光線療法			紫外線療法とレーザー療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。			
8	紫外線療法、レーザー療法						
9	寒冷療法			寒冷療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。炎症に対する物理療法の流れについて理解する。			
10							
11	水治療法			水治療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。水治療法と水中運動療法との併用療法について理解する。			
12							
13	超音波療法			超音波療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。超音波療法が創傷治癒に及ぼす影響について理解する。			
14							
15	電気刺激療法(1)			痛みについて理解する。痛みに対する電気刺激療法について理解する。			
16	経皮的神経電気刺激、干渉波電流、微弱電流刺激						
17	電気刺激療法(2)			筋収縮のメカニズム、電気刺激による筋力増強について理解する。筋機能改善のための電気刺激療法について理解する。			
18	神経筋電気刺激、高電圧パルス電流、ロシアンカレント、筋電誘発電気刺激						
19	電気刺激療法(3)			運動機能再建のための電気刺激療法(FES)について理解する。さまざまなバイオフィードバック療法について理解する。			
20	機能的電気刺激療法、バイオフィードバック療法						
21	牽引療法			脊椎に起因する症状について理解する。頸椎牽引ならびに腰椎牽引の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。			
22							
23	マッサージ療法			マッサージ療法の作用機序、適応と禁忌、実施上の注意点について理解する。			
24							
25	リスク管理			物理療法機器の故障原因、安全点検の必要性とチェック項目について理解する。EMCについて理解する			
26							
27	ケーススタディ(1)			症例のケーススタディを通して総合的な演習を行い、臨床的思考過程を理解する。			
28	疼痛の治療						
29	ケーススタディ(2)			症例のケーススタディを通して総合的な演習を行い、臨床的思考過程を理解する。			
30	筋緊張の治療						

授業科目名	物理療法学		担当者名	菊地 雅行			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習 標準理学療法学 物理療法学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2年	後期	必修	演習
30							
授業概要	前期で学んだ物理療法を理解し、物理療法技術・機器操作を適切に効果的に使えるよう演習を行う。						
学習到達目標	個々の物理療法の特性を理解し、状態に応じて使い分けができるようになる。物理療法の選択における臨床判断の仕方についても深く学ぶことも目標とする。						
評価方法	期末試験(筆記試験/持ち込み不可)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	温熱療法の概要説明			ホットパックを実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
2	ホットパック						
3	パラフィン浴			パラフィン浴・赤外線療法を実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
4	赤外線療法						
5	マイクロウェーブ			マイクロウェーブ・レーザー療法を実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
6	レーザー						
7	牽引療法			牽引療法・超音波療法を実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
8	超音波療法						
9	電気療法			電気療法(ssp、干渉波、低周波)を実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
10	SSP,干渉波,低周波						
11	寒冷療法,水治療法			各種寒冷療法、RICE処置、水治療法を実施し、その効果や身体の変化を確認する。			
12							
13	症例検討から物理療法を用いた治療まで			症例提示を行い、物理療法治療を行うための疾患の特性の理解を深める。			
14	グループワークの事前説明 ①症例提示,症例の理解(疾患の情報収集)						
15	症例検討から物理療法を用いた治療まで			症例提示を行い、物理療法治療を行うための疾患の特性の理解を深める。			
16	①症例提示,症例の理解(疾患の情報収集)						
17	症例検討から物理療法を用いた治療まで			物理療法治療の効果判定を行えるため、前後に実施する評価項目を列挙する。			
18	②評価の選択・確認(評価項目の列挙)						
19	症例検討から物理療法を用いた治療まで			疾患の理解を深めたうえで、疾患に適した物理療法を選択することができ、またその選択の説明を行える。			
20	③物理療法機器の選択とその理由のづけ						
21	症例検討から物理療法を用いた治療まで			症例に物理療法療法などを通じて、その疾患の目標設定を行える。また、詳細な機器の設定が行え、その理由づけが行える。			
22	④症例の目標設定と機器の設定決め,その理由づけ						
23	症例検討から物理療法を用いた治療まで			症例(疾患)の理解、評価から治療までの一連の流れの中で、物理療法の適応、効果、リスクを踏まえまとめる。			
24	⑤発表資料作成、実技のデモンストレーション						
25	グループ発表A・Bグループ			各グループにてケーススタディーを通して物理療法を選択し、その実際を検討する。			
26							
27	グループ発表C・Dグループ			各グループにてケーススタディーを通して物理療法を選択し、その実際を検討する。			
28							
29	グループ発表E・Fグループ			各グループにてケーススタディーを通して物理療法を選択し、その実際を検討する。			
30							

授業科目名	義肢装具学		担当者名	石島 孝樹			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト義肢学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	講義
	15						
授業概要	切断のリハビリテーションの流れを理解することと、義肢の構造と機能を理解する。						
学習到達目標	下肢切断を中心に、義肢の構造とその操作に必要な身体機能、理学療法士の役割を理解する。						
評価方法	筆記試験 レポート内容 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	切断と義肢の基礎知識			切断の原因と切断高位、義肢の基本構造を理解する。			
2	早期義肢装着法と義足適合の流れ			義肢装着練習と義肢適合の流れを理解する。			
3	大腿切断・膝離断の基本と義足構造			大腿切断・膝離断の特徴とソケットの構造を理解する。			
4	大腿義足・膝義足のアライメント			大腿義足・膝義足のアライメントチェックを理解する。			
5	下腿義足・サイム切断の基本と義足構造			下腿切断・サイム切断の特徴とソケットの構造を理解する。			
6	下腿義足・サイム義足のアライメント			下腿義足・サイム義足のアライメントを理解する。			
7	股離断・片側骨盤切除・足部切断の義足構造とアライメント			股義足・片側骨盤切除・足部切断の構造を理解する。			
8	下肢切断の評価			下肢切断の評価項目を理解する。			
9	下肢切断の機能障害と義足装着前理学療法			機能障害に対する治療・予防的指導を理解する。			
10	切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点			切断原因と原因疾患の概要を理解する。			
11	義足装着理学療法と応用動作			義足装着理学療法の流れを理解する。			
12	義手の分類と構造・機能			義手の機能的分類と構造を理解する。			
13	上肢切断の評価と治療			上肢切断のリハビリテーションの流れを理解する。			
14	義肢装着の支給体系とチームアプローチ			義肢装具・補装具の支給体系を理解する。			
15	講義のまとめ			切断肢と義肢について関連づけて理解する。			

授業科目名	義肢装具学		担当者名	宮内 博之			
			実務経験	義肢装具士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学 理学療法テキスト 装具学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		0.5					
		時間数	理学療法科	2	前期	必修	演習
15							
授業概要	基本的な義肢装具の知識を実際の義肢装具に触れながら学習する。						
学習到達目標	理学療法士が必要とする義肢装具の基本的知識を得る。						
評価方法	試験問題						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション 義肢装具総論		義肢装具について幅広い情報を得る。				
2	義肢装具に関する保険制度①		発症から生活期に至る装具の種類を知る。				
3	義肢装具に関する保険制度②		装具の種類による保険制度について学ぶ。				
4	下肢装具について①		下肢装具について基本的な知識を得る。				
5	下肢装具について②		下肢装具について基本的な知識を得る。				
6	下肢装具について③		下肢装具について基本的な知識を得る。				
7	下肢装具の採型実習①		採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。				
8	下肢装具の採型実習②		採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。				
9	下肢装具の採型実習③		採型を通じて、装具の製作過程を学ぶ。				
10	切断と義肢①		切断に関する疾患など、義肢との関連。				
11	切断と義肢②		切断に関する疾患など、義肢との関連。				
12	義足について①		義足の種類と概要について学ぶ。				
13	義足について②		義足の種類と概要について学ぶ。				
14	義手について①		義手の種類と概要について学ぶ。				
15	義手について②		義手の種類と概要について学ぶ。				

授業科目名	義肢装具学		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学 理学療法テキスト 装具学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		0.5					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	演習
15							
授業概要	基本的な義肢装具の知識を実際の義肢装具に触れながら学習する。						
学習到達目標	理学療法士が必要とする義肢装具の基本的知識を得る。						
評価方法	筆記問題						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	疾患別の装具療法① 脳卒中片麻痺の装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
2	疾患別の装具療法② 対麻痺の装具			機能と特徴、残存機能レベルに応じた適応について理解する。			
3	疾患別の装具療法③ 整形外科的装具			各装具の機能特徴と名称、症状ごとの適応について理解する。			
4	疾患別の装具療法④ 頸椎・腰椎疾患の装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
5	疾患別の装具療法⑤ 末梢神経障害の装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
6	疾患別の装具療法⑥ 脊椎側弯症の装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
7	疾患別の装具療法⑦ 小児疾患の装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
8	疾患別の装具療法⑧ 関節リウマチの装具			各装具の機能特徴とメカニズム、症状ごとの適応について理解する。			
9	車椅子、歩行補助具について			種類と名称とその特徴、各部の名称について理解する。			
10	車椅子、歩行補助具について			チェックポイント、採寸方法、長さ調整について理解する。			
11	下肢装具と歩行(脳卒中)			動画を使用して評価をおこなう。			
12	下肢装具と歩行(脳卒中)			動画を使用して評価をおこなう。			
13	下肢装具と歩行(整形)			動画を使用して評価をおこなう。			
14	下肢装具と歩行(整形)			動画を使用して評価をおこなう。			
15	まとめ						

授業科目名	骨関節疾患系理学療法学		担当者名	森山宏則			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 骨関節理学療法学 吉尾雅春 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
		2 30	理学療法科	2年	通年	必修	講義
授業概要	整形外科的疾患の概要を知り、その評価と理学療法について学習する。 パワーポイントを主体とし、時にテキストを参考にしながら授業を進める。						
学習到達目標	整形外科的疾患の概要を知った上で、その評価と基本的理学療法を理解する。						
評価方法	期末試験(筆記試験/持ち込み不可)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論～整形外科疾患の理学療法と治療の原則						
2	骨折・脱臼 概要			臨床上多く見られる骨折について、その特徴やリスクを理解した上で、理学療法評価および理学療法について考える。			
3	骨折・脱臼 体幹						
4	骨折・脱臼 上肢						
5	骨折・脱臼 上肢						
6	骨折・脱臼 上肢						
7	骨折・脱臼 上肢						
8	骨折・脱臼 下肢						
9	骨折・脱臼 下肢						
10	骨折・脱臼 下肢						
11	骨折・脱臼 下肢						
12	腱板損傷						
13	腱板損傷						
14	アキレス腱断裂						
15	膝靭帯、半月板損傷						
16	前十字靭帯(ACL)損傷						
17	前十字靭帯(ACL)損傷						
18	後十字靭帯(PCL)損傷			関節リウマチにみられる関節変形を知る。			
19	関節リウマチ						
20	関節リウマチ						
21	変形性股関節症			特徴的画像所見、臨床症状を知る。			
22	変形性股関節症と人工股関節全置換術(THA)			THAの術後リスク(脱臼等)を知る。			
23	変形性膝関節症			画像所見、臨床症状、外科的手術の種類を理解する。			
24	変形性膝関節症と人工膝関節置換術						
25	骨端症			さまざまな骨端症の種類を知る。			
26	腰椎椎間板ヘルニア			ヘルニアの高位と症状を知る。			
27	腰部脊柱管狭窄症			さまざまな症状を知る。			
28	腰痛症			腰痛症の種類と運動療法を理解する。			
29	脊髄損傷			損傷高位と症状を理解する。			
30	脊髄損傷						

授業科目名	骨関節疾患系理学療法学		担当者名	森山宏則			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 骨関節理学療法学 吉尾雅春 医学書院	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2年	通年	必修	演習
60							
授業概要	整形外科疾患に対する評価・基本的理学療法の演習を行う。						
学習到達目標	さまざまな整形外科疾患に応じた評価と基本的理学療法の一部が出来るようになる。						
評価方法	出席点 + 期末試験(筆記)						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	触察①			上肢のランドマークが触れるようになる。			
2							
3	触察②			上肢のランドマークが触れるようになる。			
4							
5	触察③			上肢のランドマークが触れるようになる。			
6							
7	触察④			上肢のランドマークが触れるようになる。			
8							
9	触察⑤			上肢のランドマークが触れるようになる。			
10							
11	骨折・脱臼① 体幹			ギプス固定中、ギプス除去後の評価、理学療法について検討する。 下肢の骨折については部分荷重や杖歩行の指導もできるようになる。			
12							
13	骨折・脱臼② 上肢						
14							
15	骨折・脱臼③ 上肢						
16							
17	骨折・脱臼④ 上肢						
18							
19	骨折・脱臼⑤ 下肢						
20							
21	骨折・脱臼⑥ 下肢						
22							
23	骨折・脱臼⑦ 下肢						
24							
25	腱板損傷			カフ・エクササイズの指導。 保存療法・術後療法を理解する。			
26							
27	アキレス腱断裂			ギプス固定後の理学療法の方法を理解する。			
28							
29	関節リウマチ			関節保護を第一とした理学療法を選択する。			
30							
31	前十字靭帯(ACL)損傷①			ACL損傷の鑑別テストが実践できる。 ACL再建術後の再断裂リスクを考慮した理学療法の実践ができる。			
32							
33	前十字靭帯(ACL)損傷②			PCL再建術後の再断裂リスクを考慮した理学療法の実践ができる。			
34							
35	後十字靭帯(PCL)損傷			OAを起因とした疼痛、可動域制限、支持性低下に対する理学療法を実践する。			
36							
37	変形性股関節症(OA)						
38							

39	人工股関節全置換術	脱臼など術後早期のリスク管理の方法を学び、指導ができる。
40		
41	変形性膝関節症	病態の評価と機能障害を考慮した理学療法の実践ができる。
42		
43	人工膝関節全置換術	関節保護の観点からの運動療法を実践する。
44		
45	腰痛症に対する運動療法①	伝統的体操療法を実践し、指導ができるようになる。
46		
47	腰痛症に対する運動療法②	各種体操療法の実践と指導ができるようになる。
48		
49	腰椎椎間板ヘルニア	神経学的検査が実践できるようになる。
50		
51	整形外科テスト①	各種整形外科テストが実践できる。
52		
53	整形外科テスト②	検査測定～理学療法実践までの一連の流れを経験する。
54		
55	ケーススタディ① (大腿骨頸部骨折後 人工骨頭置換術施行患者)	検査測定～理学療法実践までの一連の流れを経験する。
56		
57	ケーススタディ② (大腿骨頸部骨折後 人工骨頭置換術施行患者)	検査測定～理学療法実践までの一連の流れを経験する。
58		
59	ケーススタディ③ (大腿骨頸部骨折後 人工骨頭置換術施行患者)	検査測定～理学療法実践までの一連の流れを経験する。
60		

授業科目名	中枢神経疾患系理学療法学Ⅰ		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	脳・神経系リハビリテーション 神経障害理学療法学Ⅰ 神経障害理学療法学Ⅱ 適宜プリント	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
授業概要	成人中枢神経疾患に対する運動療法の理論と実際について理解する。中枢神経系機能の異常がもたらす運動障害について、その機能回復の生理学や運動機能回復促進の基礎理論とその応用について理解する。						
学習到達目標	中枢神経系疾患の病態・メカニズムの理解 中枢神経系疾患に対する理学療法の理論の理解						
評価方法	小テスト、期末試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	中枢神経系(主に脳血管疾患)理学療法の基礎			中枢神経系の解剖および脳血管疾患の病態を理解する。			
3	中枢神経系(主に脳血管疾患)理学療法の基礎						
4	中枢神経系の解剖学・脳血管疾患の病態						
5	中枢神経系の解剖学・脳血管疾患の病態						
6	脳血管リハビリテーションの流れ						
7	脳血管リハビリテーションの流れ			各病期で行る脳血管疾患に対するリハビリテーションの流れを理解する。			
8	脳血管疾患 評価						
9	脳血管疾患 評価						
10	脳血管疾患の急性期のリハビリテーション						
11	脳血管疾患の急性期のリハビリテーション						
12	脳血管疾患の回復期のリハビリテーション						
13	脳血管疾患の回復期のリハビリテーション						
14	脳血管疾患の生活期のリハビリテーション						
15	脳血管疾患の生活期のリハビリテーション						
16	脳血管疾患の合併症 排尿・嚥下・肩手症候群など						
17	脳血管疾患の合併症 排尿・嚥下・肩手症候群など						
18	脳血管疾患の合併症 高次脳機能障害						
19	脳血管疾患の合併症 高次脳機能障害						
20	脊髄損傷 解剖			脊髄損傷の病態を理解する。また、国家試験で問われる基礎的な知識を習得する。			
21	脊髄損傷 解剖						
22	脊髄損傷 病態の整理 髄節レベル						
23	脊髄損傷 病態の整理 合併症(排尿障害、自律神経過反射)						
24	脊髄損傷 病態の整理 合併症(排尿障害、自律神経過反射)						
25	脊髄損傷 病態の整理 不完全損傷						
26	脊髄損傷 病態の整理 不完全損傷						
27	脊髄損傷 評価						
28	脊髄損傷 評価						
29	全体まとめ						
30	全体まとめ						

授業科目名	理学療法技術論 I		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	PT・OTのための 臨床実習で役立つ リハビリテーション基本実技 椿原彰夫・国安勝司・渡邊進	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	2	通年	必修	講義
30							
授業概要	理学療法士としての基本的な技術や知識を演習を通して学び、臨床実習に向けて実践的に対応できる能力を身に着ける。						
学習到達目標	臨床実習における基本知識や技術を習得し、学生同士で練習を行い実践場面に活用することが出来る。						
評価方法	小テスト、レポート、出席点、定期テスト						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	標準予防策、リスク管理		標準予防とリスク管理について理解し、実習に活かすことが出来る。				
2							
3	コミュニケーション技法、血圧測定、杖の合わせ方		血圧測定や杖の合わせ方を学び、実習に活かすことが出来る。				
4							
5	基本動作(寝返り動作)、基本動作(起き上がり動作)、 基本動作(立ち上がり動作)		基本動作方法を学び、実習で活用することが出来る。				
6							
7	移乗動作、トランスファー		基本動作方法を踏まえたうえで介助方法について学び、技術を習得し、実習で活用することが出来る。				
8							
9	ポジショニングと体位変換		ポジショニングについて理解し、実習で活用することが出来る。				
10							
11	各種リハビリテーション機器の取り扱い方		リハビリテーション機器の取り扱い方法について理解し、実習で活用することが出来る。				
12							
13	ストレッチの基礎、セルフストレッチングの実際と筋		ストレッチについて学び、実習に活かすことが出来る				
14							
15	パートナーストレッチングの実際と筋		学生同士のストレッチで実技を学び、実習で活用することが出来る				
16							
17	筋力増強運動		筋力増強運動の種類や方法を学び、実習に活かすことが出来る。				
18							
19	体重を利用した運動		体重を利用した運動方法を学び、実習に活かすことが出来る。				
20							
21	各種治療体操		伝統的体操療法を実践し、指導ができるようになる。				
22							
23	疾患別運動療法①運動療法の基礎②大腿骨頸部骨折		運動療法の基礎・大腿骨頸部骨折における運動療法について学び、実習に活かすことが出来る。				
24							
25	疾患別運動療法③下腿骨骨折④脊椎圧迫骨折		運動療法の下腿骨骨折・脊椎圧迫骨折における運動療法について学び、実習に活かすことが出来る。				
26							
27	疾患別運動療法⑤関節リウマチ⑥変形性関節症		運動療法の関節リウマチ・変形性関節症における運動療法について学び、実習に活かすことが出来る。				
28							
29	まとめ		これまで学んだ知識や技術の振り返りを行い実習に備える。				
30							

授業科目名	日常生活活動学		担当者名	小嶋 麻由佳			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 鶴見隆正 隆島研吾 医学書院	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		時間数					
		2					
		30	理学療法科	2	前期	必修	講義
授業概要	ADLの概念と範囲、また障害やQOLとの関係性を学ぶ。ADLで使用する自助具・歩行補助具・車いすについて特徴・目的について学び実際の使用方法を体験する。様々な障害について理解を深め、そのADL評価方法を学ぶ。						
学習到達目標	ADLの概念、ADL評価とその指導に関わる知識・技術、人の生活環境を取り巻く諸制度を理解する。様々な生活背景やその病気や症状を把握し、安全で快適な生活を送るための支援方法を学び、説明できる。						
評価方法	期末筆記試験・出席・授業態度を総合的に判断する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ADLの概念と範囲			ADLの評価での位置づけと概念が説明できる。			
2	ADLと障害			ICIDHとICFの基本概念と特徴を説明できる。			
3	ADLとQOL			ADLとQOLとの関係性を説明できる。			
4	ADLと運動学			身体重心の位置と安定性について説明できる。			
5	基本動作 重心と安定性			介助方法を運動学に説明できる。			
6	基本動作 正常な動作			正常動作を理解し運動パターンを説明できる。			
7	ADL評価①			評価の種類とその特徴について説明できる。			
8	ADL評価②						
9	ADL評価方法の実際①			各項目について、環境評価・姿勢評価・障害の特徴をふまえた評価を説明できる。			
10	ADL評価方法の実際②						
11	ADL評価方法の実際③						
12	ADLを支援する機器 講義①			自助具・歩行補助具・車いすについて種類や目的、特徴を説明できる。			
13	ADLを支援する機器 講義②						
14	ADLを支援する機器 実技① 歩行補助具			自助具・歩行補助具・車いすについて実際に選択方法、使用方法、介助方法を体験すると共に説明できる。			
15	ADLを支援する機器 実技② 歩行補助具						
16	ADLを支援する機器 実技③ 車椅子						
17	ADLを支援する機器 実技④ 車椅子						
18	姿勢と褥瘡			褥瘡の原因と予防法について説明できる。			
19	片麻痺～ADLの実際～ 講義①			脳卒中による機能障害の特徴とADL評価について説明できる。			
20	片麻痺～ADLの実際～ 講義②						
21	片麻痺～ADLの実際～ 実技①			起居動作から一連の日常生活動作について指導方法と介助方法を説明できる。			
22	片麻痺～ADLの実際～ 実技②						
23	片麻痺～ADLの実際～ 実技③						
24	脊髄損傷①～ADLの実際～			脊髄損傷者の評価方法と損傷部位別のADLを説明できる。			
25	脊髄損傷②～ADLの実際～						
26	パーキンソン病～ADLの実際～			パーキンソン病の特徴とADLを説明できる。			
27	関節リウマチ～ADLの実際～			関節リウマチの特徴とADLを説明できる。			
28	日常生活動作の実際			在宅を想定したりハビリテーションを考えられる。			
29	生活環境①			様々な症例とその生活環境の場面を学び説明できる。			
30	生活環境②						

授業科目名	地域理学療法論Ⅱ		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	地域理学療法論Ⅱ	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	前期	必修	講義
		15					
授業概要	社会的問題を含めた生活環境を理学療法専門科目と結びつけて考えられるようにする。						
学習到達目標	住環境整備について理解し、障害に合わせた生活環境の提案ができるようになる。						
評価方法	試験およびレポート等						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	地域リハビリテーションの概念			地域リハビリテーションの概要、位置づけや動向			
2	地域理学療法の概念			理学療法士の役割、現状と今後の展望			
3	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規			医療保険、介護保険地域包括ケアシステム			
4	住環境と福祉用具			住環境の評価、整備、手法など			
5	地域におけるリスクマネジメント			対象者に対するリスクマネジメントと環境のリスクマネジメント			
6	地域理学療法の実際①訪問系理学療法			訪問系理学療法士の役割、評価・治療など			
7	地域理学療法の実際②通所系理学療法			通所系理学療法士の役割、評価・治療など			
8	地域理学療法の実際③施設系理学療法			施設系理学療法士の役割、評価・治療など			
9	地域理学療法の実際④終末期における理学療法			終末期の理学療法士の役割、評価・治療など			
10	予防分野のリハビリテーション:サルコペニアとリハビリテーション			サルコペニアやフレイルのメカニズム、介護棒の実際			
11	予防分野のリハビリテーション:認知症予防			認知症予防の実際			
12	予防分野のリハビリテーション:転倒予防			転倒予防の実際と			
13	地域の防災と災害支援			災害時の専門職の役割と災害支援			
14	地域での起業と社会貢献			起業について必要なステップ			
15	まとめ			これまでのまとめ			

授業科目名	生活環境学		担当者名	水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 生活環境学テキスト 村田伸 岡本加奈子 北島栄二 南江堂	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	講義
		15					
授業概要	生活環境整備の種類と法的制度に関して学ぶ。住宅における各スペースの整備方法と対象者の疾患別の整備方法を理解する。						
学習到達目標	基本的な生活環境整備を理解し、地域で生活する高齢者や障害者の生活支援につなげることができる。						
評価方法	期末筆記試験・出席・授業態度を総合的に判断する						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	理学療法における生活環境学の概念			生活支援の考え方を説明できる。			
2	理学療法士に必要な住宅改修の視点			生活環境整備の理学療法士の役割を説明できる。			
3	高齢者・障がい者を取り巻く生活環境			高齢者・障害者を取り巻く生活の現状を理解できる。			
4							
5	生活環境整備に関する法的制度			高齢者・障害者の生活を支える施策について理解できる。			
6							
7	介護保険制度における生活環境整備			介護保険における住宅改修と福祉用具の取り扱いについて説明できる。			
8							
9	生活環境整備の基本検討項目			生活整備に対する必要事項を理解できる。			
10	生活環境整備の基本～住宅スペース別～			玄関・アプローチ・トイレ・浴室・台所・居間の問題点と配慮すべき点と整備方法を説明できる。			
11							
12							
13	生活環境整備の基本～疾患別～			脳血管障害・パーキンソン病・脊髄損傷・関節リウマチについて整備の考え方と手段を説明できる。			
14							
15	まちづくり			移動制約者における都市交通環境の問題点を理解できる。			

授業科目名	臨床見学実習		担当者名	山崎瞬、山田剛、森山宏則、 遠藤由香、福原浩之、水野豊 (臨床実習指導者)			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	2	後期	必修	実習
45							
授業概要	実際の理学療法の場面を見学することで、理学療法実践の場の理解を深め、今後の授業・実習等への意識・動機付けをする。さらに理学療法の面白さ、楽しさ、重要性を見つけることも大きな目的である。一方、学生が将来進む領域を考える機会とし、またその視点を作ることも目的となる。						
学習到達目標	専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。見学実習について適切な姿勢と行動をとれる。職務・施設等についての理解を深める。実習報告書の作成し提出して発表ができる。						
評価方法	出席率、臨床実習指導者報告書、実習作成記録物、セミナー発表から総合的に行う						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
45	理学療法士や関連職種の見学を通して、その役割を理解する。また、対象者への対応や接遇について学習する。現場の理学療法士による指導の下、対象者に対する検査測定(観察や面接、関節可動域測定や神経学的検査など)や治療を見学することで、実践的な知識を学習する。 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションを主とする。			<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての適性及びふさわしい態度を身につける。 ・理学療法業務全般と理学療法士の役割を理解する。 ・施設等の概要、特性を理解する。 ・実習での経験を記録し、簡潔、明瞭に発表することが出来る。 ・臨床実習指導者の指導の下、今後の学習を行うための学習課題を見出す。 ・理学療法士の活動場面を見学することにより、理学療法についての理解、対象者の諸問題についての理解を深め、理学療法の一連の過程を理解する。 			

授業科目名	解剖学Ⅱ		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	解剖学 ワークブック	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	前期	必須	講義
15							
授業概要	理学療法士国家試験の解剖学、臨床実習に必要な解剖学の知識を身につけることができる。						
学習到達目標	臨床実習や国家試験に向けて必要な解剖学の運動機能学分野について理解し、臨床に生かすことができる。						
評価方法	小テスト、筆記試験、出席点 * 毎回の講義終了時に小テストを課す						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	運動器の基礎			骨・骨格筋について理解する。			
2	下肢の筋			下肢の骨・筋・運動について理解を深め、筋の起始・停止や作用の復習を行い知識を定着させる。			
3							
4							
5	上肢の筋			上肢の骨・筋・運動について理解を深め、筋の起始・停止や作用の復習を行い知識を定着させる。			
6							
7							
8	頭部・体幹の筋			頭部・体幹の筋・運動について理解し、筋の起始・停止や作用の復習を行い知識を定着させる。			
9							
10	循環器系			心臓や血管系の構造や特徴を理解する。			
11	消化器			消化器系の構造や特徴を理解する。			
12	呼吸器			肺や呼吸器系について理解する。			
13	泌尿器			泌尿器系について理解する。			
14	内分泌器			内分泌系について理解する。			
15	まとめ			試験対策			

授業科目名	運動動作分析学		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	症例動作分析 適宜プリント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	演習
30							
授業概要	臨床動作分析は、理学療法士にとって最も重要かつ基本的な技能でありながら、その修得が最も困難なものの一つである。授業を通して可能な限り必要な基本的力学原理と動作の特徴を説明できることを目標とする。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各姿勢・動作を構成している要素の理解 ・異常動作の原因追求(姿勢・動作分析) 						
評価方法	小テスト、期末試験						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	オリエンテーション						
2	姿勢・動作分析の基礎		姿勢・動作分析の必要性を理解する				
3	姿勢・動作分析の基礎						
4	姿勢分析 ①臥位		各姿勢に必要な要素を理解した上で基本的な姿勢の観察を行い、分析を行う。				
5	姿勢分析 ①臥位						
6	姿勢分析 ②座位						
7	姿勢分析 ②座位						
8	姿勢分析 ③立位						
9	姿勢分析 ③立位		寝返り～立ち上がりに必要な要素を理解した上で基本的な動作の観察を行い、分析を行う。				
10	動作分析 ①寝返り						
11	動作分析 ①寝返り						
12	動作分析 ②起き上がり						
13	動作分析 ②起き上がり						
14	動作分析 ②立ち上がり		正常歩行を構成している要素を十分理解した上で临床上多く見ることがある疾患の歩行の分析を行う。最終的には歩行分析より評価項目を列挙できるようになる。				
15	動作分析 ②立ち上がり						
16	動作分析 ③歩行 脳卒中						
17	動作分析 ③歩行 脳卒中						
18	動作分析 ③歩行 脳卒中						
19	動作分析 ③歩行 脳卒中						
20	動作分析 ④歩行 整形外科疾患						
21	動作分析 ④歩行 整形外科疾患						
22	動作分析 ④歩行 整形外科疾患						
23	動作分析 ④歩行 整形外科疾患						
24	動作分析 ⑤歩行 各種疾患						
25	動作分析 ⑤歩行 各種疾患						
26	動作分析 ⑤歩行 各種疾患						
27	動作分析 ⑤歩行 各種疾患						
28	全体まとめ						
29	全体まとめ						
30	全体まとめ						

授業科目名	臨床評価学 I		担当者名	山崎瞬								
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり								
教科書	理学療法評価学 第5版 松澤正 金原出版	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法					
		1										
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	演習					
30												
授業概要	2年次に実践した検査・測定の復習を交えながら、2人一組で様々なケースを想定した理学療法評価の演習を行う。											
学習到達目標	各種疾患に応じた評価(検査・測定)を経験する。 検査・測定から治療プログラムの立案までの一連の理学療法評価プロセスを経験する。											
評価方法	提出物(レジュメ・PPT)及び発表にて評価する。											
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など									
1	オリエンテーション		授業方法(課題・目的・ケースノートの記載方法・SOAP)について説明する。									
2												
3	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施		授業時間内で、検査測定の項目の確認、実施、記録まで実施する。									
4												
5												
6												
7	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施											
8												
9												
10	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施											
11												
12												
13	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施											
14												
15												
16	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施											
17												
18												
19	ケース・スタディー 検査測定の選択と実施											
20												
21												
22	ケース・スタディー レジュメの作成(自身のPCIにて作成)	評価実習を見据え、ケースの状況を踏まえた上で必要と思われる検査・測定を選択し、学生同士で実施する。 ケースの情報、検査・測定結果をケースノートに記載し、統合と解釈を行う。 ケースのレジュメを作成し、提出する。										
23	ケース・スタディー レジュメの作成(自身のPCIにて作成)											
24	ケース・スタディー レジュメの作成(自身のPCIにて作成)											
25	ppt・レジュメの作成と発表							ペアごとに発表を行ってもらおう。				
26	ppt・レジュメの作成と発表											
27	ppt・レジュメの作成と発表											
28	ppt・レジュメの作成と発表											
29	ppt・レジュメの作成と発表											
30	ppt・レジュメの作成と発表											

授業科目名	臨床評価学Ⅱ		担当者名	福原 浩之、水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 第2版 文光堂	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	演習
30							
授業概要	症例検討やグループワークを通して、理学療法の治療における臨床推論の方法を学ぶ。実技の実践についても行う。なお、シラバス通りには進まない。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床的推論能力の構築 ・適切な評価手技の獲得 						
評価方法	レポート、筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	症例検討① 脳血管疾患			紙面上の脳血管疾患の症例から適切な評価項目を列挙する。検査結果から統合と解釈をして、問題点を挙げる。			
3	症例検討① 脳血管疾患						
4	症例検討① 脳血管疾患						
5	症例検討① 脳血管疾患						
6	症例検討① 脳血管疾患						
7	症例検討① 脳血管疾患						
8	症例検討① 脳血管疾患						
9	症例検討① 脳血管疾患						
10	症例検討① 脳血管疾患						
11	症例検討① 脳血管疾患						
12	症例検討② 整形外科疾患						
13	症例検討② 整形外科疾患						
14	症例検討② 整形外科疾患						
15	症例検討② 整形外科疾患						
16	症例検討② 整形外科疾患						
17	症例検討② 整形外科疾患						
18	症例検討② 整形外科疾患						
19	症例検討② 整形外科疾患						
20	症例検討② 整形外科疾患						
21	症例検討② 整形外科疾患						
22	OSCE① 脳血管疾患			脳血管疾患に必要な基本的な検査をより効率よく、正確に検査することができるようにする。			
23	OSCE① 脳血管疾患						
24	OSCE① 脳血管疾患						
25	OSCE① 脳血管疾患						
26	OSCE② 整形外科疾患			整形外科疾患に必要な基本的な検査をより効率よく、正確に検査することができるようにする。			
27	OSCE② 整形外科疾患						
28	OSCE② 整形外科疾患						
29	OSCE② 整形外科疾患						
30	総括						

授業科目名	中枢神経疾患系理学療法Ⅱ		担当者名	阿部 浩明			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	神経障害 理学療法Ⅰ・Ⅱ	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	講義
	30						
授業概要	中枢神経系理学療法に必要な解剖学的知識、運動障害、感覚障害に関連する知識、脳血管障害の病態の理解、急性期脳血管障害に対する理学療法を実施するために必要なリスク管理の知識、高次脳機能障害の知識を学ぶ講義を行います。						
学習到達目標	脳卒中の病態を理解し、リスク管理を学び、急性期から脳画像所見を含めた評価を行えるようになることを目標とします。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	神経細胞についての知識			神経細胞についての知識を整理し、その性質を理解する			
2	脳(大脳)の機能解剖			脳(大脳)の機能解剖を理解する			
3	脳(間脳、基底核)の機能解剖			脳(間脳、基底核)の機能解剖を理解する			
4	脳(脳幹)の機能解剖			脳(脳幹)の機能解剖を理解する			
5	脳(小脳)の機能解剖			脳(小脳)の機能解剖を理解する			
6	脳損傷の原因			脳損傷の原因となる疾患を理解する			
7	神経可塑的变化と反復練習			神経可塑的变化と反復練習の重要性を理解する			
8	一次運動野			一次運動野について理解する			
9	補足運動野			補足運動野について理解する			
10	運動前野			運動前野について理解する			
11	小脳			小脳について理解する			
12	大脳基底核の運動の関わり			大脳基底核の運動の関わりについて理解する			
13	感覚の種類について			感覚の種類について理解する			
14	体性感覚の経路について			体性感覚の経路について理解する			
15	視床の外腹側核と小脳の連絡について			視床の外腹側核と小脳の連絡について理解する			
16	皮質橋路を通じて小脳への入力について			皮質橋路を通じて小脳への入力について理解する			
17	失調性片麻痺について			失調性片麻痺について理解する			
18	視床性失語について			視床性失語について理解する			
19	前大脳動脈領域の梗塞と出現しうる主な臨床症状について			ACA領域梗塞の臨床症状について理解する			
20	中大脳動脈領域の梗塞と出現しうる主な臨床症状について			MCA領域梗塞の臨床症状について理解する			
21	後大脳動脈領域の梗塞と出現しうる主な臨床症状について			PCA領域梗塞の臨床症状について理解する			
22	前脈絡叢動脈領域の梗塞と出現しうる主な臨床症状について			AnChor領域梗塞の臨床症状について理解する			
23	脳血管障害と脳卒中			脳血管障害と脳卒中について理解する			
24	脳血管障害の分類			脳血管障害の分類について理解する			
25	脳出血における医学管理			脳出血における医学管理について理解する			
26	くも膜下出血における医学管理			くも膜下出血における医学管理を理解する			
27	脳梗塞の医学管理について			脳梗塞の医学管理について理解する			
28	BAD,TIAについて			BAD,TIAについて理解する			
29	脳血管障害に対する急性期理学療法			脳血管障害に対する急性期理学療法を理解する			
	pusher現象の理解と治療			pusher現象の理解と治療を理解する			
30	半側空間無視の理解			半側空間無視を理解する			
	各種高次脳機能障害の理解			各種高次脳機能障害を理解する			

授業科目名	中枢神経疾患系理学療法学Ⅲ		担当者名	福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	配布プリント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	通年	必修	演習
60							
授業概要	中枢神経系の障害に対して、運動療法(総論)で学習した運動療法を選択し実践できるように実技を中心として講義を進める。座学については、事例・映像を用いた実践的なケーススタディ・グループワークを実践する。						
学習到達目標	脳血管疾患に関する様々な症候を理解するとともに、実践的な検査・測定および評価・治療について復習・演習を行うとともにグループワークでのケーススタディ等も用いて、中枢神経系に対する一連の理学療法の流れを理解することを目標とする。						
評価方法	小テスト、期末試験、実技テスト						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション						
2	基本動作・起居動作・移乗動作:ハンドリングと誘導・介助の実際			臥位～移乗までの一連の流れを安全に実施することができる。			
3	基本動作・起居動作・移乗動作:ハンドリングと誘導・介助の実際						
4	基本動作・起居動作・移乗動作:ハンドリングと誘導・介助の実際						
5	基本動作・起居動作・移乗動作:ハンドリングと誘導・介助の実際						
6	早期の理学療法の概要と実際:リスク管理						
7	早期の理学療法の概要と実際:リスク管理			ベッドサイドからの離床を行う上での留意点を理解する。			
8	早期の理学療法の概要と実際:リスク管理						
9	早期の理学療法の概要と実際:リスク管理						
10	ポジショニングと関節可動域へのアプローチ			脳血管疾患の特有の非対称性姿勢を理解した上で適切なポジショニング方法を選択できるようになる。			
11	ポジショニングと関節可動域へのアプローチ						
12	ポジショニングと関節可動域へのアプローチ						
13	ポジショニングと関節可動域へのアプローチ						
14	運動機能へのアプローチ①			脳血管疾患・片麻痺に対する基本的な運動療法について学ぶ。			
15	運動機能へのアプローチ①						
16	運動機能へのアプローチ①						
17	運動機能へのアプローチ①						
18	運動機能へのアプローチ②						
19	運動機能へのアプローチ②						
20	運動機能へのアプローチ②						
21	運動機能へのアプローチ②						
22	片麻痺の動作へのアプローチ			脳血管疾患・片麻痺が呈しやすい動作を理解した上でハンドリング手技を学ぶ。			
23	片麻痺の動作へのアプローチ						
24	片麻痺の動作へのアプローチ						
25	片麻痺の動作へのアプローチ						

26	片麻痺の歩行分析とアプローチ①	脳血管疾患・片麻痺が呈しやすい歩行を理解し、そこから適切な問題点を導き出す。
27	片麻痺の歩行分析とアプローチ①	
28	片麻痺の歩行分析とアプローチ①	
29	片麻痺の歩行分析とアプローチ①	
30	片麻痺の歩行分析とアプローチ②	
31	片麻痺の歩行分析とアプローチ②	
32	片麻痺の歩行分析とアプローチ②	
33	片麻痺の歩行分析とアプローチ②	
34	事例による評価練習①	紙面上の症例に対してICFを用いた問題点の列挙、目標の設定が行えるようになる。また、合併症への理解も学習する。
35	事例による評価練習①	
36	事例による評価練習①	
37	事例による評価練習①	
38	事例による評価練習②	
39	事例による評価練習②	
40	事例による評価練習②	
41	事例による評価練習②	
42	事例による評価練習③	
43	事例による評価練習③	
44	事例による評価練習③	
45	事例による評価練習③	
46	実技まとめ 評価①	脳血管疾患・片麻痺に対する検査をより効率よく、正確に実施することができる。
47	実技まとめ 評価①	
48	実技まとめ 評価①	
49	実技まとめ 評価①	
50	実技まとめ 評価②	
51	実技まとめ 評価②	
52	実技まとめ 評価②	
53	実技まとめ 評価②	
54	OSCE 脳血管疾患①	脳血管疾患・片麻痺に対する検査をより効率よく、正確に実施することができる。
55	OSCE 脳血管疾患①	
56	OSCE 脳血管疾患①	
57	OSCE 脳血管疾患②	
58	OSCE 脳血管疾患②	
59	OSCE 脳血管疾患②	
60	全体まとめ	

授業科目名	神経筋疾患系理学療法学		担当者名	水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ スライド資料	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	講義
30							
授業概要	神経・筋疾患の理学療法について学ぶ。そのうえで、いわゆる難病とされることが多い、神経・筋疾患の対象者へのアプローチを学ぶ。						
学習到達目標	神経難病の医学モデルとともに、生活環境の調整や家族などを含む援助者への指導支援などの生活モデルの観点からのアプローチについて理解する。						
評価方法	筆記試験 レポート内容 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	神経筋疾患について			神経筋疾患の概要			
2							
3	パーキンソン病の病態			パーキンソン病の症状と運動機能の理解			
4							
5	パーキンソン病に対する理学療法			パーキンソン病の症状に対する理解			
6							
7	パーキンソン病に対するリハビリテーションの実際			パーキンソン病の評価から練習への流れ			
8							
9	筋萎縮性側索硬化症の病態			筋萎縮性側索硬化症の症状と運動機能の理解			
10							
11	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法			筋萎縮性側索硬化症の症状に対する理解			
12							
13	筋萎縮性側索硬化症に対するリハビリテーションの実際			筋萎縮性側索硬化症の評価から練習への流れ			
14							
15	運動失調の病態			運動失調の症状と運動機能の理解			
16							
17	運動失調に対する理学療法			運動失調の症状に対する理解			
18							
19	運動失調に対するリハビリテーションの実際			運動失調の評価から練習への流れ			
20							
21	脊髄小脳変性症の病態			脊髄小脳変性症の症状と運動機能の理解			
22							
23	脊髄小脳変性症に対する理学療法			脊髄小脳変性症に対する理解			
24							
25	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーションの実際			脊髄小脳変性症の評価から練習への流れ			
26							
27	その他の神経難病に対する病態			その他の神経難病の運動機能の理解			
28							
29	その他の神経難病に対する理学療法			その他の神経難病の症状に対する理解			
30							

授業科目名	内部疾患系理学療法学		担当者名	水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 内部障害理学療法学	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	講義
30							
授業概要	内部障害の疾患でリハビリテーションに関係の深い呼吸器疾患・循環器疾患・代謝疾患等について、その疾患の特徴・基礎にはじまり、理学療法を行う上での注意事項、実際の理学療法の進め方、運動療法の実際を学習する。						
学習到達目標	それぞれの疾患において必要なスパイロメータや心電図の知識、リスク管理などを理解する。						
評価方法	筆記試験 レポート内容 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	内部障害の理解			内部障害について			
2							
3	呼吸器障害 1			呼吸器系の基礎について			
4							
5	呼吸器障害 2			呼吸器疾患と治療について			
6							
7	呼吸器障害 3			呼吸器疾患と治療について			
8							
9	呼吸器障害 4			評価について			
10							
11	呼吸器障害 5			呼吸器疾患の理学療法について			
12							
13	呼吸器障害 6			排痰法・呼吸介助手技について			
14							
15	循環器障害 1			循環器系障害と運動について			
16							
17	循環器障害 2			評価について			
18							
19	循環器障害 3			心筋梗塞の理学療法について			
20							
21	循環器障害 4			循環器疾患と治療について			
22							
23	代謝障害 1			腎障害と運動について			
24							
25	代謝障害 2			評価について			
26							
27	代謝障害 3			糖尿病と一般的な治療について			
28							
29	代謝障害 4			糖尿病患者の理学療法について			
30							

授業科目名	各種疾患系理学療法学		担当者名	石島孝樹			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ がんのリハビリテーション	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	講義
	15						
授業概要	がん医療におけるリハビリテーションの役割を認識し、治療別・がん種別に必要なリハビリテーション評価・プログラム・リスク管理・目標設定について学ぶ。						
学習到達目標	原発巣や治療目的別に、リハビリテーションの対象となる障害の種類および様々なリスクや中止基準を理解し、それぞれの状況に応じたリハビリテーションの介入・目標設定を行うことができる。						
評価方法	課題、筆記試験(小テストを含む)、出席率						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	がんのリハビリテーションの概要			がんのリハビリテーションの定義を理解する。			
2	がんの疫学と治療			がんの治療の概要を理解する。			
3	がん患者の評価尺度			がん患者に関する評価尺度を理解する。			
4	周術期リハビリテーション(1)			肺癌・消化器癌の概要を理解する。			
5	周術期リハビリテーション(2)			頭頸部癌・乳がんの概要を理解する。			
6	化学療法・放射線療法中のリハビリテーション			化学療法・放射線療法について理解する。			
7	血液がんに対するリハビリテーション			血液がん患者の病態を理解する。			
8	原発性脳腫瘍・骨軟部腫瘍のリハビリテーション			疾患の種類や進行度による治療法の概要を理解する。			
9	緩和ケアにおけるリハビリテーション			緩和ケアの概念とチーム医療の必要性を理解する。			
10	骨転移に対するリハビリテーション			骨転移の病態および基本的な治療方法を理解する。			
11	がん悪液質に対するリハビリテーション			がん悪液質の病態および治療方法を理解する。			
12	高齢がん患者に対するリハビリテーション			高齢がん患者の特徴を理解する。			
13	摂食嚥下・コミュニケーション障害に対するリハビリテーション			がん患者の摂食嚥下障害を理解する。			
14	がん患者の精神・心理的問題、コミュニケーション			がん患者が抱える精神・心理的問題を理解する。			
15	在宅支援・就労支援			がん患者の在宅支援および就労支援の課題を理解する。			

授業科目名	各種疾患系理学療法学		担当者名	高田拓明			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 内部障害理学療法学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	講義
15							
授業概要	呼吸リハビリテーションと腎臓リハビリテーションについて学ぶ、具体的には、各種呼吸器障害及び腎障害に関連する解剖学・生理学・臨床医学を理解し、各種疾患における症状、医学的診断・治療、理学療法評価・リハビリテーションについて学ぶ						
学習到達目標	①各種呼吸器疾患及び腎疾患を理解するのに必要な解剖学・生理学・臨床医学の知識を理解し、説明することができる ②各種疾患別理学療法における理学療法評価及び治療について理解・説明でき、一部実践することができる。						
評価方法	評価は、定期試験(評価60%)、レポート課題(評価20%)、出席状況(評価20%)により、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	呼吸リハビリ①:呼吸リハビリテーション概要			呼吸リハビリテーションを理解する。			
2	呼吸リハビリ②:呼吸器系の解剖・生理			呼吸器系の解剖学及び生理学を理解する。			
3	呼吸リハビリ③:呼吸器疾患の臨床医学			呼吸器疾患の臨床症状・医学診断・治療を理解する。			
4	呼吸リハビリ④:呼吸器疾患の理学療法評価			呼吸器疾患の理学療法評価法を実践する。			
5	呼吸リハビリ⑤:呼吸器疾患の理学療法治療			呼吸器疾患の理学療法治療を実践する。			
6	腎臓リハビリ①:腎臓リハビリテーション概要			腎臓リハビリテーションを理解する。			
7	腎臓リハビリ②:腎臓の解剖・腎臓・代謝・ホルモンの生理			腎臓・代謝系の解剖学及び生理学を理解する。			
8	腎臓リハビリ③:腎疾患の臨床医学			腎臓疾患の臨床症状・医学診断・治療を理解する。			
9	腎臓リハビリ④:腎疾患の理学療法評価			腎臓疾患の理学療法評価法を実践する。			
10	腎臓リハビリ⑤:腎疾患の理学療法治療			腎臓疾患の理学療法治療を実践する。			
11	ケーススタディ:グループワーク①			呼吸器疾患の理学療法プロセスを実践する。			
12	ケーススタディ:グループ発表①			呼吸器疾患のケーススタディを発表する。			
13	ケーススタディ:グループワーク②			腎臓疾患の理学療法プロセスを実践する。			
14	ケーススタディ:グループ発表②			腎臓疾患のケーススタディを発表する。			
15	まとめ			呼吸器・腎臓のリハビリテーションを一部実践できる。			

授業科目名	発達障害理学療法学		担当者名	石島孝樹			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	小児理学療法学テキスト	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	講義
		30					
授業概要	乳児期から幼児期にかけて様々な原因が影響する発達の「遅れ」や質的な「歪み」、および機能獲得の困難さが生じる心身の障害と脳性まひ児の療育・リハビリテーションを学ぶ。						
学習到達目標	発達障害と脳性麻痺における運動機能障害を概観したのち、家庭療育における具体的アプローチを通して発達障害と脳性まひ児の概念に関して理解する。						
評価方法	課題、筆記試験(小テストを含む)、出席率						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	正常姿勢反射と運動の発達(1)			新生児期にみられる反射と反応			
2	正常姿勢反射と運動の発達(2)			胎児の行動			
3	正常姿勢反射と運動の発達(3)			新生児の行動			
4	正常姿勢反射と運動の発達(4)			新生児期以降にみられる反射と反応			
5	発達障害の運動療法(1)			子供の成長と発達の特性			
6	発達障害の運動療法(2)			理学療法の目的			
7	発達障害の運動療法(3)			子供の理学療法			
8	脳性まひ(1)			痙直型両麻痺についての理解			
9	脳性まひ(2)			痙直型両麻痺についての理解			
10	脳性まひ(3)			アテトーゼ型についての理解			
11	脳性まひ(4)			アテトーゼ型についての理解			
12	脳性まひ(5)			痙直型片麻痺についての理解			
13	脳性まひ(6)			痙直型片麻痺についての理解			
14	二分脊椎(1)			原因と発症率			
15	二分脊椎(2)			二分脊椎の臨床像			
16	二分脊椎(3)			二分脊椎の評価と理学療法			
17	重症心身障害児(1)			重症心身障害児(総論)			
18	重症心身障害児(2)			重症児の臨床像			
19	重症心身障害児(3)			主要問題に対する理学療法			
20	ダウン症候群(1)			染色体異常の概念			
21	ダウン症候群(2)			フロッピーインファントの概念			
22	ダウン症候群(3)			ダウン症候群の臨床像			
23	低出生体重児・ハイリスク児(1)			低出生体重児・ハイリスク児の定義と分類			
24	低出生体重児・ハイリスク児(2)			新生児の神経行動発達			
25	低出生体重児・ハイリスク児(3)			NICUにおける発達ケア			
26	精神発達遅滞児(1)			精神発達遅滞の定義と原因			
27	精神発達遅滞児(2)			粗大運動発達の経過			
28	精神発達遅滞児(3)			理学療法の実際			
29	社会的療育(1)			療育と法的背景			
30	社会的療育(2)			児童福祉施策における療育			

授業科目名	老年期系理学療法学		担当者名	水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	シンプル理学療法シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 南江堂	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	3	後期	必須	講義
		30					
授業概要	参考書に準じた授業展開を基本とし、国家試験問題に触れながら高齢者に対する評価・治療について学ぶ。高齢者に対するリハビリテーションは、疾患別での介入のみならず、多疾患合併への対応が必要とされる。そのため、高齢者に対する包括的な知識の整理を行い、臨床対応を学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者をイメージできる・加齢に伴う心身機能の変化を理解できる・それを踏まえ、理学療法を実施する上での留意点を理解する。 ・老年期に発症しやすい疾患の具体例から高齢者の理学療法を深める・今後の高齢者に対する理学療法の役割を知ることができる。 						
評価方法	筆記試験 レポート内容 出欠状況						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ライフステージと高齢者像			高齢者とはいかなるものかを理解する。			
2							
3	加齢に伴う心身機能の変化			高齢者に理学療法を実施するために必要な加齢に伴う心身機能の変化について理解する。			
4							
5	老年症候群			フレイルとサルコペニアの関連性について理解する。			
6							
7	高齢者の生活機能評価			高齢者の運動機能の評価方法を理解し、その特徴や注意点について理解する。			
8							
9	高齢者の健康寿命の延伸			高齢者の運動機能の評価方法を理解し、特徴を理解する。			
10							
11	高齢者の理学療法を実施する上での留意点			高齢者の理学療法をするうえで、リスク管理について理解する。			
12							
13	高齢者の骨・関節障害と理学療法①大腿骨頭部骨折			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
14							
15	高齢者の骨・関節の障害と理学療法②変形性膝関節症			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
16							
17	高齢者の中枢神経障害と理学療法①脳血管障害			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
18							
19	高齢者の中枢神経障害と理学療法②パーキンソン病			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
20							
21	高齢者の代謝障害と理学療法 糖尿病			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
22							
23	高齢者の循環障害と理学療法 心疾患			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
24							
25	高齢者の呼吸器障害と理学療法 呼吸器疾患			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
26							
27	地域高齢者と理学療法			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
28							
29	高齢社会の課題と展望			患者の理解を深め、最適なプログラムを立案する。			
30							

授業科目名	理学療法技術論Ⅱ		担当者名	森山 宏則、山崎 瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	・理学療法評価学 ・新徒手筋力検査法第 10版	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	演習
30							
授業概要	理学療法に関する技術の中でも、主に評価手技(検査・測定)について実施する。 2年次の評価学Ⅱで学んだ評価手技を復習すると共に、疾患や病態に則した評価を実践する。						
学習到達目標	①基本的な検査・測定を実践し、記録することができる。 ②疾患や病態に則した評価がある程度の指導の下行える。						
評価方法	筆記試験、レポート						
コマ	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	形態測定(四肢長・周径)			身体の形態について理解し、計測の精度を高める。			
2							
3	ROM-T(上肢)			エンドポイントまで動かす。エンドフィールを感じる 測定精度を高める。			
4							
5	ROM-T(頸部体幹、下肢)						
6							
7	MMT(肩甲帯・肩関節・肘～手関節)			テキストを基本とした筋力測定が滞りなくできる。 麻痺を想定し、段階2以下の測定ができる。			
8							
9	MMT(体幹・下肢)						
10							
11	疼痛検査(VAS、NRS) 感覚検査(表在・深部)			痛みの検査、感覚検査手順を説明し、実践できる。			
12							
13	協調性検査 片麻痺機能検査 BRS SIAS 筋緊張検査			片麻痺運動機能について理解し、評価ができる。			
14							
15	深部腱反射 病的反射			反射とは何か説明できる。 反射、病的反射の実践ができる。			
16							
17	認知機能検査(失行失認検査 HDS-R MMSE)			高次脳機能障害について理解し、評価法を身につける			
18							
19	バランス検査 BBS			バランス機能について理解し、評価法を身につける。			
20							
21	総合練習① 整形外科疾患 変形性膝関節症患者			変形性膝関節症患者の評価と記録ができる。			
22							
23	総合練習② 整形外科疾患 大腿骨人工骨頭置換術患者			人工骨頭置換術後患者の評価と記録ができる。			
24							
25	総合練習③ 中枢神経疾患			片麻痺患者の評価と記録ができる。			
26							
27	総合練習④ 中枢神経疾患			小脳性疾患患者の評価と記録ができる。			
28							
29	総合練習⑤ パーキンソン症候群			パーキンソン症候群の評価と記録ができる。			
30							

授業科目名	理学療法技術論Ⅱ		担当者名	福原 浩之、山崎 瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	臨床技能とOSCE	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	演習
30							
授業概要	理学療法の基本的な治療手技・介助技術について説明し演習を行う。						
学習到達目標	各々の治療方法・介助技術の基礎を理解し、実践できる。						
評価方法	実技試験						
コマ	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	移乗動作の介助			移乗動作の適切な介助方法について学ぶ			
2							
3	車いすの駆動介助			車いすの駆動介助方法について学ぶ			
4							
5	起き上がりの介助・起立・着座の介助			起き上がりの介助・起立・着座の介助方法について学ぶ			
6							
7	歩行の介助			歩行の介助方法について学ぶ			
8							
9	食事・更衣の介助			食事・更衣の介助方法について学ぶ			
10							
11	関節可動域運動			関節可動域運動について学ぶ			
12							
13	筋力増強運動			筋力増強運動について学ぶ			
14							
15	促通手技			促通手技について学ぶ			
16							
17	振り子運動			振り子運動について学ぶ			
18							
19	荷重練習			荷重練習について学ぶ			
20							
21	呼吸練習・排痰手技			呼吸練習・排痰手技について学ぶ			
22							
23	総復習			上記すべてについて総合的に実技を復習・確認を行う。			
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							

授業科目名	地域理学療法論Ⅲ		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	プリント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	3年	後期	必須	講義
15							
授業概要	地域理学療法での実際の評価やそれぞれの分野における症例を通して実践法を学ぶ。						
学習到達目標	地域リハビリテーションの現状を理解し、臨床で実践的に活躍できる知識・技術を身に着ける。						
評価方法	試験およびレポート等						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション			今後の授業の概要と導入			
2	地域理学療法の評価の意義			地域理学療法における評価の意義			
3	日常生活動作の評価と実際			ADL評価の目的、方法、活用法			
4	地域理学療法における施設別にみた評価			施設、訪問、通所における評価とその実際			
5	ケアプラン作成と理学療法			目標、ケアプラン作成			
6	関連職種とのかかわり(チームアプローチ)			チームアプローチの必要性、課題等			
7	実践編①地域理学療法			介護老人保健施設、特別養護老人ホームにおける地域理学療法			
8	実践編②地域理学療法			通所リハビリ、訪問リハビリにおける地域理学療法			
9	実践編③生活と環境			福祉用具、住宅改修、			
10	実践編④生活と環境			地域、施設における環境整備			
11	実践編⑤CBR(地域に根差したリハビリテーション)の理想			CRBの概念、大切な要素			
12	実践編⑥CBR(地域に根差したリハビリテーション)の理想			CRBの留意事項、症例紹介			
13	実践編⑦地域リハビリテーションのかたち			地域リハビリテーションにおける役割・定義			
14	実践編⑧地域リハビリテーションのかたち			障がい者雇用の実態、理想的なシステムとは			
15	まとめ			これまでの講義のまとめ			

授業科目名	臨床評価実習		担当者名	山崎瞬、山田剛、森山宏則、 遠藤由香、福原浩之、水野豊 (臨床実習指導者)			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	指定なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		5					
		時間数	理学療法科	3	前期	必修	実習
225							
授業概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で、情報収集や検査・測定等を通じて、対象者の状態等に関する評価を実施する。様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学ぶ。得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。						
学習到達目標	専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。理学療法を施行する為の情報収集ができる。対象者についての評価ができる。得られた情報、検査測定結果をもとに、指導者から補足や説明を受けながら問題点や障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を理解する。						
評価方法	出席率、臨床実習指導者報告書、実習作成記録物、セミナー発表から総合的に行う						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
225	臨床実習指導者の指導・監督の下で、診療録等からの間接的情報収集や対象者への直接的情報収集(検査・測定等)を通じて、対象者の状態等に関する評価を実施する。診療チームの一員として加わり様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学ぶ。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ・病院／施設や他の専門職の業務内容への理解を深める。 ・対象者との接遇や職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、医療従事者としての態度、心構えを習得する。 ・経験した内容や自分の考えを記録し、論理的かつ簡潔に発表することができる。 ・間接的情報収集ができる ・情報を整理し、問診ができる ・情報をまとめ、対象者に必要な検査測定項目をあげられる ・必要とあげた検査測定項目の意味、目的を説明できる ・直接的情報収集(検査・測定等)を実施できる ・得られた情報、検査測定結果をもとに、指導者から補足や説明を受けながら問題点や障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。 ・診療チームの一員として加わり様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学ぶ。 			

授業科目名	総合臨床実習 I		担当者名	山崎瞬、山田剛、森山宏則、 遠藤由香、福原浩之、水野豊 (臨床実習指導者)			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	指定なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		6					
		時間数	理学療法科	3	後期	必修	実習
270							
授業概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践を学ぶ。診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加などを経験する。						
学習到達目標	専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。理学療法を施行する為の対象者についての評価ができる。指導者から補足や説明を受けながら対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案が理解できる。治療実践を経験する。						
評価方法	出席率、臨床実習指導者報告書、作成課題記録物、セミナー発表から総合的に行う						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
270	臨床実習指導者の指導・監督の下で、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践を学ぶ。診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加などを経験する。			<ul style="list-style-type: none"> ・病院／施設や他の専門職の業務内容への理解を深める。 ・対象者との接遇や職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、医療従事者としての態度、心構えを習得する。 ・経験した内容や自分の考えを記録し、論理的かつ簡潔に発表することができる。 ・間接的情報収集ができる ・情報を整理し、問診ができる ・情報をまとめ、対象者に必要な検査測定項目をあげられる ・必要とあげた検査測定項目の意味、目的を説明できる ・直接的情報収集(検査・測定等)を実施できる ・得られた情報、検査測定結果をもとに、指導者から補足や説明を受けながら対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践を学ぶ ・診療録等への記載方法を学ぶ ・多職種連携について経験する ・診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学ぶ。 			

授業科目名	チーム医療論		担当者名	山崎瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	前期	必修	講義
15							
授業概要	医療現場におけるチーム医療の重要性を理解するために行う。						
学習到達目標	1.チーム医療の基本的な理論と原則の学習:チーム医療におけるコミュニケーション、協働、協調性などの理論や原則を学びます。 2.チーム医療の利点と限界の理解:チーム医療の利点や限界を理解することで、医療現場におけるチーム医療の役割を把握します。						
評価方法	レポートで評価します。						
時数	授 業 内 容		到達目標・学習課題など				
1	チームケアの必要性とその背景		医療技術の高度化、患者数の増加と入院期間の短縮、治療の選択肢の増加といった背景を具体的に解説する。				
2							
3							
4	各種専門職		医師や看護師などの医療専門職種について理解する。				
5							
6							
7							
8	医療におけるケアチームや各種委員会		様々なケアチームや委員会について理解する。				
9							
10							
11							
12	事務部門とチームケア		事務部門とのかかわりについて理解する。				
13							
14							
15							

授業科目名	栄養学		担当者名	高田拓明			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	リハビリテーション栄養	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	後期	必修	講義
15							
授業概要	リハビリテーション栄養とは何かを理解し、栄養サポートチーム(NST)における理学療法士や作業療法士等の役割を学ぶ。臨床栄養の視点から患者さんの状態理解するために必要な栄養学・生理学を学び、リハビリへの応用の仕方を学ぶ。						
学習到達目標	①リハビリテーション栄養とは何かを理解し、説明ができる。②NSTの取り組み、PTとしての役割を理解し説明できる。サルコペニア、フレイル、低栄養等の栄養障害の患者さんにおけるリハビリ時の配慮や生理応答について考えることができる。						
評価方法	評価は、定期試験(評価60%)、レポート課題(評価20%)、出席状況(評価20%)により、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	リハビリテーションと栄養			リハビリテーション栄養を理解する			
2	低栄養時の代謝			栄養状態によるエネルギー代謝の違いを理解する			
3	運動栄養学とリハビリテーション			運動と栄養の相乗効果について理解する			
4	栄養サポートチーム(NST)におけるPT・OT・STの役割			NSTとそこでのPTの役割を理解する			
5	リハビリテーション栄養ケアプロセス			栄養ケアについて理解する			
6	リハビリテーション栄養アセスメント・診断推論			栄養アセスメントについて理解する			
7	リハビリテーション栄養診断			栄養診断について理解する			
8	リハビリテーション栄養ゴール設定			リハビリテーション栄養計画について理解する			
9	リハビリテーション栄養介入			リハビリテーション栄養介入についてを理解する			
10	リハビリテーション栄養モニタリング			リハビリテーション栄養モニタリングについて理解する			
11	疾患別:サルコペニアの摂食嚥下障害			サルコペニア・摂食嚥下障害と栄養障害を理解する			
12	疾患別:脳卒中			脳卒中と栄養障害を理解する			
13	疾患別:大腿骨近位部骨折			骨折と栄養障害を理解する			
14	疾患別:がん、悪液質			がん・悪液質と栄養障害を理解する			
15	まとめ			リハビリテーション栄養とは何かを考えられる			

授業科目名	地域包括ケアシステム論		担当者名	遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	プリント	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4年	前期	必須	講義
15							
授業概要	団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて、国全体で推進されている地域包括ケアシステムについて学ぶ。地域包括ケアシステムを理解した上で理学療法士が果たすべき役割、多職種連携、チーム医療について理解を深め現場の実践につなげることを目指す。						
学習到達目標	地域包括ケアシステムについて説明することができる。 臨床で実践的に活躍できる知識・技術を身に着ける。						
評価方法	試験およびレポート等						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	オリエンテーション・在宅リハビリテーションの現状と課題			今後の授業の概要と導入。			
2	在宅医療と地域包括ケアシステム			地域包括ケアシステムについて説明することができる。			
3	地域包括ケアシステムにおけるチーム医療・ケアの重要性			多職種連携について説明することができる。			
4	医療保険と介護保険制度			各制度について理解する。			
5	急性期リハビリテーションと回復期リハビリテーション			急性期から回復期にかけてのリハビリテーションの流れを理解し、説明することができる。			
6	生活期リハビリテーションと地域包括ケアシステム			生活期から維持期にかけてのリハビリテーションの流れを理解し、説明することができる。			
7	診療報酬・介護報酬と前方・後方連携について			在宅医療での情報共有について理解する。			
8	地域包括ケアと在宅医療・看護関連			地域包括ケアと在宅医療・看護関連について理解する。			
9	関連職種との連携(チームアプローチ)			多職種連携について説明することができる。			
10	ケアサイクルの質の担保と重要性について			在宅ケアにおける、ケアサイクルの質の担保と重要性について理解し説明できる。			
11	看取りの過程とリハビリテーション			看取りの現状を知り過程とリハビリテーションの効果について理解する。			
12	認知症ケアとリハビリテーション			認知症ケアとリハビリテーションについて理解する。			
13	事例学習① 地域包括ケアシステムと多職種連携			医療・介護チームの一員としての理学療法士の役割を理解し説明する事ができる。			
14	事例学習② 地域包括ケアシステムと多職種連携			医療・介護チームの一員としての理学療法士の役割を理解し説明する事ができる。			
15	まとめ			これまでの講義のまとめ			

授業科目名	基礎理学療法学研究法		担当者名	水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	標準理学療法学 理学療法研究法	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	通年	必修	演習
30							
授業概要	研究についての概要、理学療法士になぜ研究が必要かを理解する。 文献抄読や文献検索についての概要を理解する。						
学習到達 目標	疾患別の研究デザインを作成し、発表できる。 文献抄読のまとめ方と反する意見を述べることができる。						
評価方法	レポート、発表						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	研究とは何か			理学療法士が研究を行う意味			
2				研究を行う上での基本姿勢			
3	研究デザインの分類 ①			基礎研究とは			
4				基礎研究の目的と意義			
5	研究デザインの分類 ②			動物実験に関する基礎的な知識・技術			
6				代表的な基礎研究方法論			
7	エビデンスと研究デザインの関係 ①			測定と評価指標			
8				測定の定義			
9	エビデンスと研究デザインの関係 ②			評価指標の目的			
10				変数と測定尺度の分類			
11	文献抄読のやりかた ①			文献と研究			
12				文献の種類			
13	文献抄読のやりかた ②			文献検索と収集			
14				国内の文献データベース			
15	文献の批判的吟味について ①			研究論文を読むコツ1			
16				研究論文を読むコツ2			
17	文献の批判的吟味について ②			論文の批判的精読1			
18				論文の批判的精読2			
19	文献検索のやりかた ③			文献の活用方法			
20				研究計画と文献			
21	文献検索のやりかた ④			文献の引用			
22				抄読会と討論			
23	文献抄読の実際(グループワーク)			グループワークと発表			
24				グループワークと発表			
25	文献抄読の実際(グループワーク)			グループワークと発表			
26				グループワークと発表			
27	文献抄読の実際(グループワーク)			グループワークと発表			
28				グループワークと発表			
29	文献抄読の実際(グループワーク)			グループワークと発表			
30				グループワークと発表			

授業科目名	理学療法管理学		担当者名	山田 剛			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法 テキスト 理学療法管理学	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	理学療法科	4	通年	必修	講義
30							
授業概要	臨床場面に接するにあたり、適切な理学療法サービスを効率よく安全に提供するための管理（マネジメント）の視点を養うことを主な目的とする。						
学習到達目標	医療保険制度、介護保険制度、職場管理、職業倫理、理学療法教育の概要を理解する。						
評価方法	定期試験（筆記試験）により評価						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	総論			理学療法管理学の概要について理解する。			
2							
3	病院の分類と組織			医療機関の分類と組織の機能について理解する。			
4							
5	専門職とチームケア			リハビリテーションにかかわる専門職の役割、診療報酬上のチーム医療の実例を学ぶことにより、広義のチームケアを理解する。			
6							
7	社会保障のしくみ			日本の社会保障の構成要素とその役割を学ぶことにより、社会人として必要な社会保障の概要を理解する。			
8							
9	医療保険制度			理学療法業務に必要な医療保険制度の概要を理解する。			
10							
11	介護保険制度			理学療法業務に必要な介護保険制度の概要を理解する。			
12							
13	診療・介護報酬と収益構造			診療報酬・介護報酬とコスト、背景を学ぶことにより、リハビリテーション分野における収益の構造を理解する。			
14							
15	保健・医療・介護・福祉の連携			理学療法士が携わる保健・医療の連携と介護・福祉のかかわりについて理解する。			
16							
17	業務管理			業務管理の視点から理学療法業務の概要を理解する。			
18							
19	情報管理			情報収集、記録の意義と管理、コミュニケーション技術について理解する。			
20							
21	リスク管理			「医療安全」とリスク管理の概要について理解する。			
22							
23	感染症管理			医療・介護施設における感染管理について理解する。			
24							
25	権利擁護と職業倫理			理学療法士として必要な患者の権利擁護と職業について理解する。			
26							
27	教育管理			臨床実習から国家試験、生涯学習に至る教育体制について理解する。			
28							
29	理学療法士の政治・政策への関与			医療・介護と政治・政策との関係を学び、理学療法士の診療報酬や給与に寄与していることを理解する。			
30							

授業科目名	スポーツリハビリテーション論		担当者名	森山 宏則			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	指定教科書なし パワーポイント資料配布	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	後期	必修	講義
15							
授業概要	スポーツ傷害について、各競技特性と傷害の関係性を学び、さらに予防も含めた理学療法アプローチについて考える。						
学習到達目標	スポーツ傷害の概念と各競技の特性を踏まえた理学療法アプローチを知る。						
評価方法	レポートなど						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	スポーツ傷害とは			スポーツ傷害についてこれから学ぶ内容を理解する			
2	スポーツ傷害に対するリハビリテーション関連職種の関わり			スポーツ傷害とリハビリテーションの関連を理解する			
3	野球における投球動作について			投球動作の相分け			
4	投球動作の分析(速い球を投げるための環境的要因)			マウンドの状況			
5	投球動作の分析(速い球を投げるための身体的要因)			運動連鎖 鞭打ち様現象			
6	投球障害肩について			投球障害肩の種類を理解			
7	投球障害肩と理学療法			ストレッチ等			
8	投球障害肩と理学療法			カフエクササイズ			
9	投球障害肘と理学療法			病態の理解			
10	投球障害肘と理学療法			病態の理解			
11	ACL損傷について			受傷機転を理解する			
12	ACL損傷とその理学療法			術後のリスク管理を理解する			
13	陸上競技における傷害と理学療法			アキレス腱炎 シン・スプリント			
14	陸上競技における傷害と理学療法			腸脛靭帯炎			
15	急性期外傷の応急処置について			RICE			

授業科目名	理学療法技術論Ⅲ		担当者名	遠藤 由香・福原 浩之			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	障害別・ケースで学ぶ 理学療法臨床思考	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	前期	必須	演習
30							
授業概要	各種症例の理学療法の治療における臨床推論の方法を学ぶ。						
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種症例の現象について臨床的仮定・推察の方法を学ぶ ・適切な治療プログラムを立案することができる 						
評価方法	レポート、小テスト、期末試験等						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	症例① 大腿骨頸部骨折に対する観血的整復固定術後にトレンデルンブルグ徴候を呈した症例			「筋力低下」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
2							
3	症例② 踵骨骨折の後遺症により下肢に疲労感がみられる症例						
4							
5	症例③ プッシャー現象と左半側空間無視を認め、座位バランスに不安定性をきたした右脳梗塞の症例			「バランス障害」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
6							
7	症例④ 協調障害を呈している小脳出血の症例			「協調障害」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
8							
9	症例⑤ 片麻痺と感覚障害のため起居移動動作に困難をきたした脳出血の症例			「感覚障害」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
10							
11	症例⑥ 変形性膝関節症による関節可動障害のため歩行困難をきたした症例			「歩行障害」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
12							
13	症例⑦ 右被殻出血による左片麻痺のため歩行障害をきたした症例						
14							
15	症例⑧ 1か月の入院で活動量が減少し、その結果、その結果運動耐容能の低下した症例			活動性が低下した高齢者の特徴を踏まえ、引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
16							
17	症例⑨ 余暇活動時に易疲労を訴えるパーキンソン病の症例			「パーキンソン病」によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
18							
19	症例⑩ 長期安静によりADLの低下をきたした症例			長期安静によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
20							
21	症例⑪ 立位バランス能力の低下を認めた80歳の虚弱高齢者の症例			立位バランス能力低下によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
22							
23	症例⑫ 独居生活により徐々に活動量が軽減し、下肢の筋力低下をきたした症例			虚弱高齢者の特徴を踏まえ、引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
24							
25	症例⑬ 頭部外傷により四肢麻痺と高次脳機能障害をきたした症例			頭部外傷による四肢麻痺・高次脳機能障害によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
26							
27	症例⑭ 大腿骨頸部骨折術後、活動性が低下し自宅復帰困難をきたした症例			大腿骨頸部骨折によって引き起こされている現象を細かく分析・推察し、適切な治療プログラムを立案する。			
28							
29	まとめ			各種症例の現象について臨床的仮定・推察の方法を学び、適切な治療プログラムを立案する。			
30							

授業科目名	理学療法基礎医学特論		担当者名	森山 宏則・遠藤 由香			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	4	通年	必修	講義
60							
授業概要	解剖学・運動学・生理学について、国家試験過去問題などを通して解答や解説をおこなう。						
学習到達目標	理学療法基礎医学分野について理解を深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	循環器系			心臓の構造と機能、心電図を理解する。			
2							
3	消化器系			消化器系の構造と生理機能について理解する。			
4							
5	泌尿器系			腎臓の構造と機能について理解する。			
6							
7	生殖器系			生殖器系の構造と機能について理解する。			
8							
9	呼吸器系			呼吸器の構造や機能について理解する。			
10							
11	代謝			基礎代謝、糖代謝等について理解する。			
12							
13	体温調節			体温調節能について理解する。			
14							
15	内分泌系			ホルモンの種類、機能について理解する。			
16							
17	発生と組織			細胞の構造、細胞膜電位等について理解する。			
18							
19	中枢神経系①			中枢神経系の解剖について理解する。			
20							
21	中枢神経系②			伝導路について理解する。			
22							
23	末梢神経系			神経線維、反射と脳神経、自律神経等について理解する。			
24							
25	骨格筋			筋繊維の構造、筋収縮のメカニズムについて理解する。			
26							
27	感覚			体性感覚、視覚伝導路等について理解する。			
28							
29	体表解剖			体表解剖について理解する。			
30							

31	運動学総論	力学の基礎(てこ、モーメント)について理解する。
32		
33	顔面・頭頸部・体幹の運動と筋	顔面・頭頸部・体幹の運動と筋について理解する。
34		
35	上肢の筋と運動	上肢の筋と運動について理解する。
36		
37	下肢の筋と運動	下肢の筋と運動について理解する。
38		
39	姿勢	重心線と関節に掛かるモーメントについて理解する。
40		
41	正常歩行	正常歩行における重心移動や各関節の動きを理解する。
42		
43	異常歩行	様々な異常歩行について説明できる。
44		
45	運動学習	運動学習について理解する。
46		
47	運動発達	小児の反射・反応について理解する。
48		
49	問題演習(解答と解説)①	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
50		
51	問題演習(解答と解説)②	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
52		
53	問題演習(解答と解説)③	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
54		
55	問題演習(解答と解説)④	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
56		
57	問題演習(解答と解説)⑤	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
58		
59	問題演習(解答と解説)⑥	国家試験過去問題などを通して理学療法基礎医学分野について理解を深める。
60		

授業科目名	理学療法臨床医学特論		担当者名	遠藤 由香・福原 浩之・山崎 瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 臨床医学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	4	通年	必修	講義
60							
授業概要	病理学・内科学・神経内科学・整形外科学について、国家試験過去問題などを通して解答や解説をおこなう。						
学習到達目標	理学療法臨床医学分野について理解を深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	創傷治癒について			創傷治癒について理解できる。			
2							
3	炎症について			炎症について理解できる。			
4							
5	感染について			感染について理解できる。			
6							
7	腫瘍について			腫瘍について理解できる。			
8							
9	病因について			病因について理解できる。			
10							
11	循環器疾患について			循環器疾患について理解できる。			
12							
13	代謝性疾患について			代謝性疾患について理解できる。			
14							
15	消化器疾患について			消化器疾患について理解できる。			
16							
17	肝疾患について			肝疾患について理解できる。			
18							
19	内分泌疾患について			内分泌疾患について理解できる。			
20							
21	膠原病・自己免疫疾患について			膠原病・自己免疫疾患について理解できる。			
22							
23	泌尿器疾患について			泌尿器疾患について理解できる。			
24							
25	血液疾患について			血液疾患について理解できる。			
26							
27	薬物療法について			薬物療法について理解できる。			
28							
29	骨折について			骨折について理解できる。			
30							

31	関節リウマチについて	関節リウマチについて理解できる。
32		
33	脊椎疾患について	脊椎疾患について理解できる。
34		
35	変性系関節症について	変性系関節症について理解できる。
36		
37	小児整形外科疾患について	小児整形外科疾患について理解できる。
38		
39	脊髄損傷について	脊髄損傷について理解できる。
40		
41	切断について	切断について理解できる。
42		
43	骨粗鬆症について	骨粗鬆症について理解できる。
44		
45	脳血管障害について	脳血管障害について理解できる。
46		
47	高次脳機能障害について	高次脳機能障害について理解できる。
48		
49	変性疾患について	変性疾患について理解できる。
50		
51	嚥下障害について	嚥下障害について理解できる。
52		
53	正常圧水頭症について	正常圧水頭症について理解できる。
54		
55	運動ニューロン疾患について	運動ニューロン疾患について理解できる。
56		
57	脱髄疾患について	脱髄疾患について理解できる。
58		
59	末梢神経障害について	末梢神経障害について理解できる。
60		

授業科目名	理学療法評価学特論		担当者名	山田 剛・水野 豊			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	4	後期	必修	講義
60							
授業概要	基礎理学療法、理学療法評価学、理学療法治療学(基本的介入)、地域理学療法学について、国家試験過去問題などを通して解答や解説をおこなう。						
学習到達目標	理学療法評価学分野について理解を深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	理学療法の基本について			理学療法の基本について理解できる。			
2							
3	理学療法の範囲について			理学療法の範囲について理解できる。			
4							
5	理学療法学の基礎について			理学療法学の基礎について理解できる。			
6							
7	評価実施について			評価実施について理解できる。			
8							
9	全身状態, 局所所見について			全身状態, 局所所見について理解できる。			
10							
11	呼吸, 循環, 代謝について			呼吸, 循環, 代謝について理解できる。			
12							
13	運動(徒手筋力テスト)について			運動(徒手筋力テスト)について理解できる。			
14							
15	運動(筋力)について			運動(筋力)について理解できる。			
16							
17	運動(代償動作)について			運動(代償動作)について理解できる。			
18							
19	運動(関節可動域測定法)について			運動(関節可動域測定法)について理解できる。			
20							
21	運動(身体測定)について			運動(身体測定)について理解できる。			
22							
23	運動(反射)について			運動(反射)について理解できる。			
24							
25	運動(持久力, 平衡機能)について			運動(持久力, 平衡機能)について理解できる。			
26							
27	運動(脳神経)について			運動(脳神経)について理解できる。			
28							
29	運動(整形外科テスト)について			運動(整形外科テスト)について理解できる。			
30							

31	歩行・運動パターンについて	歩行・運動パターンについて理解できる。
32		
33	感覚, 痛みについて	感覚, 痛みについて理解できる。
34		
35	心身機能について	心身機能について理解できる。
36		
37	各種疾患, 障害別評価(骨関節障害)について	各種疾患, 障害別評価(骨関節障害)について理解できる。
38		
39	各種疾患, 障害別評価(中枢神経障害)について	各種疾患, 障害別評価(中枢神経障害)について理解できる。
40		
41	各種疾患, 障害別評価(末梢神経・筋障害)について	各種疾患, 障害別評価(末梢神経・筋障害)について理解できる。
42		
43	各種疾患, 障害別評価(がん)について	各種疾患, 障害別評価(がん)について理解できる。
44		
45	日常生活活動(ADL)について	日常生活活動(ADL)について理解できる。
46		
47	運動療法について	運動療法について理解できる。
48		
49	物理療法について	物理療法について理解できる。
50		
51	義肢, 装具等を用いる療法について	義肢, 装具等を用いる療法について理解できる。
52		
53	日常生活活動について	日常生活活動について理解できる。
54		
55	法・制度と地域社会について	法・制度と地域社会について理解できる。
56		
57	訪問理学療法について	訪問理学療法について理解できる。
58		
59	バリアフリーとユニバーサルデザインについて	バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解できる。
60		

授業科目名	理学療法治療学特論		担当者名	福原 浩之・山崎 瞬			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント2023 専門基礎分野 基礎医学 (医歯薬出版)	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	理学療法科	4	後期	必修	講義
60							
授業概要	理学療法治療学について、国家試験過去問題などを通し標準的な知識について学ぶ。						
学習到達目標	理学療法治療学分野について学んできた内容の理解をさらに深める。						
評価方法	筆記試験						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	骨関節障害について			変形性関節症の理学療法について理解する。			
2							
3	骨関節障害について			骨折の理学療法について理解する。			
4							
5	骨関節障害について			脱臼・靭帯損傷の理学療法について理解する。			
6							
7	骨関節障害について			関節リウマチの理学療法について理解する。			
8							
9	骨関節障害について			スポーツ外傷の理学療法について理解する。			
10							
11	骨関節障害について			外傷の理学療法について理解する。			
12							
13	骨関節障害について			脊椎疾患の理学療法について理解する。			
14							
15	骨関節障害について			肩関節周囲炎の理学療法について理解する。			
16							
17	骨関節障害について			骨壊死性疾患の理学療法について理解する。			
18							
19	中枢神経障害について			脳血管障害の理学療法について理解する。			
20							
21	中枢神経障害について			高次脳機能障害について理解する。			
22							
23	中枢神経障害について			外傷性脳損傷の理学療法について理解する。			
24							
25	中枢神経障害について			パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法について理解する。			
26							
27	中枢神経障害について			脊髄小脳変性症と関連疾患の理学療法について理解する。			
28							
29	中枢神経障害について			多発性硬化症の理学療法について理解する。			
30							

31	中枢神経障害について	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について理解する。
32		
33	中枢神経障害について	脊髄損傷の理学療法について理解する。
34		
35	末梢神経障害・筋障害について	ニューロパチーの理学療法について理解する。
36		
37	末梢神経障害・筋障害について	末梢神経障害の理学療法について理解する。
38		
39	末梢神経障害・筋障害について	末梢神経障害の理学療法について理解する。
40		
41	末梢神経障害・筋障害について	筋ジストロフィーの理学療法について理解する。
42		
43	末梢神経障害・筋障害について	筋疾患・多発性筋炎・重症筋無力症・末梢性めまいの理学療法について理解する。
44		
45	呼吸器・循環器・代謝障害について	呼吸器障害の理学療法について理解する。
46		
47	呼吸器・循環器・代謝障害について	循環器障害の理学療法について理解する。
48		
49	呼吸器・循環器・代謝障害について	代謝障害の理学療法について理解する。
50		
51	運動・発達障害について	脳性麻痺・二分脊椎・運動発達遅滞・ダウン症候群・骨系統疾患・小児の理学療法について理解する。
52		
53	運動・発達障害について	脳性麻痺・二分脊椎・運動発達遅滞・ダウン症候群・骨系統疾患・小児の理学療法について理解する。
54		
55	運動・発達障害について	脳性麻痺・二分脊椎・運動発達遅滞・ダウン症候群・骨系統疾患・小児の理学療法について理解する。
56		
57	その他の障害	熱傷・悪性腫瘍・有痛性疾患・廃用症候群について理解する。
58		
59	その他の障害	熱傷・悪性腫瘍・有痛性疾患・廃用症候群について理解する。
60		

授業科目名	ヘルスプロモーション論		担当者名	高田 拓明			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	なし	単位数	学 科	学年	学期	科目種別	授業方法
		1					
		時間数	理学療法科	4	後期	必修	講義
15							
授業概要	ヘルスプロモーションの理念に基づき、小児から高齢者の健康とQOLを高めるためのライフスタイル及びヘルスプロモーションを展開する上でのモデルや評価法について理解を深める。						
学習到達目標	健康教育に関する学びに基づいて、世代別における健康的なライフスタイルを理解するために必要となる知識・技術を習得できる。						
評価方法	評価は、定期試験(評価60%)、レポート課題(評価20%)、出席状況(評価20%)により、総合的に判断する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	健康増進の歴史の変遷			健康増進の歴史の変遷を理解する。			
2	健康増進の概要と実施方法			健康増進の概要と実施方法を理解する。			
3	健康増進におけるリハビリテーションの展開			リハビリテーションの展開を理解する。			
4	健康増進におけるリハビリテーションの現状と課題			リハビリテーションの現状と課題を理解する。			
5	小児期における健康増進			小児期における心身の発育発達を理解する。			
6	成長期における健康増進			成長期における心身の発育発達を理解する。			
7	中年期における健康増進 ① (心身機能の変化)			中年期における心身の変化を理解する。			
8	中年期における健康増進 ② (疾病構造の変化)			「成人病」から「生活習慣病」を理解する。			
9	中年期における健康増進 ③ (身体機能の変化)			身体変化における疾病のリスクを理解する。			
10	中年期における健康増進 ④ (精神機能の変化)			「躁うつ病」の症状と特徴を理解する。			
11	高齢期(一般高齢者)における健康増進 ①			「介護予防」の取り組みの背景を理解する。			
12	高齢期(一般高齢者)における健康増進 ②			「一般高齢者」と「特定高齢者」を理解する。			
13	高齢期(要介護高齢者)における健康増進 ①			「要介護高齢者」の身体特性を理解する。			
14	高齢期(要介護高齢者)における健康増進 ②			「廃用症候群」の予防を理解する。			
15	まとめ			理学療法士としての健康増進を理解する。			

授業科目名	総合臨床実習Ⅱ		担当者名	臨床実習指導者及び学内教員(山崎瞬、山田剛、森山宏則、遠藤由香、福原浩之、水野豊)			
			実務経験	理学療法士として病院等での勤務経験あり			
教科書	指定なし	単位数	学 科	学 年	学 期	科目種別	授業方法
		9					
		時間数	理学療法科	4	前期	必修	実習
405							
授業概要	臨床実習指導者の指導・監督の下で、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに再評価、治療効果判定、治療計画の変更等の過程を学ぶ。診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加などを経験する。						
学習到達目標	専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。理学療法を施行する為の情報収集、検査測定ができる。対象者についての評価ができる。理学療法の治療計画の立案ができる。理学療法を実施できる。症例に即した基礎知識を活用できる。再評価や最終評価を行い、治療プログラムの修正を行うことができる。						
評価方法	出席率、臨床実習指導者報告書、作成課題記録物、セミナー発表及び実習前後のOSCEにより総合的に評価する。						
時数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
405	<p>理学療法の知識・技術、医療専門職としての態度を統合しながら、理学療法士に必要な臨床的問題解決能力を身につけることを目的とする。臨床実習指導者の指導・監督の下で、対象者の評価、問題点抽出、障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに再評価、治療効果判定、治療計画の変更等の一連の基本的な理学療法の過程を学ぶ。診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加などを経験する。</p> <p>学内では実習前後にOSCE、実習後にセミナー発表を実施する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な臨床実習として、専門職としての理学療法士の能力を養う。 ・病院／施設や他の専門職の業務内容への理解を深める。 ・対象者との接遇や職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、医療従事者としての態度、心構えを習得する。 ・経験した内容や自分の考えを記録し、論理的かつ簡潔に発表することができる。 ・間接的情報収集ができる ・情報を整理し、問診ができる ・情報をまとめ、対象者に必要な検査測定項目をあげられる ・必要とあげた検査測定項目の意味、目的を説明できる ・直接的情報収集(検査・測定等)を実施できる ・得られた情報、検査測定結果をもとに、指導者から補足や説明を受けながら対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践を学ぶ ・診療録等への記載方法を学ぶ ・多職種連携について経験する ・診療チームの一員として加わり、様々な疾患・状態の対象者を経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学ぶ。 ・これまで習得した知識と技術を応用して、評価、治療プログラムの作成・実施、経過観察等の一連の基本的な理学療法業務を、指導の下に実施できるようになる。 			